

男女共同参画社会に関する住民意識調査 結果報告書



平成23年1月

利府町生活環境課町民生活班

1. 調査の概要

① 調査の目的

町民の家庭、職場などの日常生活の様々な場面における行動実態や男女平等の意識を把握・分析し、基本計画の推進状況を確認するとともに、「第2次利府町男女共同参画基本計画」策定の参考とする。

② 調査の対象及び抽出方法

個人：18歳以上80歳未満の町民1,000名（無作為抽出）

法人：町内の従業員5名以上の商工業者、農協、企業など200社（無作為抽出）

③ 回収・集計状況

	配布数	回収数	回収率 (回収数／配布数)
個人	1,000 通	356 通	35.6%
法人	200 通	61 通	30.5%
計	1,200 通	417 通	34.8%

④ 調査方法

郵送による配布及び回収。

⑤ 調査の実施時期

平成22年8月23日から9月3日

⑥ 調査報告書の見方

- ・図表における数値の表記は、四捨五入を基本としています。したがって合計と内訳が一致しない場合があります。
- ・複数回答の設問については、回答者数に対する割合を示しています。

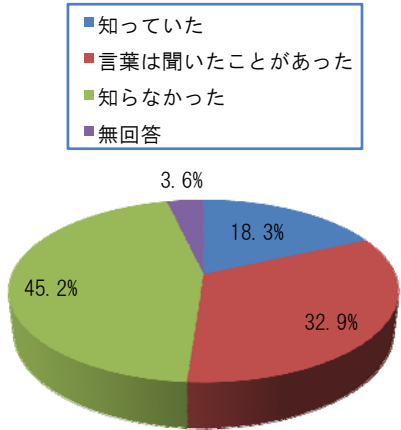
2. 男女共同参画社会に関する住民意識調査結果（個人）

(1) 属性等

F 0 【利府町男女共同参画基本計画を知っていましたか】

「知っていた」、「言葉は聞いたことがあった」を合わせると 50%を超えている。

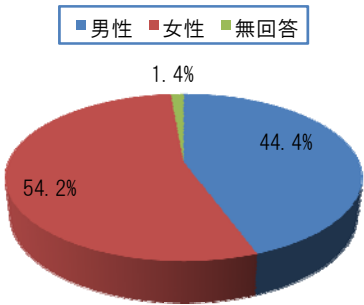
選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
知っていた	65	18.3%	124	15.8%
言葉は聞いたことがあった	117	32.9%	313	39.9%
知らなかった	161	45.2%	327	41.7%
無回答	13	3.6%	20	2.6%
計	356	100.0%	784	100.0%



F 1 【性別】

回答者のうち、男性 44.4%、女性 54.2%となっており、前回とほぼ同様の結果となり、女性の関心が高い傾向である。

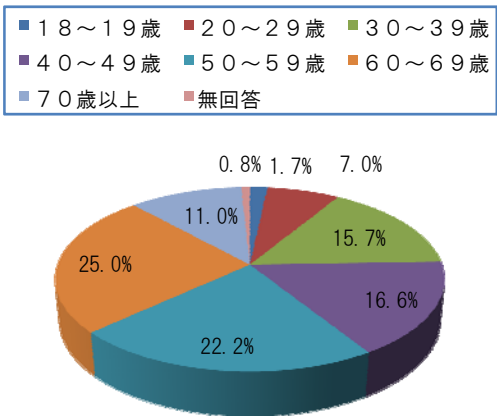
選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
男性	158	44.4%	345	44.0%
女性	193	54.2%	421	53.7%
無回答	5	1.4%	18	2.3%
計	356	100.0%	784	100.0%



F 2 【年齢】

回答者の年齢は、60～69 歳、50～59 歳、40～49 歳の割合が高くなっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
18～19歳	6	1.7%	2.8%
20～29歳	25	7.0%	6.4%
30～39歳	56	15.7%	13.3%
40～49歳	59	16.6%	19.0%
50～59歳	79	22.2%	25.1%
60～69歳	89	25.0%	19.9%
70歳以上	39	11.0%	11.6%
無回答	3	0.8%	1.9%
計	356	100.0%	100.0%



F 3 【お住まい】

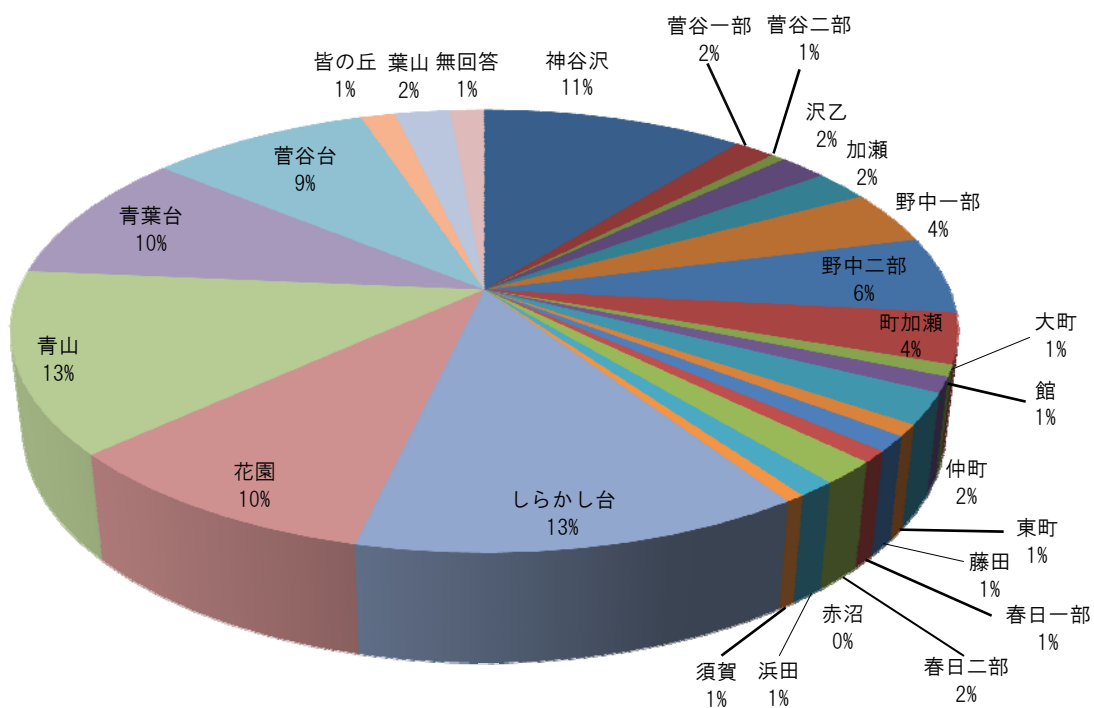
既存地区にお住まいの方は 40.6%、新興住宅地は 59.4%となっている。前回と比べると、既存地区とも、大きな増減はない。

*新興住宅地…しらかし台、花園、青山、青葉台、菅谷台、皆の丘、葉山

*入菅谷地区は、平成19年4月に沢乙地区と合併

*葉山地区は、平成18年4月から

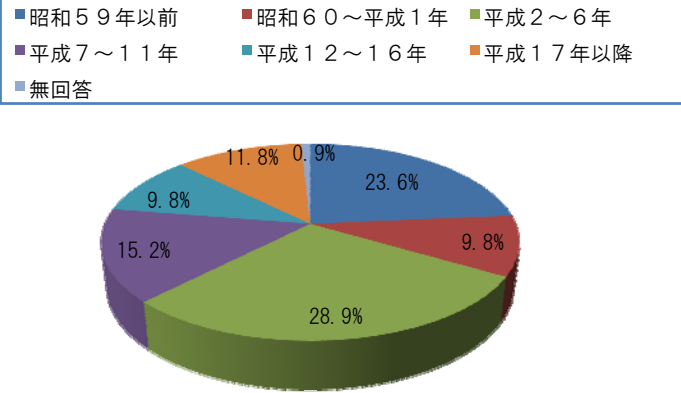
選択項目	今回		前回	選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比		回答数	構成比	構成比
神谷沢	38	10.7%	10.5%	春日一部	3	0.8%	0.6%
菅谷一部	6	1.7%	1.9%	春日二部	6	1.7%	1.8%
菅谷二部	2	0.6%	0.6%	赤沼	0	0.0%	0.8%
沢乙	7	2.0%	1.9%	浜田	4	1.1%	0.9%
加瀬	8	2.2%	2.0%	須賀	2	0.6%	0.9%
野中一部	14	3.9%	4.3%	しらかし台	46	12.9%	15.3%
野中二部	20	5.6%	5.2%	花園	34	9.6%	9.8%
町加瀬	13	3.7%	2.2%	青山	47	13.2%	11.0%
大町	3	0.8%	1.5%	青葉台	34	9.6%	9.3%
館	4	1.1%	0.6%	菅谷台	32	9.0%	9.8%
仲町	8	2.2%	1.9%	皆の丘	5	1.4%	0.9%
東町	3	0.8%	1.1%	葉山	8	2.3%	2.2%
藤田	4	1.1%	0.9%	無回答	5	1.4%	1.9%
				計	356	100.0%	99.8%



F 4 【居住年数】

平成 2～6 年に居住した人が 28.9%と多くなっている。次いで、昭和 59 年以前の人 が 23.6%と多くなっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
昭和 5 9 年以前	84	23.6%	23.5%
昭和 6 0 ～平成 1 年	35	9.8%	10.6%
平成 2 ～6 年	103	28.9%	28.1%
平成 7 ～1 1 年	54	15.2%	16.5%
平成 1 2 ～1 6 年	35	9.8%	13.5%
平成 1 7 年以降	42	11.8%	6.1%
無回答	3	0.9%	1.8%
計	356	100.0%	100.1%

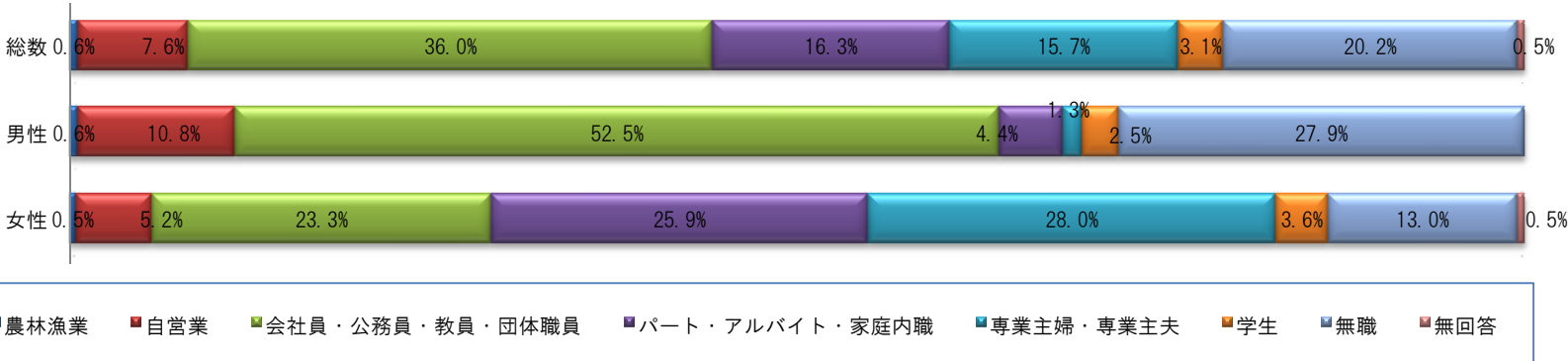


F 5 【職業】

職業を持っている人は 60.5%、持っていない人は 39%となっている。男女別に見ると、男性では、職業を持っている人は 68.3%で、「会社員・公務員・教員・団体職員」の割合が高くなっている。女性では、職業を持っている人は、54.9%で、「専業主婦」の割合が高く、次いで「パート・アルバイト・家庭内職」の割合が高くなっている。前回と比べるとほぼ同様の結果となった。

選択項目	総数				男性				女性			
	今回		前回		今回		前回		今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
農林漁業	2	0.6%	14	1.8%	1	0.6%	8	2.3%	1	0.5%	6	2.4%
自営業	27	7.6%	55	7.0%	17	10.8%	28	8.1%	10	5.2%	26	5.6%
会社員・公務員・教員・団体職員	128	36.0%	289	36.9%	83	52.5%	202	58.6%	45	23.3%	87	19.5%
パート・アルバイト・家庭内職	58	16.3%	133	17.0%	7	4.4%	22	6.4%	50	25.9%	110	24.1%
専業主婦・専業主夫	56	15.7%	128	16.3%	2	1.3%	1	0.3%	54	28.0%	125	31.2%
学生	11	3.1%	32	4.1%	4	2.5%	17	4.9%	7	3.6%	15	4.6%
無職	72	20.2%	116	14.8%	44	27.9%	64	18.6%	25	13.0%	50	12.1%
無回答	2	0.5%	17	2.2%	0	0.0%	3	0.9%	1	0.5%	2	0.4%
計	356	100.0%	784	100.1%	158	100.0%	345	100.1%	193	100.0%	421	99.9%

F 5 【職業】



F 5 - 1 - 参考 - 【職業・女性の職業と末子の年齢】

選択項目	総数			7歳未満			7歳以上18歳未満			18歳以上			子供はいない			無回答		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
農林漁業（自営の方のみ）	1	0.5%	1.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.0%	2.8%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
自営業（商業、工業、サービス業など）	10	5.2%	6.2%	0	0.0%	4.8%	0	0.0%	6.8%	9	9.4%	8.0%	1	2.7%	2.9%	0	0.0%	0.0%
会社員・公務員・教員・団体職員	45	23.5%	20.7%	4	19.0%	35.7%	13	38.2%	23.3%	12	12.5%	9.4%	16	43.3%	46.4%	0	0.0%	12.5%
パート・アルバイト・家庭内職	48	25.0%	26.1%	1	4.8%	21.4%	16	47.1%	46.6%	23	24.0%	24.9%	6	16.2%	15.9%	2	50.0%	12.5%
専業主婦・専業主夫（パートタイムやアルバイトで働いていない方）	55	28.7%	29.7%	13	61.9%	38.1%	5	14.7%	23.3%	32	33.3%	36.6%	4	10.8%	10.1%	1	25.0%	29.2%
学生	7	3.6%	3.6%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.5%	7	18.9%	20.3%	0	0.0%	0.0%
無職	25	13.0%	11.9%	3	14.3%	0.0%	0	0.0%	0.0%	18	18.8%	17.8%	3	8.1%	4.3%	1	25.0%	37.5%
無回答	1	0.5%	0.5%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	1.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	8.3%
計	192	100.0%	100.1%	21	100.0%	100.0%	34	100.0%	100.0%	96	100.0%	100.0%	37	100.0%	99.9%	4	100.0%	100.0%

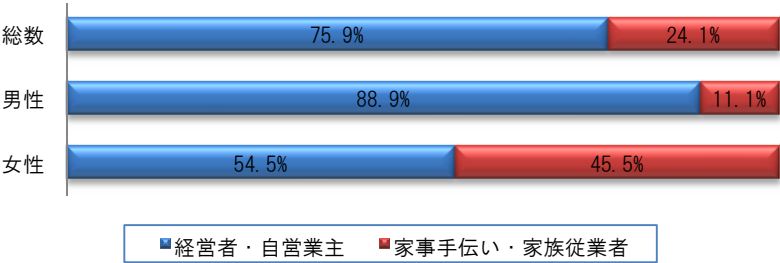
F 5 - 1 - 参考 - 【職業・年齢別】

選択項目	総数		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
農林漁業	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%
自営業	27	7.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	1	1.7%	7	8.8%	16	18.0%	2	5.1%	0	0.0%
会社員・公務員・教員・団体職員	128	36.0%	1	16.7%	12	48.0%	31	55.4%	33	55.9%	36	45.6%	14	15.7%	1	2.6%	0	0.0%
パート・アルバイト・家庭内職	58	16.3%	0	0.0%	2	8.0%	5	8.9%	16	27.1%	19	24.0%	15	16.9%	1	2.6%	0	0.0%
専業主婦・専業主夫	56	15.7%	0	0.0%	0	0.0%	16	28.6%	7	11.9%	12	15.2%	15	16.9%	6	15.4%	0	0.0%
学生	11	3.1%	5	83.3%	6	24.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無職	72	20.2%	0	0.0%	5	20.0%	3	5.3%	2	3.4%	4	5.1%	28	31.4%	28	71.7%	2	66.7%
無回答	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	1	33.3%
計	356	100.0%	6	100.0%	25	100.0%	56	100.0%	59	100.0%	79	100.0%	89	100.0%	39	100.0%	3	100.0%

F 5 - 2 【「農林漁業」及び「自営業」を選ばれた方】

農林漁業及び自営業の方では、男性・女性共「経営者・自営業主」の割合が高くなっているが、前回に比べて男性の割合は低く、女性の割合が高くなっている。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
経営者・自営業主	22	75.9%	71.0%	16	88.9%	94.4%	6	54.5%	46.9%
家事手伝い・家族従業者	7	24.1%	29.0%	2	11.1%	5.6%	5	45.5%	53.1%
計	29	100.0%	100.0%	18	100.0%	100.0%	11	100.0%	100.0%



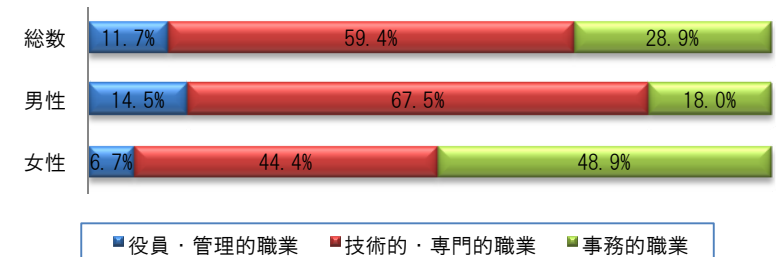
F 5 - 3 【「会社員・公務員・教員・団体職員」を選ばれた方】

「会社員・公務員・教員・団体職員」を選ばれた方では、男性は「技術的・専門的職業」の割合が高く、女性は「事務的職業」の割合が高くなっている。

「役員・管理的職業」の割合では、男性の14.5%に対して、女性は6.7%にとどまっている。

前回と比べると、男性・女性共の「役員・管理的職業」の割合は低くなっており、「事務的職業」の割合は高くなっている。

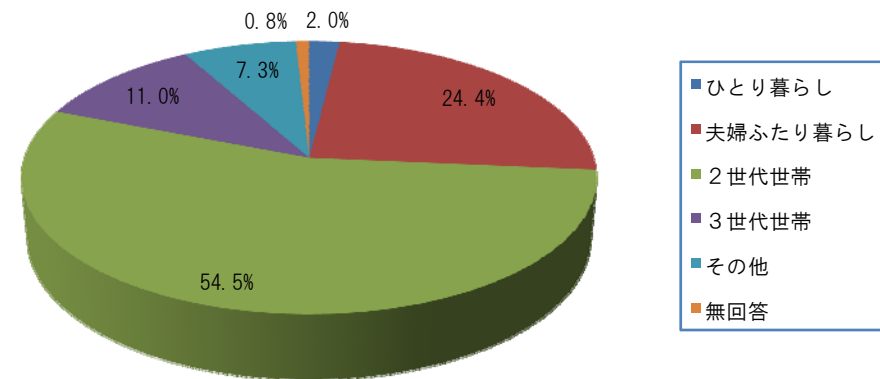
選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
役員・管理的職業	15	11.7%	23.5%	12	14.5%	29.7%	3	6.7%	9.2%
技術的・専門的職業	76	59.4%	54.7%	56	67.5%	55.9%	20	44.4%	51.7%
事務的職業	37	28.9%	21.8%	15	18.0%	14.4%	22	48.9%	39.1%
計	128	100.0%	100.0%	83	100.0%	100.0%	45	100.0%	100.0%



F 6 【家族構成】あなたが現在同居しているご家族の構成は、次のうちどれですか。

「2世代世帯」の割合が最も高く、次いで「夫婦ふたり暮らし」の割合が高くなっている。前回とほぼ同様の結果となった。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
ひとり暮らし	7	2.0%	2.6%
夫婦ふたり暮らし	87	24.4%	20.8%
2世代世帯	194	54.5%	46.6%
3世代世帯	39	11.0%	12.1%
その他	26	7.3%	14.9%
無回答	3	0.8%	3.1%
計	356	100.0%	100.1%



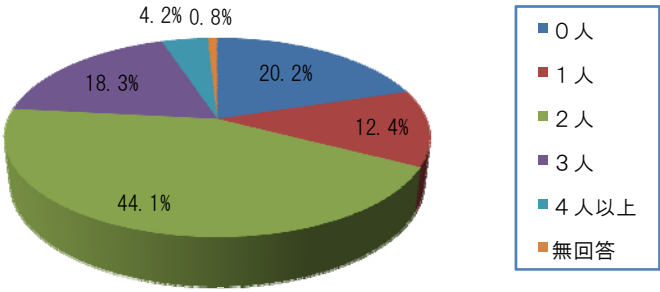
F 6 - 1 - 参考 - 【家族構成・年齢別】

選択項目	総数		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ひとり暮らし	7	2.0%	1	16.7%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	2	2.2%	2	5.1%
夫婦ふたり暮らし	87	24.4%	0	0.0%	1	4.0%	8	14.3%	4	6.8%	22	27.8%	37	41.6%	15	38.5%
2世代世帯	194	54.5%	4	66.6%	14	56.0%	41	73.2%	46	77.9%	41	51.9%	30	33.7%	16	41.0%
3世代世帯	39	11.0%	1	16.7%	6	24.0%	4	7.1%	5	8.5%	11	13.9%	7	7.9%	5	12.8%
その他	26	7.3%	0	0.0%	3	12.0%	2	3.6%	4	6.8%	4	5.1%	12	13.5%	1	2.6%
無回答	3	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
計	356	100.0%	6	100.0%	25	100.0%	56	100.0%	59	100.0%	79	100.0%	89	100.0%	39	100.0%

F 7 【子どもの数】あなたのお子さんは何人ですか。

「2人」の割合が最も高く、次いで「3人」の割合が高くなっている。前回と比べると「0人」の割合が高い結果となった。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
0人	72	20.2%	17.2%
1人	44	12.4%	12.0%
2人	157	44.1%	44.6%
3人	65	18.3%	19.3%
4人以上	15	4.2%	3.6%
無回答	3	0.8%	3.3%
計	356	100.0%	100.0%



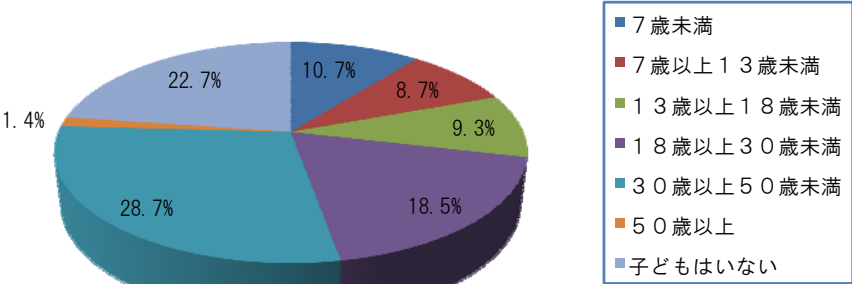
F 7 - 1 - 参考 - 【子どもの数・年齢別】

選択項目	総数		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	72	20.2%	6	100.0%	20	80.0%	21	37.5%	9	15.3%	6	7.6%	7	7.9%	3	7.7%	0	0.0%
1人	44	12.4%	0	0.0%	3	12.0%	8	14.3%	10	16.9%	6	7.6%	9	10.1%	8	20.5%	0	0.0%
2人	157	44.1%	0	0.0%	2	8.0%	21	37.5%	26	44.1%	37	46.8%	49	55.1%	21	53.8%	1	33.3%
3人	65	18.3%	0	0.0%	0	0.0%	5	8.9%	10	16.9%	26	32.9%	18	20.2%	5	12.8%	1	33.3%
4人以上	15	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	4	6.8%	4	5.1%	4	4.5%	2	5.2%	0	0.0%
無回答	3	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.2%	0	0.0%	1	33.4%
計	356	100.0%	6	100.0%	25	100.0%	56	100.0%	59	100.0%	79	100.0%	89	100.0%	39	100.0%	3	100.0%

F 8 【末子の年齢】一番下のお子さんはいくつですか。

7歳未満の未就学児のいる人が10.7%、7歳以上18歳未満の就学している子どもを持つ人が18.0%となっている。前回とほぼ同様の結果となった。前回に比べて、「30歳以上50歳未満」「子どもはいない」が高くなっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
7歳未満	38	10.7.%	9.8%
7歳以上13歳未満	31	8.7%	7.8%
13歳以上18歳未満	33	9.3%	9.1%
18歳以上30歳未満	66	18.5%	21.9%
30歳以上50歳未満	102	28.7%	26.0%
50歳以上	5	1.4%	1.1%
子どもはいない	81	22.7%	17.2%
無回答	0	0.0%	7.0%
計	356	100.0%	99.9%



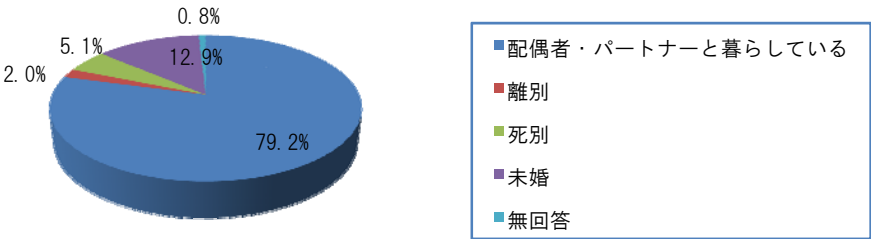
F 8 - 1 - 参考 - 【末子の年齢・年齢別】

選択項目	総数		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
7歳未満	38	10.7%	0	0.0%	6	24.0%	27	48.2%	5	8.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7歳以上13歳未満	31	8.7%	0	0.0%	1	4.0%	7	12.5%	22	37.3%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
13歳以上18歳未満	33	9.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	19	32.2%	14	17.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
18歳以上30歳未満	66	18.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.1%	49	62.0%	14	15.7%	0	0.0%	0	0.0%
30歳以上50歳未満	102	28.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	11.4%	62	69.7%	29	74.4%	2	66.7%
50歳以上	5	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	12.8%	0	0.0%
子どもはいない	81	22.7%	6	100.0%	18	72.0%	22	39.3%	10	16.9%	7	8.9%	12	13.5%	5	12.8%	1	33.3%
計	356	100.0%	6	100.0%	25	100.0%	56	100.0%	59	100.0%	79	100.0%	89	100.0%	39	100.0%	3	100.0%

F 9 【結婚】

「配偶者・パートナーと暮らしている」人が大半を占めている。前回とほぼ同様の結果となった。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
配偶者・パートナーと暮らしている	282	79.2%	77.7%
離別	7	2.0%	2.3%
死別	18	5.1%	4.1%
未婚	46	12.9%	13.5%
無回答	3	0.8%	2.4%
計	356	100.0%	100.0%



F 1 0 「配偶者・パートナーと暮らしている方」【配偶者・パートナーの職業】

男性の配偶者（妻）は、「無職」、「パート・アルバイト・家庭内職」、「専業主婦」、の割合が高くなっている。女性の配偶者（夫）は、「会社員・公務員・教員・団体職員」の割合が大半を占めている。前回と比べると「無職」の割合が高くなった。

	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
農林漁業	1	0.4%	1.8%	0	0.0%	1.4%	1	0.7%	2.2%
自営業	22	7.8%	8.1%	5	3.8%	3.8%	17	11.6%	11.8%
会社員・公務員・教員・団体職員	108	38.3%	39.1%	21	15.8%	12.8%	86	58.9%	62.9%
パート・アルバイト・家庭内職	49	17.4%	14.2%	43	32.3%	26.7%	6	4.1%	2.8%
専業主婦・専業主夫	35	12.4%	13.2%	28	21.1%	26.4%	7	4.8%	1.6%
学生	0	0.0%	0.3%	0	0.0%	0.7%	0	0.0%	0.0%
無職	66	23.4%	22.5%	36	27.0%	27.4%	28	19.2%	17.8%
無回答	1	0.4%	0.8%	0	0.0%	0.7%	1	0.7%	0.9%
計	282	100.0%	100.0%	133	100.0%	99.9%	146	100.0%	100.0%

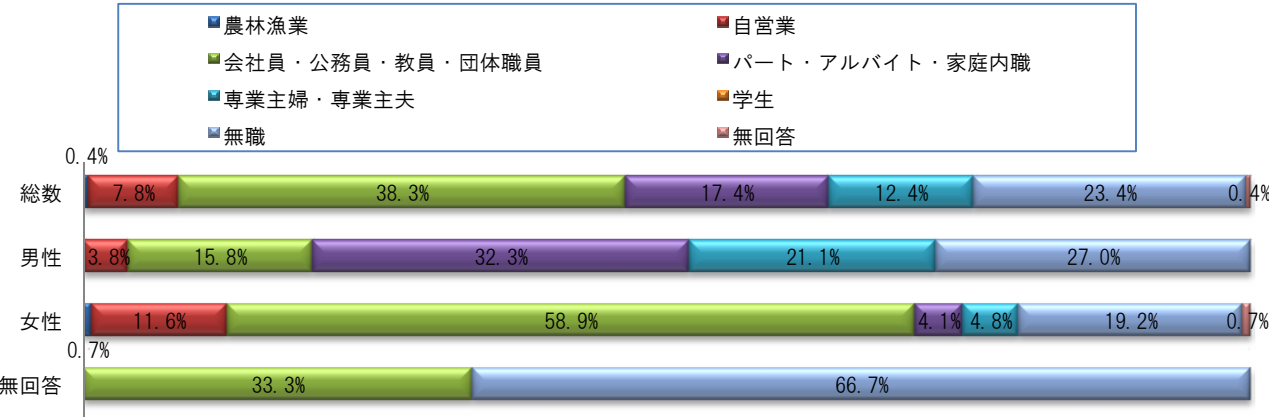
F 1 0 - 1 - 参考 - 【共働き・今回】

選択項目	回答数	共働き世帯	
		回答数	構成比
配偶者・パートナーと暮らしている	282	180	63.8%
子どもがいる人	257	167	65.0%
子どもがいない人	25	13	52.0%

F 1 0 - 1 - 参考 - 【共働き・前回】

選択項目	回答数	共働き世帯	
		回答数	構成比
配偶者・パートナーと暮らしている	614	294	47.9%
子どもがいる人	566	269	47.5%
子どもがいない人	41	22	53.7%
無回答	7	3	42.9%

F 1 0 【配偶者・パートナーの職業】



(2) 男女平等の意識

【問1】あなたは、各分野や社会全体における男女平等についてどのように思いますか。

「男性の方が非常に優遇されている」との回答は、「(エ)政治の場」で約2割となっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との回答は、「(ウ)学校教育」「(オ)法律や制度の上」以外の分野で最も高い割合となっており、これらの回答と併せると「(イ)職場」「(エ)政治の場」「(カ)社会通念・慣習・しきたり等」「(キ)社会全体」で男性優遇との回答が5割を超えている。これに対し「(ウ)学校教育」「(オ)法律や制度の上」では、「平等」の割合が高くなっている。全体的に前回とほぼ同様の結果となっている。

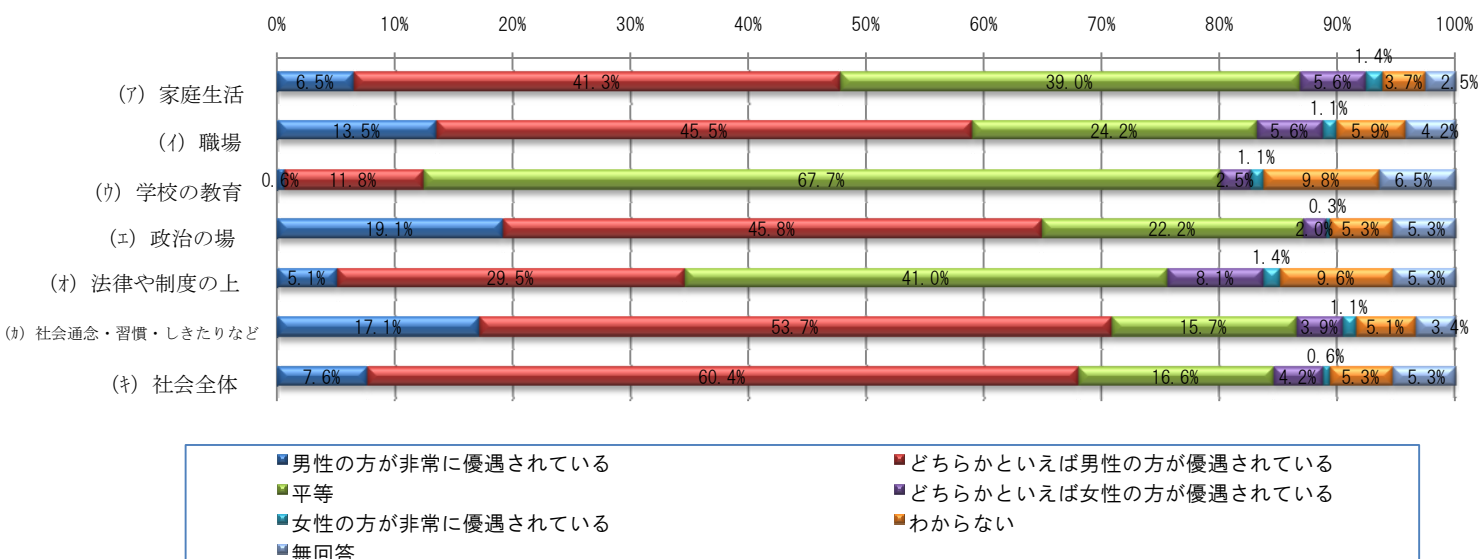
【問1・今回】

選択項目	(7)家庭生活		(イ)職場		(ウ)学校教育		(エ)政治の場		(オ)法律や制度の上		(カ)社会通念・慣習・しきたりなど		(キ)社会全体	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男性の方が非常に優遇されている	23	6.5%	48	13.5%	2	0.6%	68	19.1%	18	5.1%	61	17.1%	27	7.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	147	41.3%	162	45.5%	42	11.8%	163	45.8%	105	29.5%	191	53.7%	215	60.4%
平等	139	39.0%	86	24.2%	241	67.7%	79	22.2%	146	41.0%	56	15.7%	59	16.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	20	5.6%	20	5.6%	9	2.5%	7	2.0%	29	8.1%	14	3.9%	15	4.2%
女性の方が非常に優遇されている	5	1.4%	4	1.1%	4	1.1%	1	0.3%	5	1.4%	4	1.1%	2	0.6%
わからない	13	3.7%	21	5.9%	35	9.8%	19	5.3%	34	9.6%	18	5.1%	19	5.3%
無回答	9	2.5%	15	4.2%	23	6.5%	19	5.3%	19	5.3%	12	3.4%	19	5.3%
計	356	100.0%	356	100.0%	356	100.0%	356	100.0%	356	100.0%	356	100.0%	356	100.0%

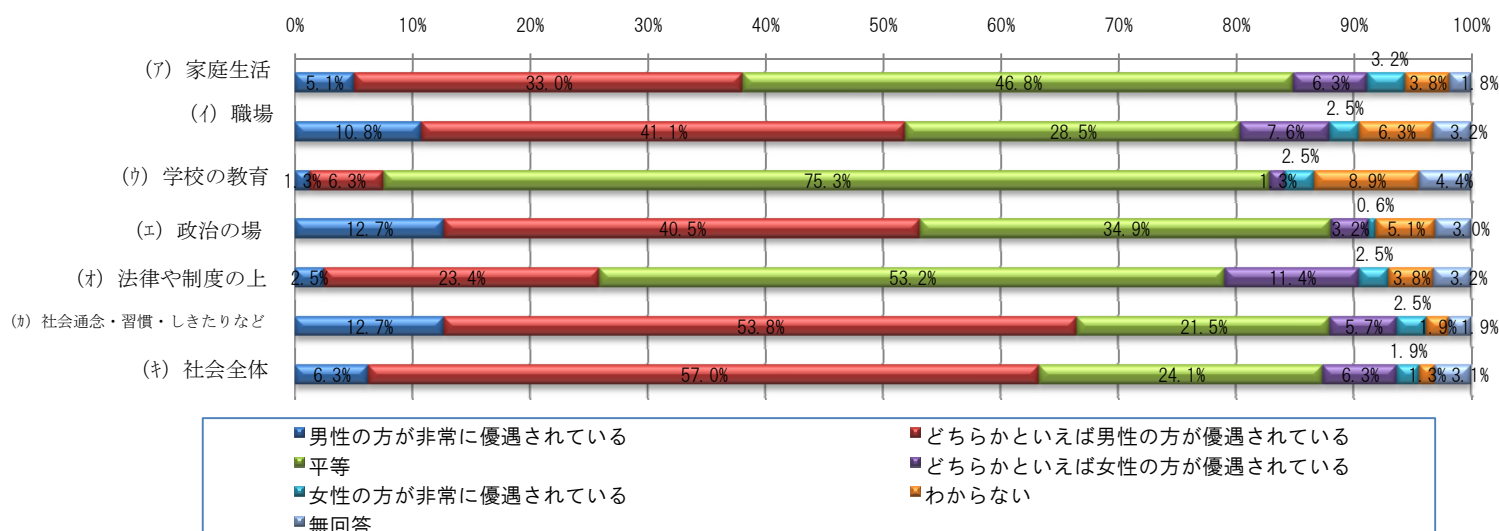
【問1・前回】

選択項目	(7)家庭生活		(イ)職場		(ウ)学校教育		(エ)政治の場		(オ)法律や制度の上		(カ)社会通念・慣習・しきたりなど		(キ)社会全体	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男性の方が非常に優遇されている	57	7.3%	118	15.1%	10	1.3%	154	19.6%	62	7.9%	127	16.2%	64	8.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	310	39.5%	319	40.7%	94	12.0%	344	43.9%	239	30.5%	414	52.8%	461	58.8%
平等	289	36.9%	199	25.4%	494	63.0%	148	18.9%	295	37.6%	115	14.7%	134	17.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	44	5.6%	36	4.6%	24	3.1%	13	1.7%	45	5.7%	25	3.2%	26	3.3%
女性の方が非常に優遇されている	13	1.7%	5	0.6%	1	0.1%	1	0.1%	8	1.0%	2	0.3%	5	0.6%
わからない	42	5.4%	61	7.8%	118	15.1%	82	10.5%	93	11.9%	60	7.7%	55	7.0%
無回答	29	3.7%	46	5.9%	43	5.5%	42	5.4%	42	5.4%	41	5.2%	39	5.0%
計	784	100.1%	784	100.1%	784	100.1%	784	100.1%	784	100.0%	784	100.1%	784	100.0%

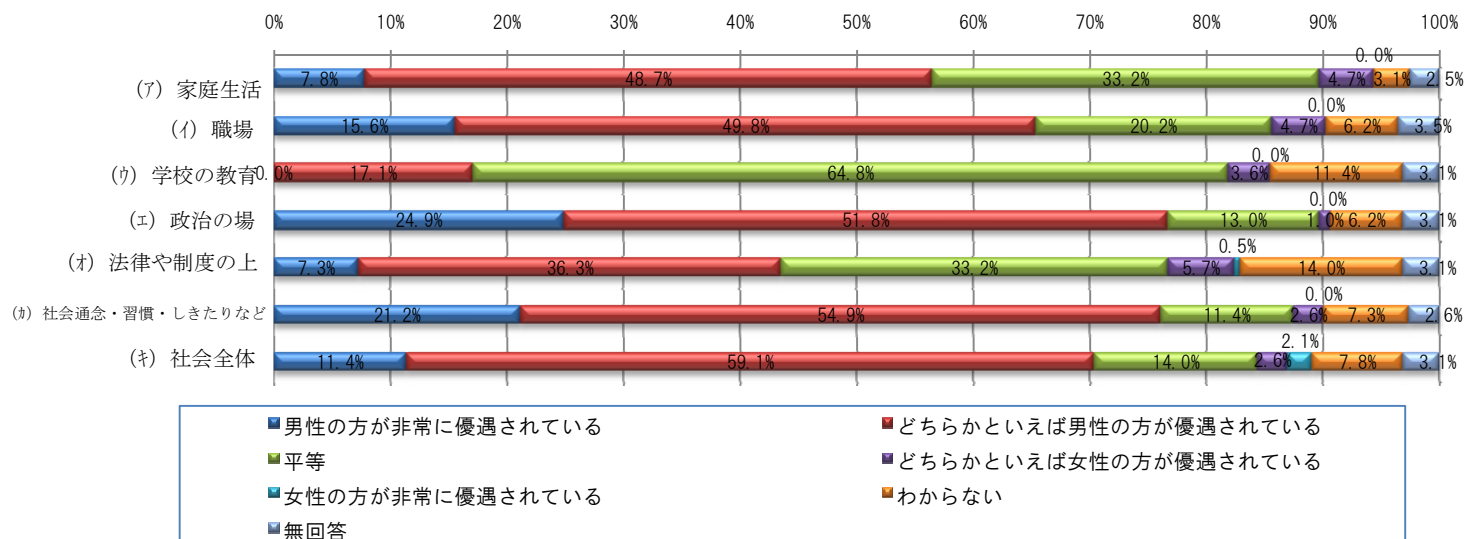
【問１・今回】



【問１・男性】



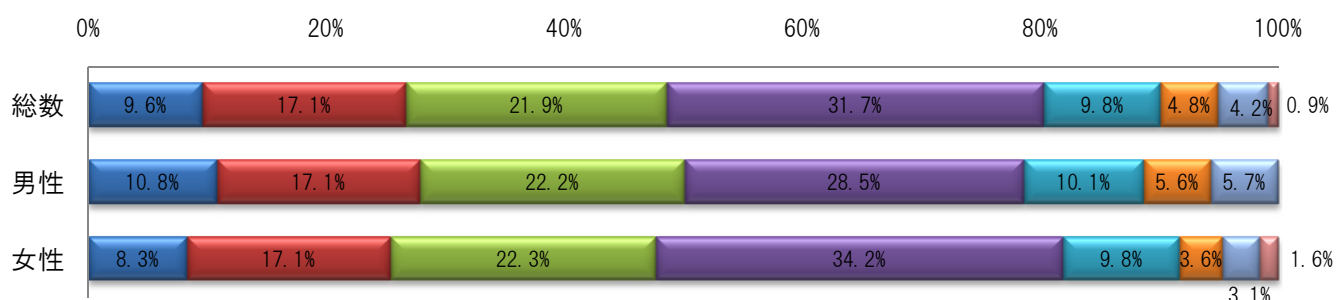
【問１・女性】



【問2】あなたは、各分野や社会全体における男女平等についてどのように思いますか。

「男女の就業機会や社会参加の機会が平等に確保されるよう、支援する施設やサービスの充実を図る」の割合が最も高く、次いで「男女が、それぞれの個性と能力を発揮できるよう、女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が高い割合となっている。前回と比べると、ほぼ同様の結果であるが、女性の「男女の就業機会や社会参加の機会が平等に確保されるよう、支援する施設やサービスの充実を図る」の割合の増加がしている。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	34	9.6%	12.2%	17	10.8%	13.0%	16	8.3%	8.1%
「男は仕事」「女は家庭」といった、固定的な社会通念、しきたりを改めること	61	17.1%	18.1%	27	17.1%	15.9%	33	17.1%	16.4%
男女が、それぞれの個性と能力を発揮できるよう、女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	78	21.9%	25.6%	35	22.2%	23.8%	43	22.3%	24.7%
男女の就業機会や社会参加の機会が平等に確保されるよう、支援する施設やサービスの充実を図ること	113	31.7%	24.3%	45	28.5%	25.5%	66	34.2%	27.8%
政府や、企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	35	9.8%	8.6%	16	10.1%	6.4%	19	9.8%	6.7%
わからない	17	4.8%	5.9%	9	5.6%	9.0%	7	3.6%	8.6%
その他	15	4.2%	2.7%	9	5.7%	4.1%	6	3.1%	4.8%
無回答	3	0.9%	2.6%	0	0.0%	2.3%	3	1.6%	3.1%
計	356	100.0%	100.0%	158	100.0%	100.0%	193	100.0%	100.2%

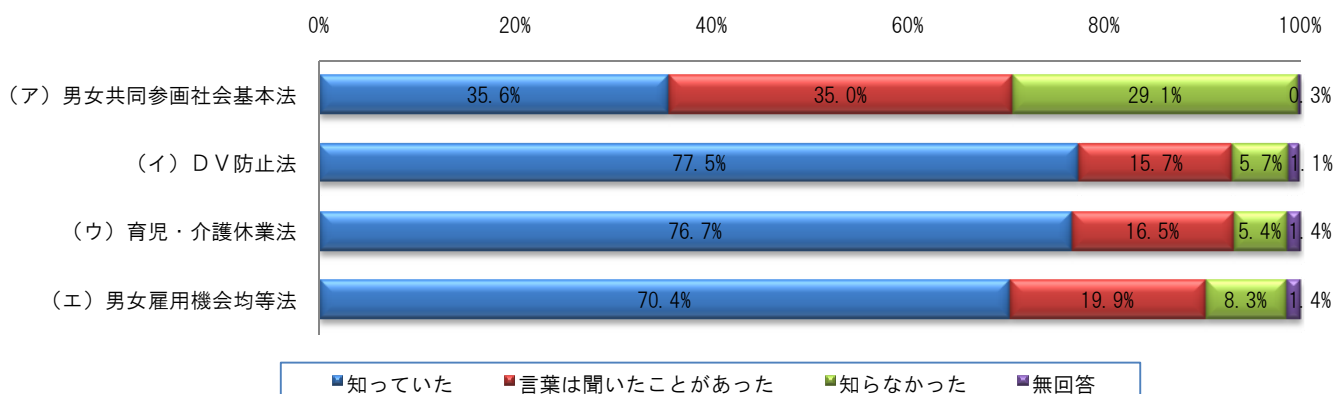


- 法律や制度上での見直し
- 固定的な社会通念、しきたりを改めること
- 女性自身が積極的に力の向上を図ること
- 支援する施設やサービスの充実を図ること
- 女性登用制度の採用・充実
- わからない
- その他
- 無回答

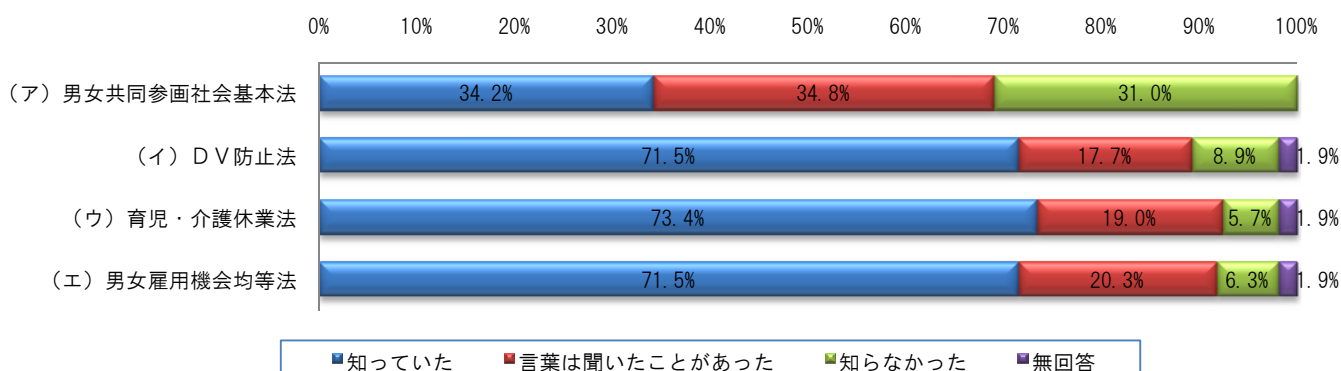
【問3】男女が、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、近年、様々な法整備がなされてきましたが、次の法律についてご存知ですか。

「(ア) 男女共同参画社会基本法」に関しては、他の法律に比べ「知っていた」の割合が低くなっている。「(イ) DV防止法」、「(ウ) 育児・介護休業法」、「(エ) 男女雇用機会均等法」に関しては、約7割が知っていたと回答している。男女別でみると「(イ) DV防止法」、「(ウ) 育児・介護休業法」で女性の「知っていた」の割合が高くなっている。前回とほぼ同様の結果となった。

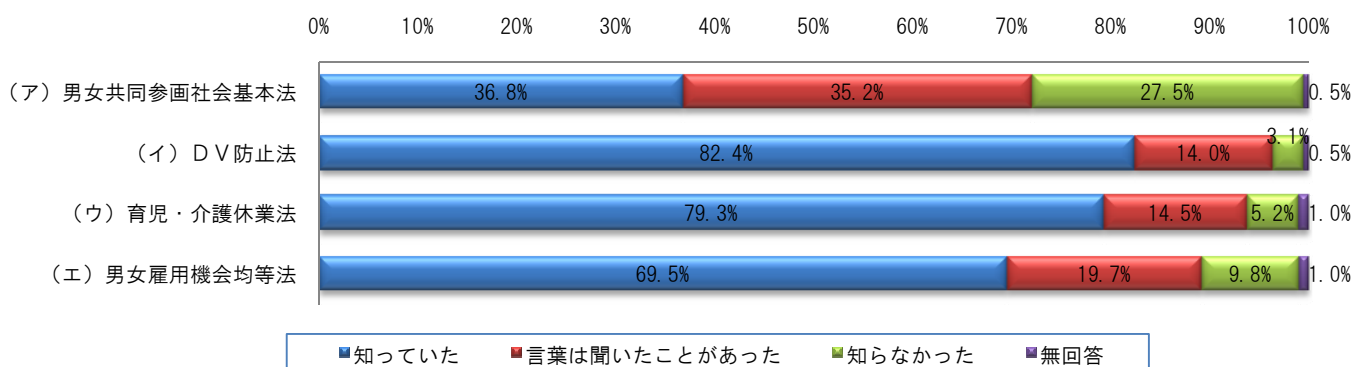
【問3】



【問3・男性】



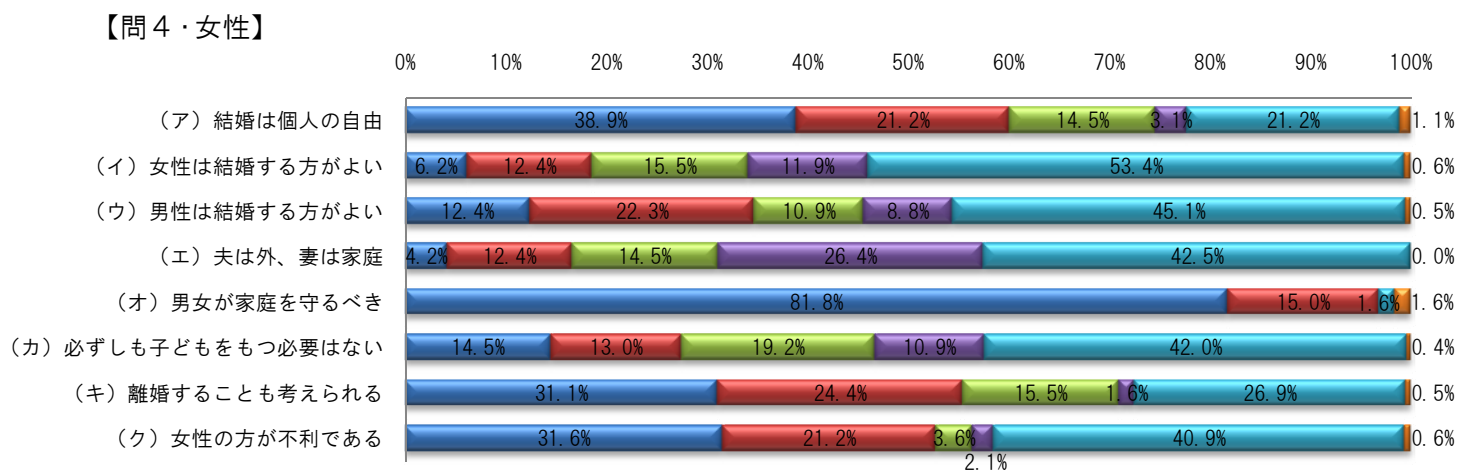
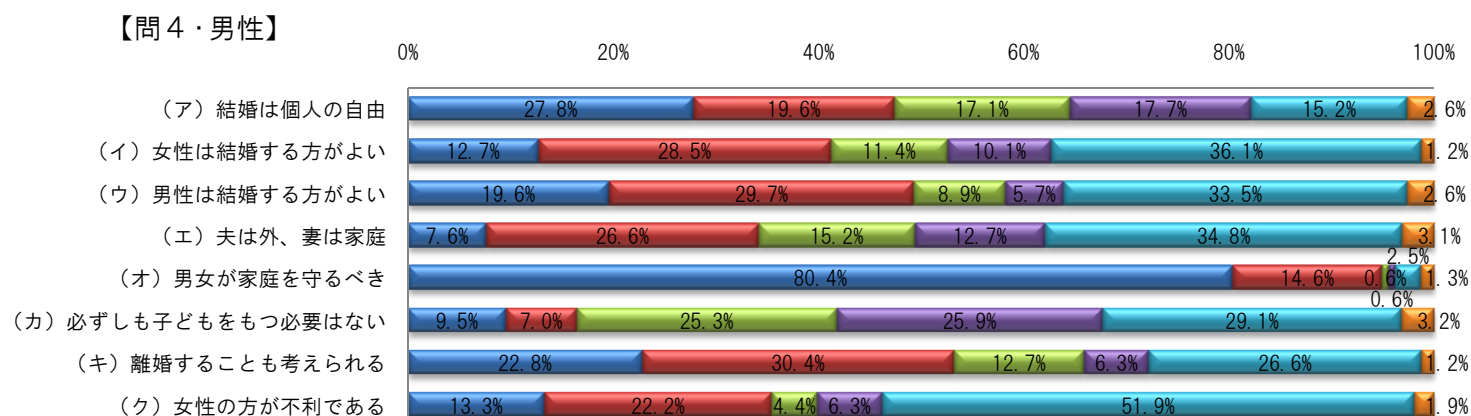
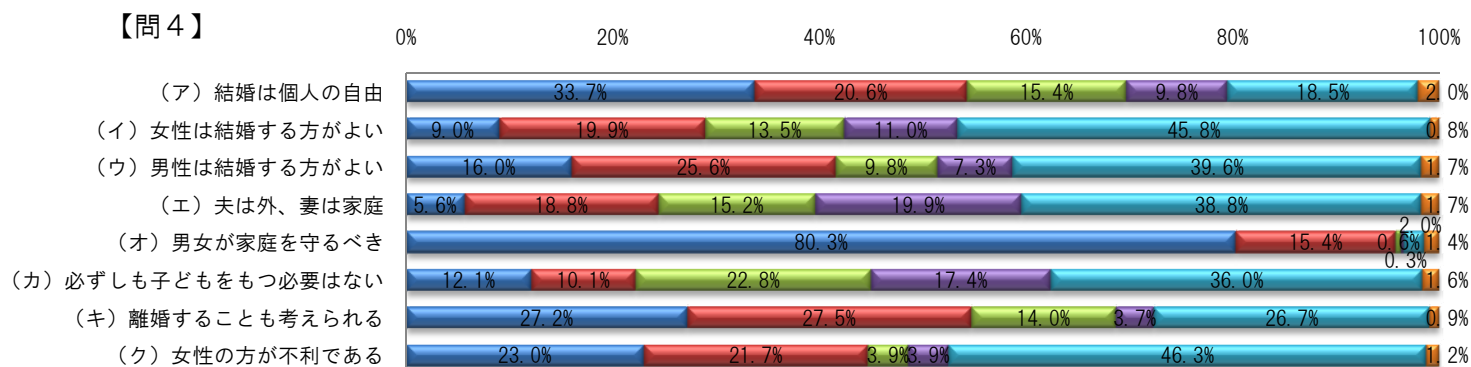
【問3・女性】



(3) 結婚観、家庭生活

【問4】あなたは、結婚、家庭、離婚について、どのようにお考えですか。

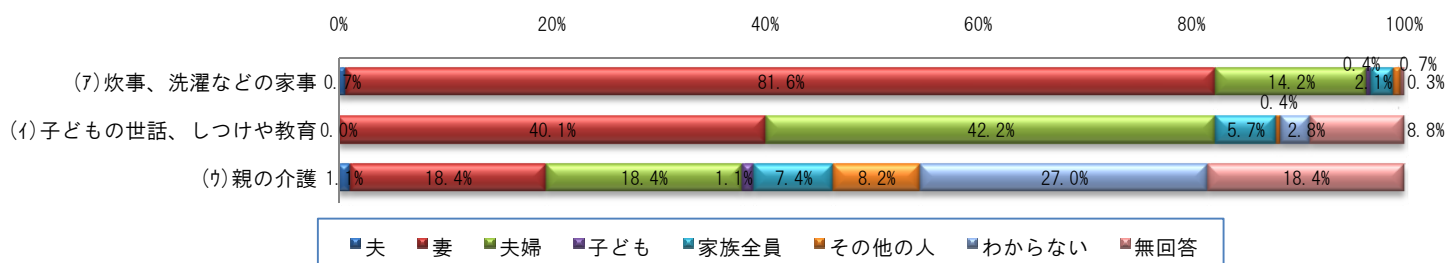
「(ア)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると5割を超えている。男女別に比較してもおおきな差は見られない結果となった、



【問5】あなたのご家庭では、それぞれの家事等は主に誰が分担していますか。（配偶者がいる方のみ回答）

「(ア)炊事、洗濯などの家事」に関しては、「妻」の割合が高くなっている。「(イ)子どもの世話、しつけや教育」や「(ウ)親の介護」では、「妻」に加え「夫婦」の割合が高くなっている。前回とほぼ同様の傾向となっている。

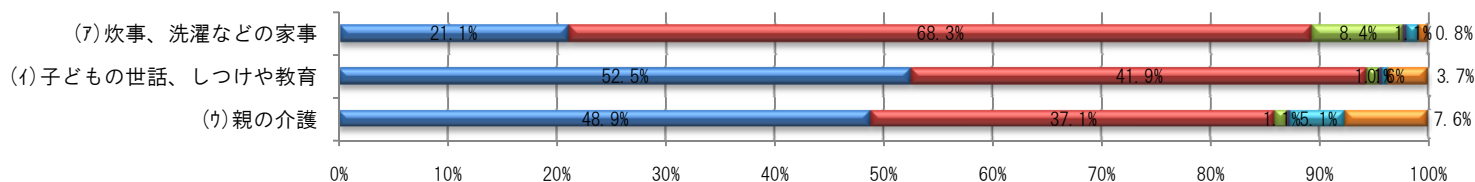
選択項目	(ア)炊事、洗濯などの家事			(イ)子どもの世話、しつけや教育			(ウ)親の介護		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
夫	2	0.7%	0.8%	0	0.0%	0.5%	3	1.1%	0.5%
妻	230	81.6%	65.7%	113	40.1%	27.8%	52	18.4%	16.8%
夫婦	40	14.2%	11.4%	119	42.2%	39.2%	52	18.4%	12.9%
子ども	1	0.4%	0.5%	0	0.0%	0.1%	3	1.1%	0.4%
家族全員	6	2.1%	4.6%	16	5.7%	6.6%	21	7.4%	9.6%
その他の人	2	0.7%	1.4%	1	0.4%	1.4%	23	8.2%	7.1%
わからない	0	0.0%	1.5%	8	2.8%	4.2%	76	27.0%	25.6%
無回答	1	0.3%	14.2%	25	8.8%	20.2%	52	18.4%	27.0%
計	282	100.0%	100.1%	282	100.0%	100.0%	282	100.0%	99.9%



【問6】あなたは家庭における役割について、男性がどの程度関わるべきだと思いますか。

「(ア)炊事、洗濯などの家事」に関しては、「ある程度積極的に関わるべきだ」が高い割合となっており、「積極的に関わるべきだ」を合わせると9割を超える結果となっている。「(イ)子どもの世話、しつけや教育」や「(ウ)親の介護」では、「積極的に関わるべきだ」が最も高い割合となっており、すべての項目で「男性が積極的に関わることを望む」傾向が見られる結果となっている。

選択項目	(ア)炊事、洗濯などの家事			(イ)子どもの世話、しつけや教育			(ウ)親の介護		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
積極的に関わるべきだ	75	21.1%	20.5%	187	52.5%	54.7%	174	48.9%	46.3%
ある程度積極的に関わるべきだ	243	68.3%	62.0%	149	41.9%	37.6%	132	37.1%	40.6%
あまり関わる必要はない	30	8.4%	10.5%	4	1.1%	1.1%	4	1.1%	0.9%
全く関わる必要はない	1	0.3%	0.5%	1	0.3%	0.1%	1	0.3%	0.0%
わからない	4	1.1%	3.3%	2	0.6%	1.7%	18	5.1%	6.1%
無回答	3	0.8%	3.2%	13	3.7%	4.7%	27	7.5%	6.1%
計	356	100.0%	100.0%	356	100.0%	99.9%	356	100.0%	100.0%

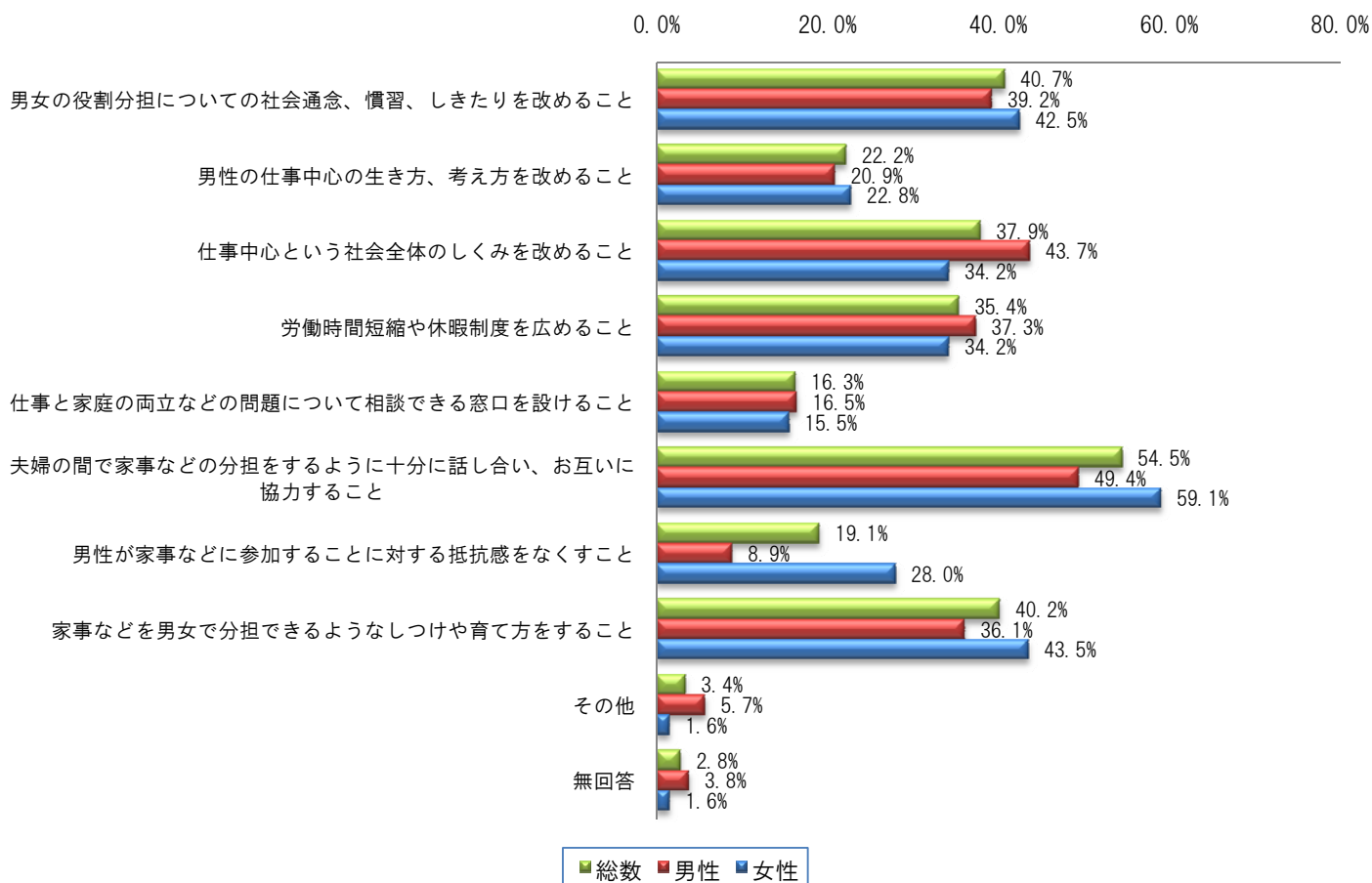


■ 積極的に関わるべきだ ■ ある程度積極的に関わるべきだ ■ あまり関わる必要はない ■ 全く関わる必要はない ■ わからない ■ 無回答

【問7】あなたは、今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護など家庭での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。（3つ以内）

総数では、「夫婦の間で話し合い、お互いに協力すること」、次いで、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」の割合が高くなっている。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	145	40.7%	34.1%	62	39.2%	31.9%	82	42.5%	36.3%
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	79	22.2%	18.8%	33	20.9%	20.0%	44	22.8%	17.6%
仕事中心という社会全体のしきみを改めること	135	37.9%	37.8%	69	43.7%	42.6%	66	34.2%	34.9%
労働時間短縮や休暇制度を広めること	126	35.4%	38.9%	59	37.3%	41.2%	66	34.2%	37.3%
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	58	16.3%	13.8%	26	16.5%	13.3%	30	15.5%	14.3%
夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、お互いに協力すること	194	54.5%	55.5%	78	49.4%	55.1%	114	59.1%	56.3%
男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	68	19.1%	24.4%	14	8.9%	22.6%	54	28.0%	25.4%
家事などを男女で分担できるようなしつけや育て方をすること	143	40.2%	41.2%	57	36.1%	36.8%	84	43.5%	45.1%
その他	12	3.4%	2.6%	9	5.7%	2.6%	3	1.6%	2.6%
無回答	10	2.8%	4.1%	6	3.8%	3.5%	3	1.6%	3.8%
計	970	272.5%	271.2%	413	261.4%	269.6%	546	282.9%	273.6%
回答者数	356	-	-	158	-	-	193	-	-

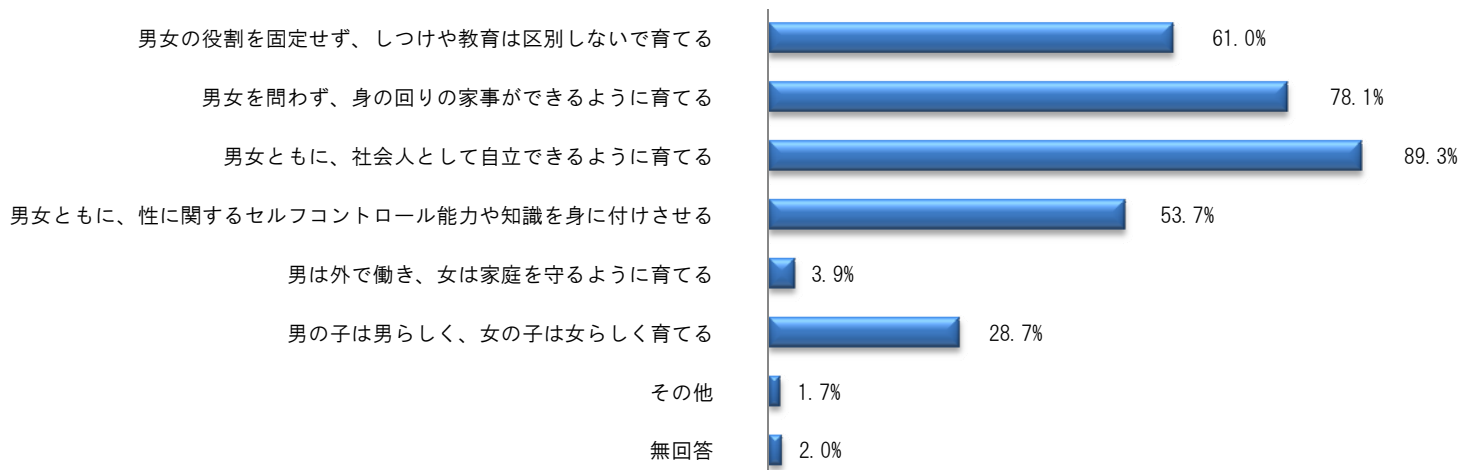


（４）教育

【問８】あなたは、家庭で子どもを育てる場合、どのように育てたいと思いますか。お子さんがいらっしゃらない場合も、いると仮定してお答えください。（あてはまるものすべて）

「社会人として自立できるように育てる」、「身の回りの家事ができるように育てる」などの割合が高い。前回と比べると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が低くなっている。

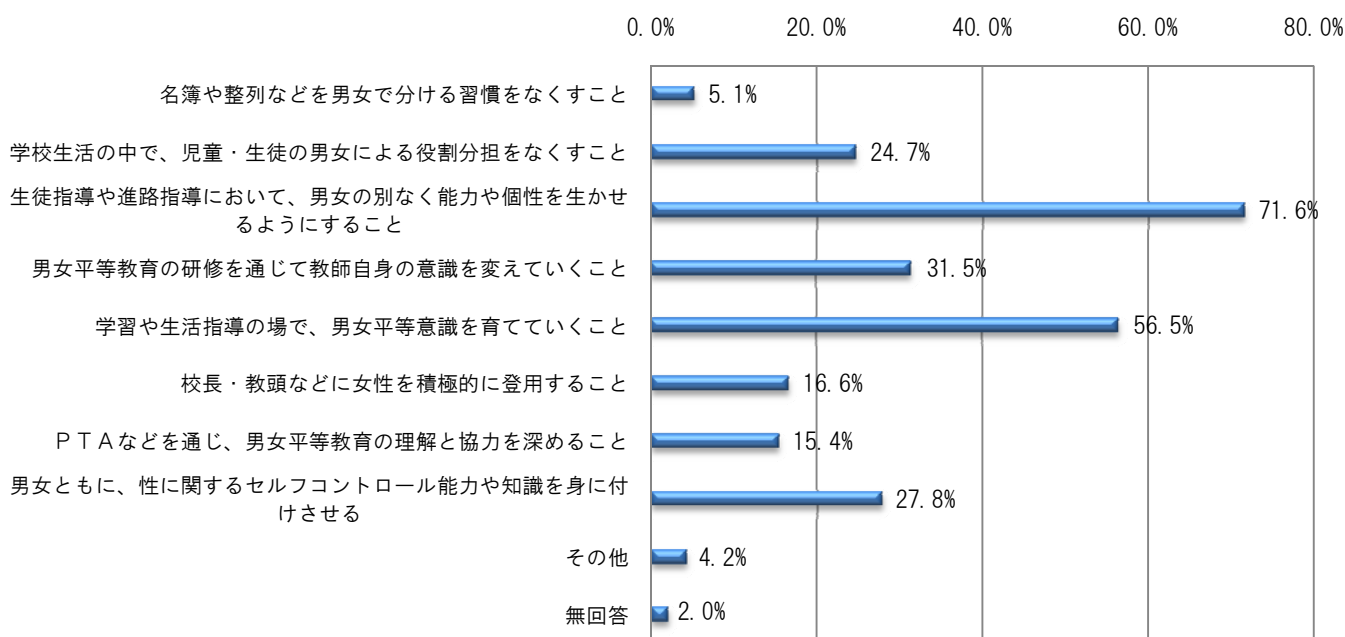
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる	217	61.0%	62.6%
男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる	278	78.1%	72.4%
男女ともに、社会人として自立できるように育てる	318	89.3%	86.4%
男女ともに、性に関するセルフコントロール能力や知識を身に付けさせる	191	53.7%	44.5%
男は外で働き、女は家庭を守るように育てる	14	3.9%	4.0%
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	102	28.7%	36.1%
その他	6	1.7%	2.0%
無回答	7	2.0%	3.8%
計	1,133	318.3%	311.8%
回答者数	356	-	-



【問9】あなたは、男女共同参画社会を形成するために、学校教育の場で重要なことは何だと思いますか。
(3つ以内)

「生徒指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること」が最も高く、次いで「学習や生活指導の場で、男女平等意識を育てていくこと」が高い割合になっている。前回とほぼ同様の結果となっている。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
名簿や整列などを男女で分ける習慣をなくすこと	18	5.1%	48	6.1%
学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと	88	24.7%	187	23.9%
生徒指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること	255	71.6%	550	70.2%
男女平等教育の研修を通じて教師自身の意識を変えていくこと	112	31.5%	223	28.4%
学習や生活指導の場で、男女平等意識を育てていくこと	201	56.5%	439	56.0%
校長・教頭などに女性を積極的に登用すること	59	16.6%	119	15.2%
P T Aなどを通じ、男女平等教育の理解と協力を深めること	55	15.4%	119	15.2%
男女ともに、性に関するセルフコントロール能力や知識を身に付けさせる	99	27.8%	200	25.5%
その他	15	4.2%	16	2.0%
無回答	7	2.0%	44	5.6%
計	909	255.3%	1945	248.1%
回答者数	356	-	784	-

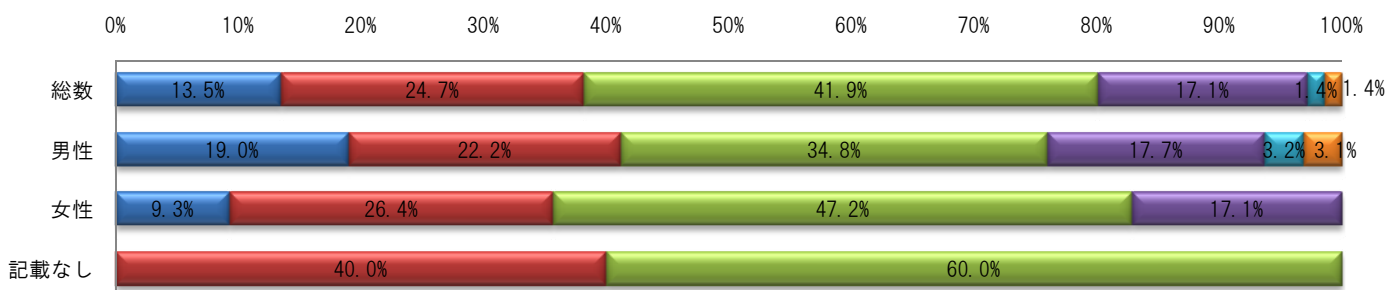


(5) 高齢化社会

【問10】あなたは、将来自分自身の介護が必要になった場合、どのように世話をしてもらいたいですか。

「主に社会支援を利用し、家族には負担にならない程度に世話をしてもらいたい」が最も高い割合で、次いで、「主に家族に世話をしてもらい、必要な場合は社会支援を利用したい」が高くなっている。前回と比べると男女とも、「家族、親族に世話をしてもらいたい」の割合が低くなっており、逆に女性の「主に社会支援を利用し、家族には負担にならない程度に世話をしてもらいたい」の割合がのびている。

選択項目	総数			男性			女性			記載なし	
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回	
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比
家族、親族に世話をしてもらいたい	48	13.5%	17.5%	30	19.0%	21.2%	18	9.3%	13.5%	0	0.0%
主に家族に世話をしてもらい、必要な場合はデイサービスなどの社会支援を利用したい	88	24.7%	23.3%	35	22.2%	22.9%	51	26.4%	24.0%	2	40.0%
主にデイサービスやヘルパーなどの社会支援を利用し、家族には負担にならない程度に世話をしてもらいたい	149	41.9%	38.1%	55	34.8%	35.9%	91	47.2%	40.9%	3	60.0%
特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい	61	17.1%	16.8%	28	17.7%	15.4%	33	17.1%	18.3%	0	0.0%
その他	5	1.4%	2.0%	5	3.2%	2.6%	0	0.0%	1.7%	0	0.0%
無回答	5	1.4%	2.2%	5	3.1%	2.0%	0	0.0%	1.7%	0	0.0%
計	356	100.0%	99.9%	158	100.0%	100.0%	193	100.0%	100.1%	5	100.0%



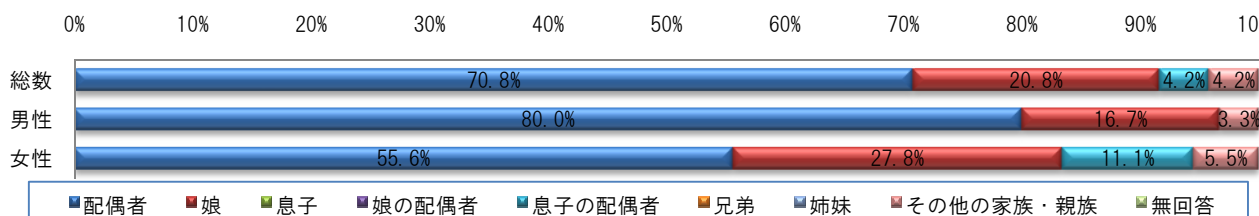
- 家族、親族に世話をしてもらいたい
- 主に家族に世話をしてもらい、必要な場合はデイサービスなどの社会支援を利用したい
- 主にデイサービスやヘルパーなどの社会支援を利用し、家族には負担にならない程度に世話をしてもらいたい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい
- その他
- 無回答

【問１０－２】「家族、親族に世話をしてもらいたい」を選ばれた方

⇒ 誰に世話をしてもらいたいですか。

「家族、親族に世話をしてもらいたい」を選ばれた方のうち、男性では、８割の方が「配偶者」と回答している。女性では、「配偶者」、「娘」の割合が高くなっている。前回と比べると、男性の「配偶者」の割合が低くなり「娘」の割合が増加している。女性においては「配偶者」「息子の配偶者」が増加しており、「娘」の割合が減少している。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
配偶者	34	70.8%	67.9%	24	80.0%	90.4%	10	55.6%	43.9%
娘	10	20.8%	22.6%	5	16.7%	4.1%	5	27.8%	43.9%
息子	0	0.0%	5.8%	0	0.0%	5.5%	0	0.0%	5.3%
娘の配偶者	0	0.0%	0.7%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
息子の配偶者	2	4.2%	0.7%	0	0.0%	0.0%	2	11.1%	1.8%
兄弟	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
姉妹	0	0.0%	0.7%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	1.8%
その他の家族・親族	2	4.2%	1.5%	1	3.3%	0.0%	1	5.5%	3.5%
無回答	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	48	100.0%	99.9%	30	100.0%	100.0%	18	100.0%	100.2%



(6) 職業

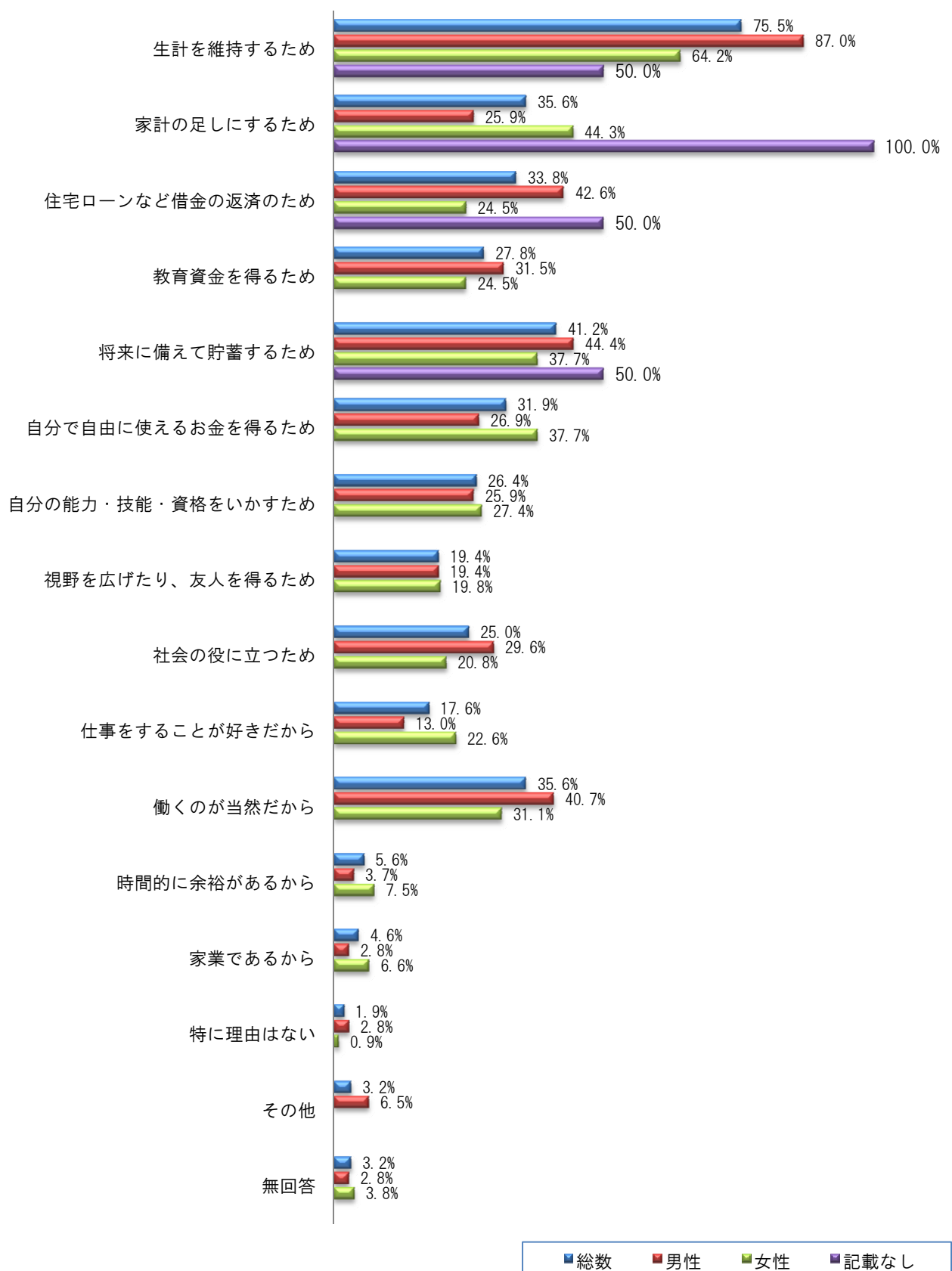
【問１１】職業をお持ちの方

⇒ あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。（あてはまるものすべて）

「生計を維持するため」の割合最もが高く、次いで、「将来に備えて貯蓄するため」、「家計の足しにするため」「働くのが当然だから」「住宅ローンなど借金の返済のため」の割合が高くなっている。前回とほぼ同様の傾向となっているが「働くのが当然だから」の割合が増加している。

選択項目	総数			男性			女性			記載なし	
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回	
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比
生計を維持するため	163	75.5%	68.2%	94	87.0%	86.5%	68	64.2%	48.0%	1	50.0%
家計の足しにするため	77	35.6%	34.4%	28	25.9%	21.2%	47	44.3%	49.8%	2	100.0%
住宅ローンなど借金の返済のため	73	33.8%	36.3%	46	42.6%	44.2%	26	24.5%	27.5%	1	50.0%
教育資金を得るため	60	27.8%	24.6%	34	31.5%	26.2%	26	24.5%	23.1%	0	0.0%
将来に備えて貯蓄するため	89	41.2%	38.9%	48	44.4%	42.7%	40	37.7%	34.9%	1	50.0%
自分で自由に使えるお金を得るため	69	31.9%	32.0%	29	26.9%	27.7%	40	37.7%	37.1%	0	0.0%
自分の能力・技能・資格をいかすため	57	26.4%	27.7%	28	25.9%	23.1%	29	27.4%	33.2%	0	0.0%
視野を広げたり、友人を得るため	42	19.4%	22.2%	21	19.4%	17.3%	21	19.8%	27.9%	0	0.0%
社会の役に立つため	54	25.0%	24.6%	32	29.6%	30.8%	22	20.8%	17.9%	0	0.0%
仕事をするのが好きだから	38	17.6%	21.0%	14	13.0%	14.6%	24	22.6%	28.4%	0	0.0%
働くのが当然だから	77	35.6%	30.1%	44	40.7%	42.3%	33	31.1%	16.2%	0	0.0%
時間的に余裕があるから	12	5.6%	9.4%	4	3.7%	4.2%	8	7.5%	15.3%	0	0.0%
家業であるから	10	4.6%	4.9%	3	2.8%	3.1%	7	6.6%	6.6%	0	0.0%
特に理由はない	4	1.9%	2.0%	3	2.8%	2.7%	1	0.9%	1.3%	0	0.0%
その他	7	3.2%	2.4%	7	6.5%	1.5%	0	0.0%	3.5%	0	0.0%
無回答	7	3.2%	4.3%	3	2.8%	4.2%	4	3.8%	4.4%	0	0.0%
計	839	388.4%	383.0%	438	405.6%	392.3%	396	373.6%	375.1%	5	250.0%
回答者数	216			108			106			2	

【問 1 1】

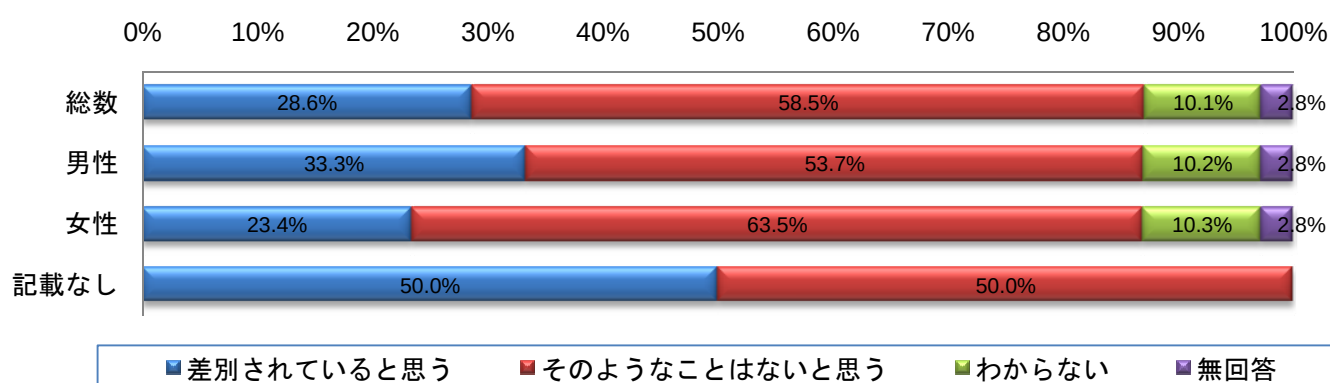


【問１２】職業をお持ちの方

⇒ あなたの今の職場は、仕事の内容や待遇面で、女性と男性の差別はあると思われますか。

約半数が「そのようなことはないと思う」と回答している。前回と比べると、男性で「差別されていると思う」が増加している一方で、女性では「そのようなことはないと思う」が7.2%増となっており、男女におけるとらえ方の違いがみられる。

選択項目	総数			男性			女性			記載なし	
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回	
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比
差別されていると思う	62	28.6%	27.3%	36	33.3%	29.2%	25	23.4%	25.3%	1	50.0%
そのようなことはないと思う	127	58.5%	55.2%	58	53.7%	54.6%	68	63.5%	56.3%	1	50.0%
わからない	22	10.1%	11.6%	11	10.2%	11.5%	11	10.3%	11.4%	0	0.0%
無回答	6	2.8%	5.9%	3	2.8%	4.6%	3	2.8%	7.0%	0	0.0%
計	217	100.0%	100.0%	108	100.0%	99.9%	107	100.0%	100.0%	2	100.0%



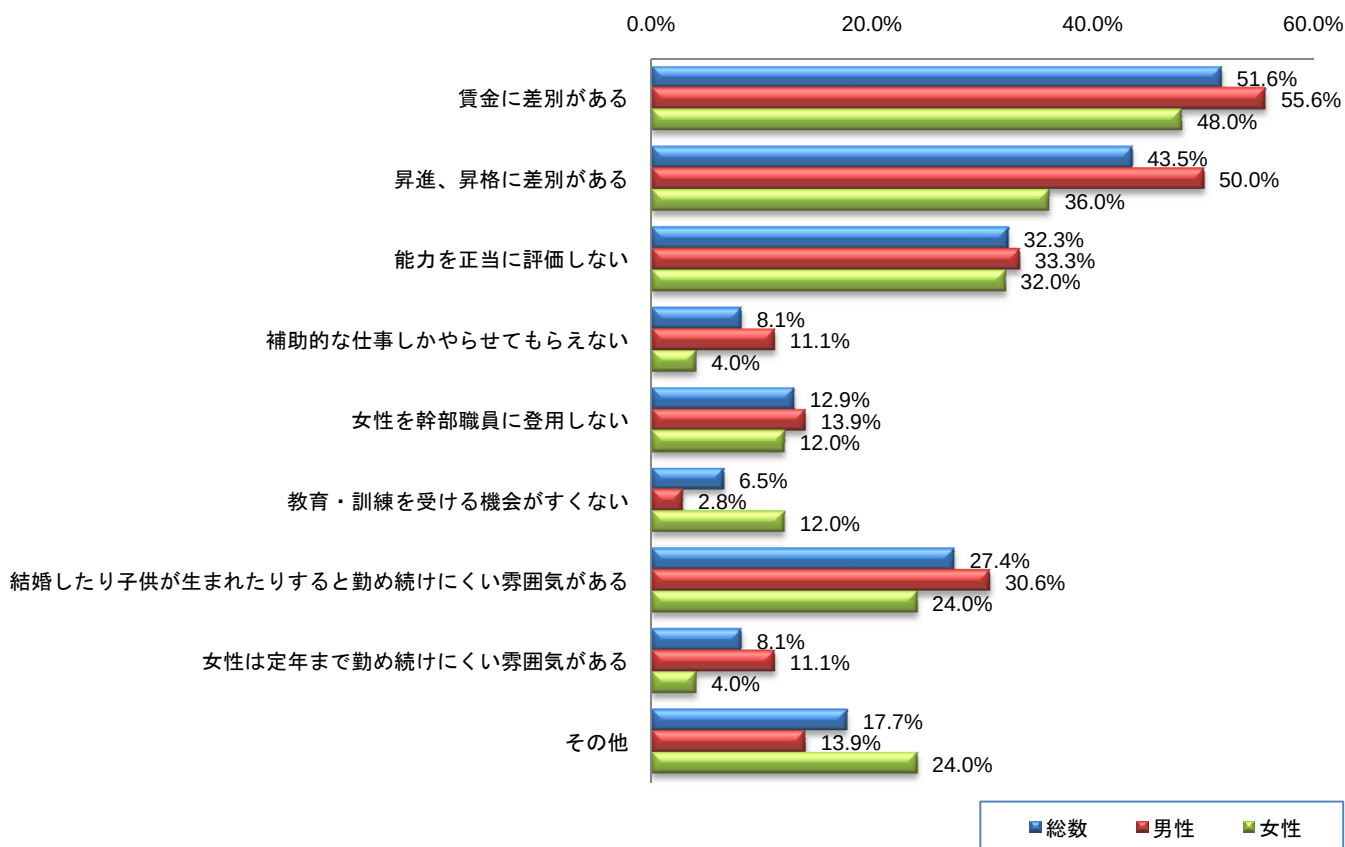
【問１２ - ２】「差別されていると思う」を選ばれた方

⇒ それは具体的にどのようなことですか。（３つ以内）

「賃金に差がある」、「昇進、昇格に差別がある」の割合が高くなっている。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
賃金に差別がある	32	51.6%	53.0%	20	55.6%	51.3%	12	48.0%	55.2%
昇進、昇格に差別がある	27	43.5%	44.0%	18	50.0%	51.3%	9	36.0%	34.5%
能力を正當に評価しない	20	32.3%	33.6%	12	33.3%	31.6%	8	32.0%	36.2%
補助的な仕事しかやらせてもらえない	5	8.1%	19.4%	4	11.1%	22.4%	1	4.0%	15.5%
女性を幹部職員に登用しない	8	12.9%	12.7%	5	13.9%	13.2%	3	12.0%	12.1%
教育・訓練を受ける機会がすくない	4	6.5%	12.7%	1	2.8%	10.5%	3	12.0%	15.5%
結婚したり子供が生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	17	27.4%	26.9%	11	30.6%	30.3%	6	24.0%	22.4%
女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	5	8.1%	13.4%	4	11.1%	14.5%	1	4.0%	12.1%
その他	11	17.7%	9.7%	5	13.9%	10.5%	6	24.0%	8.6%
計	129	208.1%	225.4%	80	222.3%	235.6%	49	196.0%	212.1%
回答者数	62	-	-	36	-	-	25	-	-

【問１２－２】

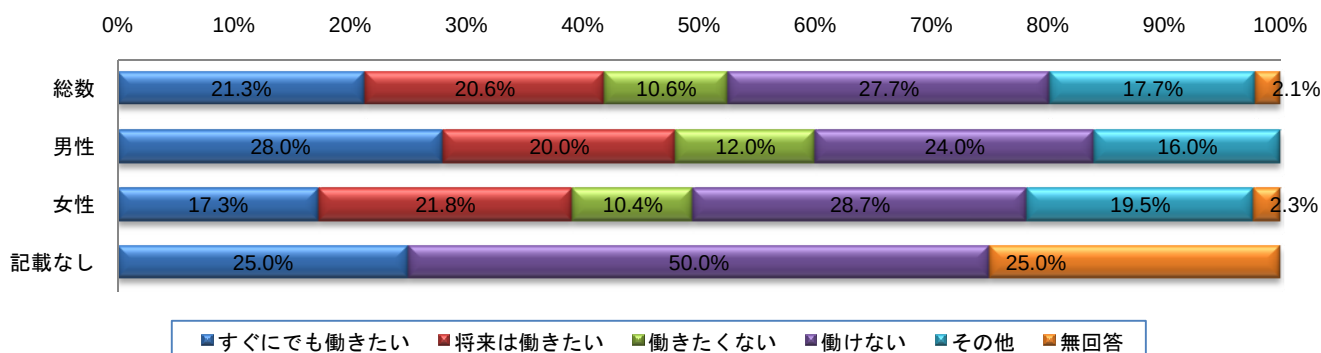


【問１３】職業をお持ちでない方

⇒ あなたは働きたいとお考えですか。

「働けない」が最も高く、次いで「すぐにでも働きたい」「将来は働きたい」の割合が高くなっている。前回と比べると、「すぐにでも働きたい」の割合が高くなり、「働けない」の割合が低くなっている。

選択項目	総数			男性			女性			記載なし	
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回	
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比
すぐにでも働きたい	30	21.3%	17.4%	14	28.0%	26.8%	15	17.3%	13.7%	1	25.0%
将来は働きたい	29	20.6%	18.8%	10	20.0%	22.0%	19	21.8%	17.9%	0	0.0%
働きたくない	15	10.6%	10.9%	6	12.0%	11.0%	9	10.4%	11.1%	0	0.0%
働けない	39	27.7%	34.1%	12	24.0%	22.0%	25	28.7%	38.4%	2	50.0%
その他	25	17.7%	9.1%	8	16.0%	12.2%	17	19.5%	7.4%	0	0.0%
無回答	3	2.1%	9.8%	0	0.0%	6.1%	2	2.3%	11.6%	1	25.0%
計	141	100.0%	100.1%	50	100.0%	100.1%	87	100.0%	100.1%	4	100.0%

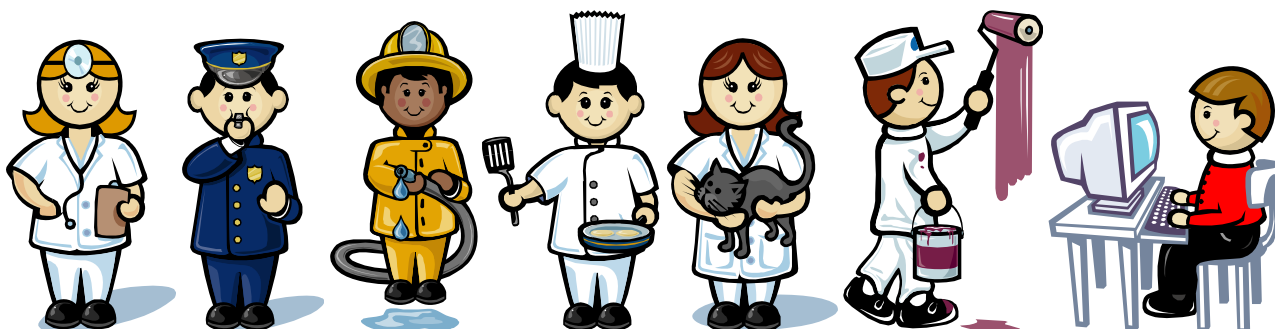


【問14】職業をお持ちでない方

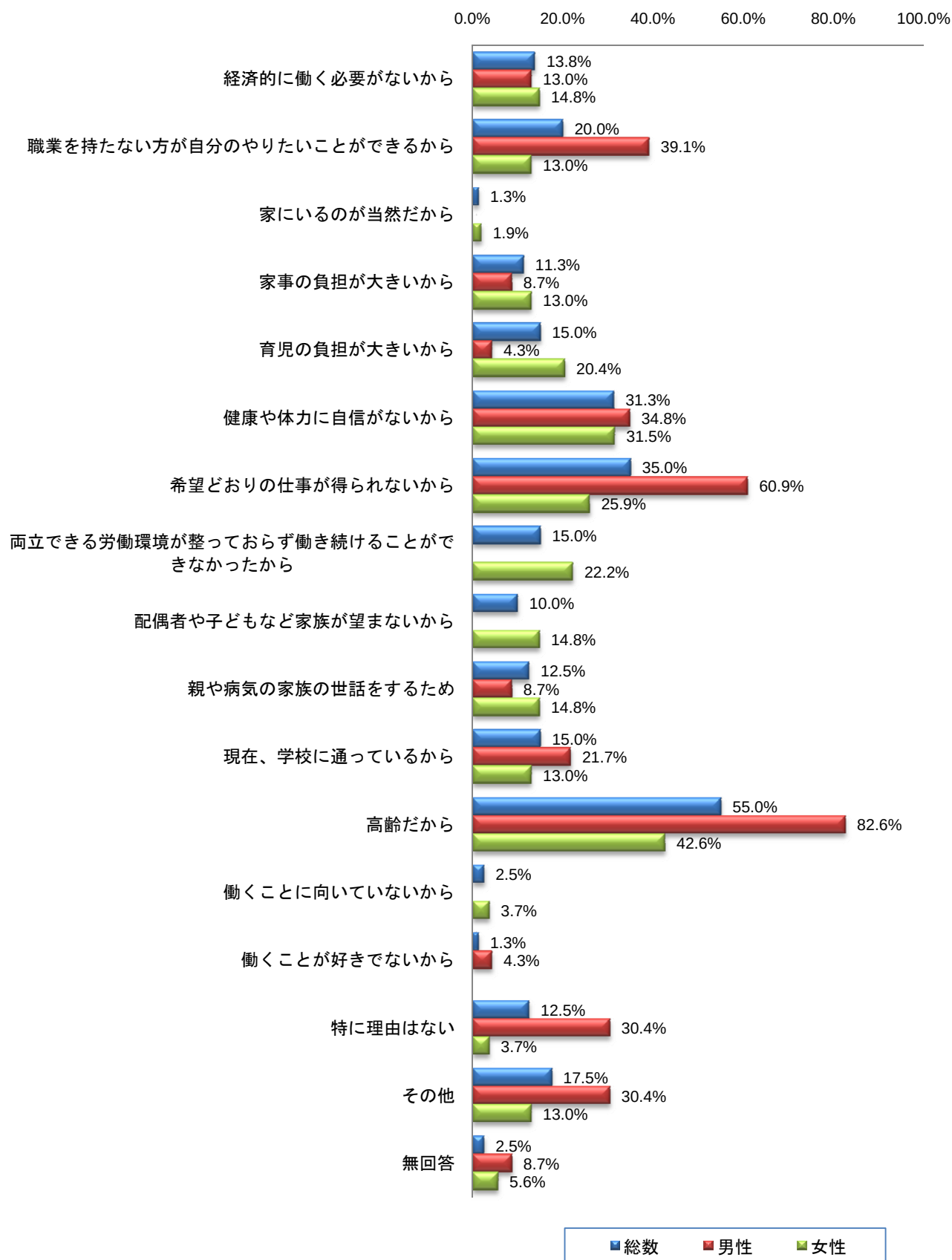
⇒ あなたが働いていないのはどのような理由からですか。（あてはまるものすべて）

「高齢だから」、の割合が最も高く、次いで「希望通りの仕事を得られないから」「健康や体力に自信がないから」の割合が高くなっている。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
経済的に働く必要がないから	11	13.8%	10.9%	3	13.0%	3.7%	8	14.8%	14.2%
職業を持たない方が自分のやりたいことができるから	16	20.0%	4.7%	9	39.1%	4.9%	7	13.0%	4.7%
家にいるのが当然だから	1	1.3%	1.4%	0	0.0%	0.0%	1	1.9%	2.1%
家事の負担が大きいから	9	11.3%	7.6%	2	8.7%	0.0%	7	13.0%	11.1%
育児の負担が大きいから	12	15.0%	7.6%	1	4.3%	0.0%	11	20.4%	11.1%
健康や体力に自信がないから	25	31.3%	25.4%	8	34.8%	17.1%	17	31.5%	28.4%
希望どおりの仕事を得られないから	28	35.0%	18.5%	14	60.9%	22.0%	14	25.9%	17.4%
両立できる労働環境が整っておらず働き続けることができなかったから	12	15.0%	7.2%	0	0.0%	1.2%	12	22.2%	10.0%
配偶者や子どもなど家族が望まないから	8	10.0%	5.4%	0	0.0%	0.0%	8	14.8%	7.9%
親や病気の家族の世話をするため	10	12.5%	6.9%	2	8.7%	1.2%	8	14.8%	9.5%
現在、学校に通っているから	12	15.0%	9.4%	5	21.7%	17.1%	7	13.0%	6.3%
高齢だから	44	55.0%	37.7%	19	82.6%	42.7%	23	42.6%	34.7%
働くことに向いていないから	2	2.5%	2.2%	0	0.0%	0.0%	2	3.7%	3.2%
働くことが好きでないから	1	1.3%	0.7%	1	4.3%	1.2%	0	0.0%	0.5%
特に理由はない	10	12.5%	7.6%	7	30.4%	11.0%	2	3.7%	5.8%
その他	14	17.5%	7.6%	7	30.4%	12.2%	7	13.0%	5.8%
無回答	2	2.5%	6.5%	2	8.7%	7.3%	3	5.6%	6.3%
計	217	271.3%	167.3%	80	347.8%	141.6%	137	253.7%	179.0%
回答者数	80	-	-	23	-	-	54	-	-



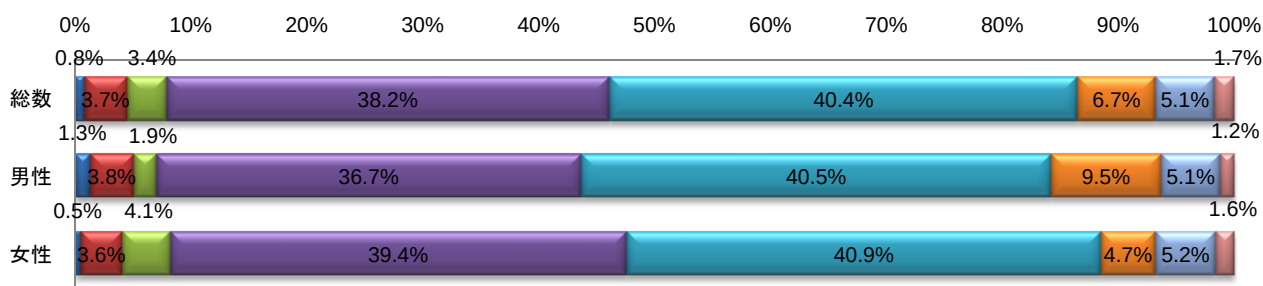
【問 1 4】



【問１５】あなたは、一般に女性が職業をもつことについて、どのようにお考えですか。

「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっている。前回と比べると、女性の「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が低くなり、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっている。

選択項目	総数				男性				女性			
	今回		前回		今回		前回		今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
女性は職業をもたない方がよい	3	0.8%	4	0.5%	2	1.3%	4	1.2%	1	0.5%	0	0.0%
結婚するまでは職業を持つ方がよい	13	3.7%	19	2.4%	6	3.8%	8	2.3%	7	3.6%	11	2.6%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	12	3.4%	46	5.9%	3	1.9%	22	6.4%	8	4.1%	22	5.2%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	136	38.2%	256	32.7%	58	36.7%	113	32.8%	76	39.4%	139	33.0%
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	144	40.4%	323	41.2%	64	40.5%	138	40.0%	79	40.9%	179	42.5%
わからない	24	6.7%	68	8.7%	15	9.5%	36	10.4%	9	4.7%	30	7.1%
その他	18	5.1%	49	6.3%	8	5.1%	15	4.3%	10	5.2%	33	7.8%
無回答	6	1.7%	19	2.4%	2	1.2%	9	2.6%	3	1.6%	7	1.7%
計	356	100.0%	784	100.1%	158	100.0%	345	100.0%	193	100.0%	421	99.9%



- 女性は無職の方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- わからない
- その他
- 無回答

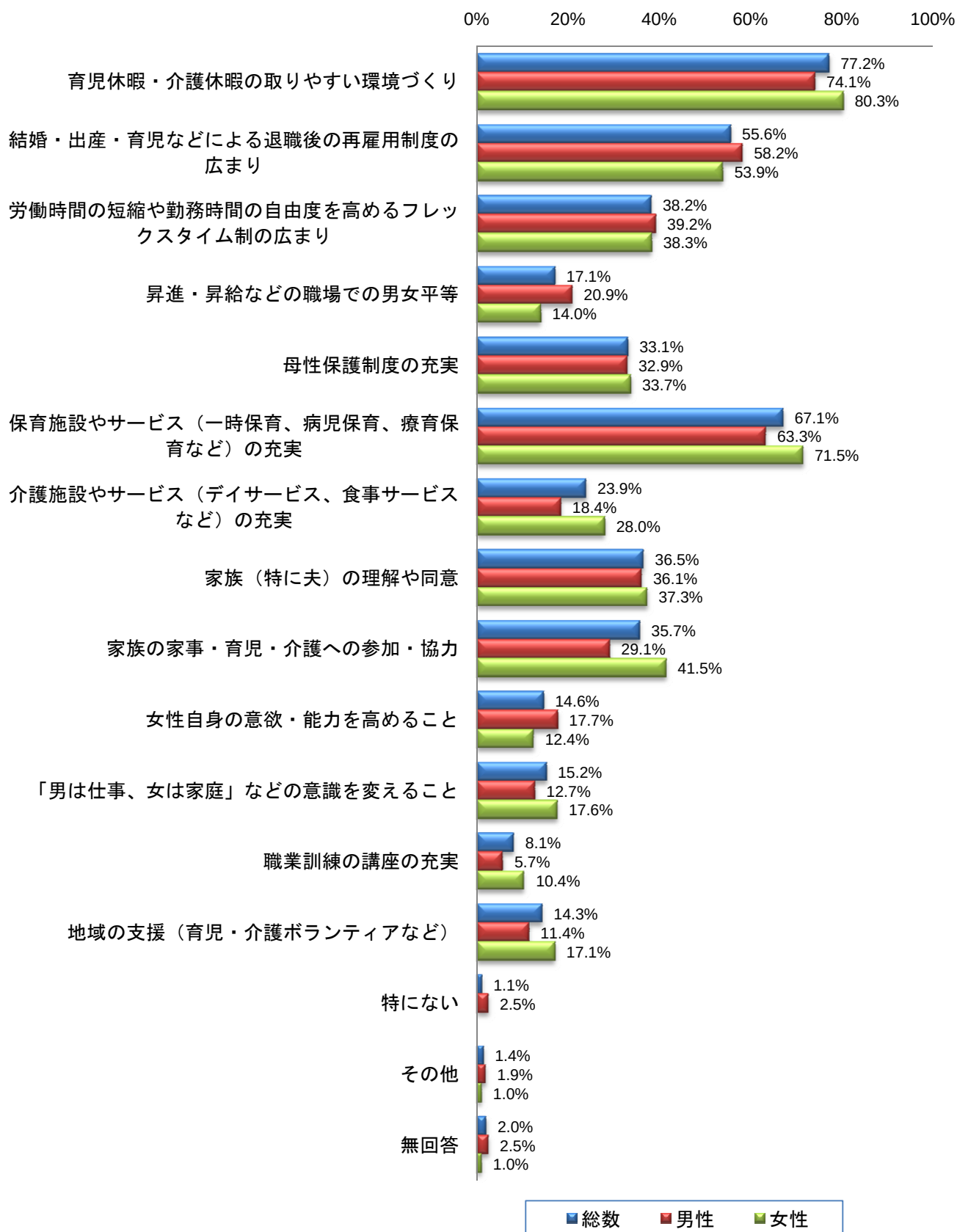
【問１６】あなたは、女性が働き続けたり、再就職したりするために、どのようなことが必要だと思いますか。
(５つ以内)

「育児休暇・介護休暇のとりやすい職場環境づくり」が最も高く、次いで「保育施設やサービスの充実」、「結婚・出産、育児などによる退職後の再雇用制度の広まり」などの割合が高い。前回と比べると、ほぼ同様の結果である。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
育児休暇・介護休暇のとりやすい環境づくり	275	77.2%	71.6%	117	74.1%	69.0%	155	80.3%	74.8%
結婚・出産・育児などによる退職後の再雇用制度の広まり	198	55.6%	52.6%	92	58.2%	57.7%	104	53.9%	48.7%
労働時間の短縮や勤務時間の自由度を高めるフレックスタイム制の広まり	136	38.2%	39.3%	62	39.2%	40.0%	74	38.3%	39.7%
昇進・昇給などの職場での男女平等	61	17.1%	15.4%	33	20.9%	20.6%	27	14.0%	11.4%
母性保護制度の充実	118	33.1%	30.7%	52	32.9%	31.3%	65	33.7%	30.9%
保育施設やサービス(一時保育、病児保育、療育保育など)の充実	239	67.1%	60.8%	100	63.3%	58.3%	138	71.5%	64.6%
介護施設やサービス(デイサービス、食事サービスなど)の充実	85	23.9%	22.4%	29	18.4%	18.8%	54	28.0%	25.7%
家族(特に夫)の理解や同意	130	36.5%	42.1%	57	36.1%	42.0%	72	37.3%	42.5%
家族の家事・育児・介護への参加・協力	127	35.7%	36.4%	46	29.1%	30.1%	80	41.5%	42.0%
女性自身の意欲・能力を高めること	52	14.6%	14.8%	28	17.7%	15.7%	24	12.4%	14.3%
「男は仕事、女は家庭」などの意識を変えること	54	15.2%	10.5%	20	12.7%	11.9%	34	17.6%	9.3%
職業訓練の講座の充実	29	8.1%	6.5%	9	5.7%	6.7%	20	10.4%	6.2%
地域の支援(育児・介護ボランティアなど)	51	14.3%	13.9%	18	11.4%	11.3%	33	17.1%	15.9%
特にない	4	1.1%	2.4%	4	2.5%	1.7%	0	0.0%	2.4%
その他	5	1.4%	1.8%	3	1.9%	2.3%	2	1.0%	1.2%
無回答	7	2.0%	1.9%	4	2.5%	2.3%	2	1.0%	1.4%
計	1,571	441.3%	423.1%	674	426.6%	419.7%	884	458.0%	430.8%
回答者数	356	—	—	158	—	—	193	—	—



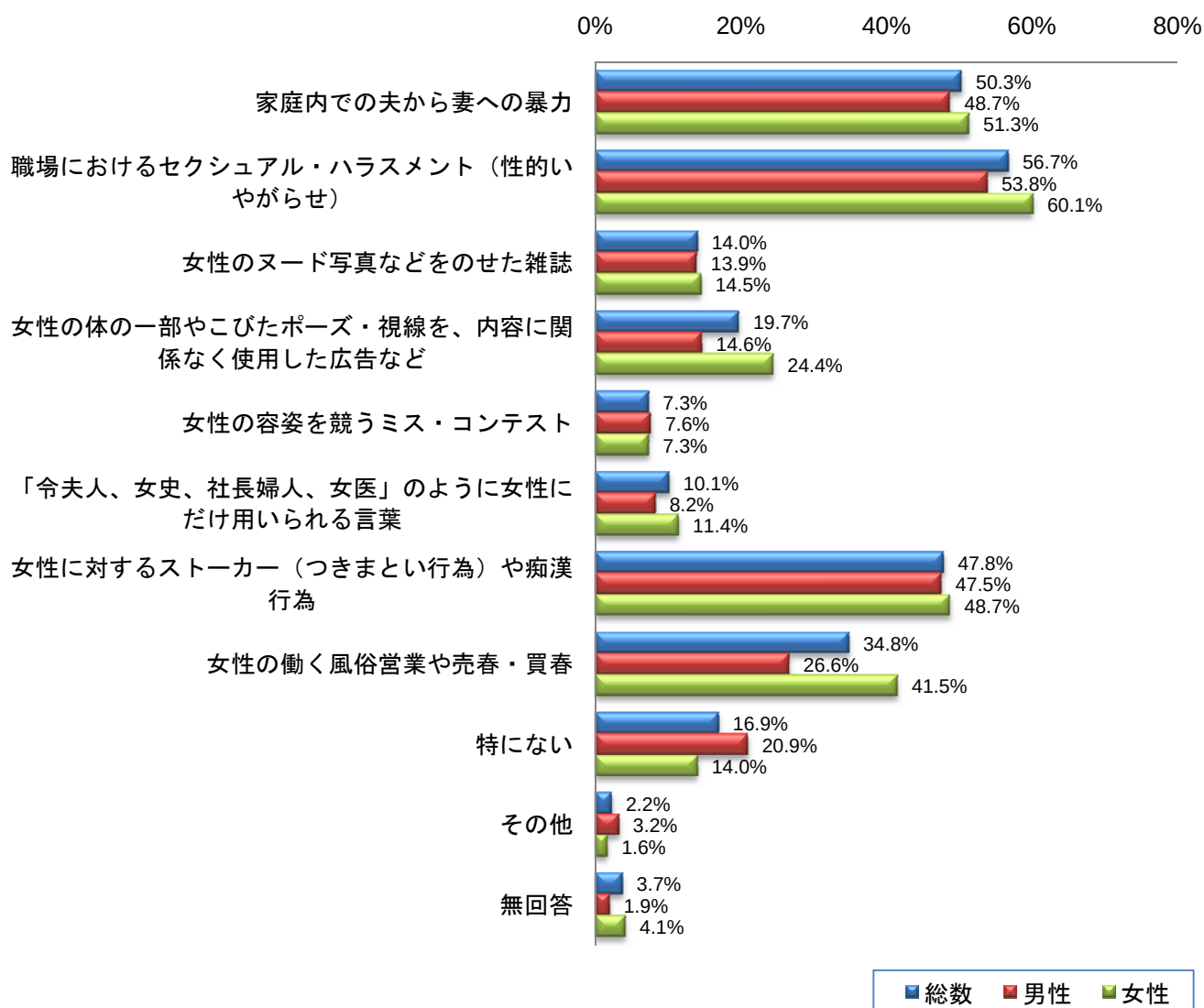
【問 1 6】



【問１７】あなたは、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような場合ですか。（あてはまるものすべて）

「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」、「家庭内での夫から妻への暴力」、「女性に対するストーカーや痴漢行為」が高い割合となっている。前回とほぼ同様の傾向となっている。

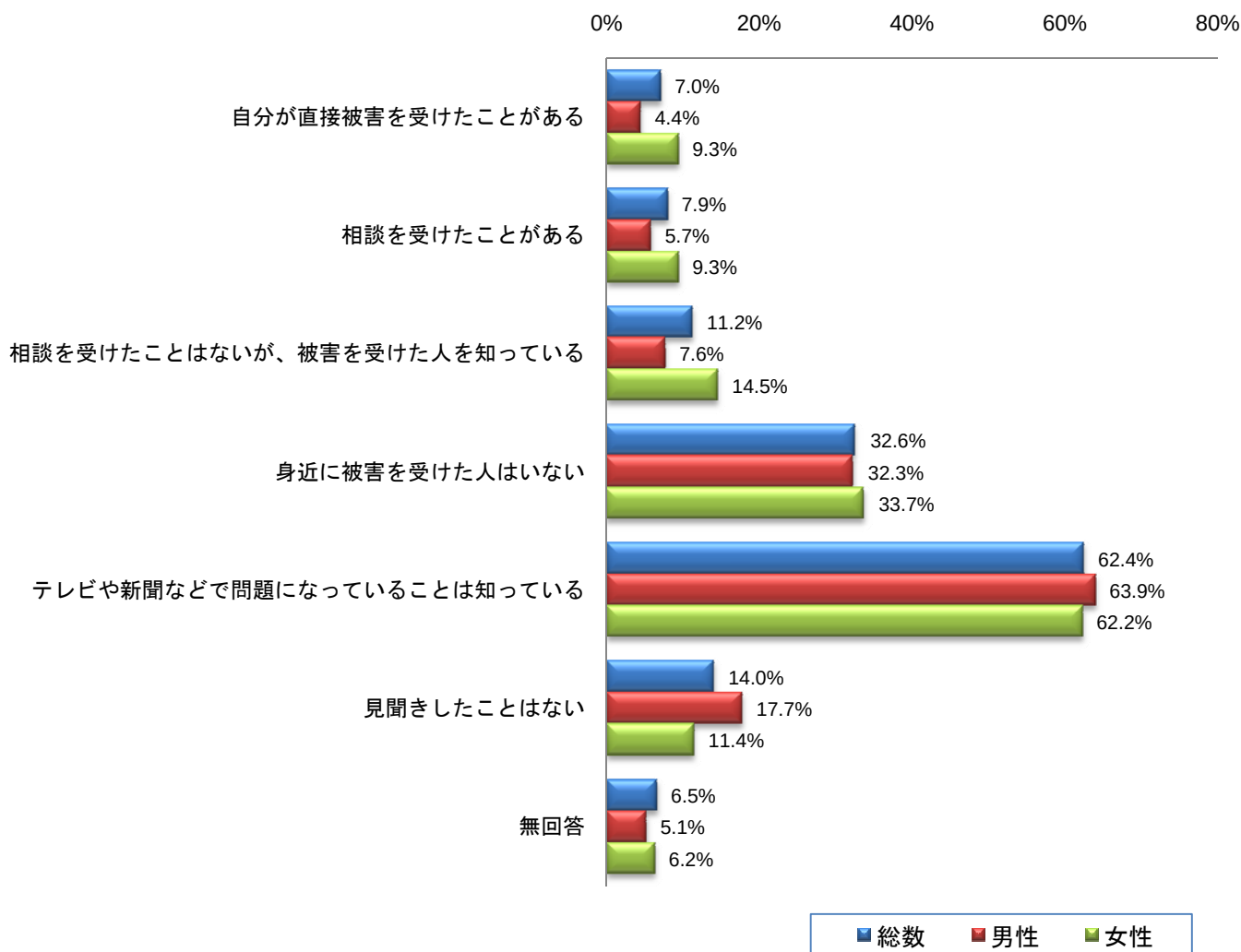
選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
家庭内での夫から妻への暴力	179	50.3%	47.4%	77	48.7%	48.1%	99	51.3%	47.0%
職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	202	56.7%	53.4%	85	53.8%	51.9%	116	60.1%	54.9%
女性のヌード写真などをのせた雑誌	50	14.0%	18.8%	22	13.9%	14.5%	28	14.5%	23.0%
女性の体の一部やこびたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など	70	19.7%	20.9%	23	14.6%	14.8%	47	24.4%	26.6%
女性の容姿を競うミス・コンテスト	26	7.3%	6.6%	12	7.6%	4.6%	14	7.3%	8.6%
「令夫人、女史、社長婦人、女医」のように女性にだけ用いられる言葉	36	10.1%	10.5%	13	8.2%	11.0%	22	11.4%	10.0%
女性に対するストーカー（つきまとい行為）や痴漢行為	170	47.8%	44.8%	75	47.5%	43.2%	94	48.7%	46.6%
女性の働く風俗営業や売春・買春	124	34.8%	36.5%	42	26.6%	29.6%	80	41.5%	42.8%
特にない	60	16.9%	16.6%	33	20.9%	20.3%	27	14.0%	13.5%
その他	8	2.2%	2.7%	5	3.2%	2.6%	3	1.6%	2.9%
無回答	13	3.7%	4.7%	3	1.9%	4.6%	8	4.1%	4.3%
計	938	263.5%	262.9%	390	246.8%	245.2%	538	278.8%	280.2%
回答者数	356	-	-	158	-	-	193	-	-



【問１８】最近、夫婦、恋人同士などの親しい人からの身体的・心理的な暴力について、問題となっています。あなたはこのような被害を経験したり、身近で見聞きしたことはありますか。（あてはまるものすべて）

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高く、「相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている」、「相談を受けたことがある」といった被害を受けた人を知っているという回答が約２割となっている。また、直接被害を受けた人は７.０％となっており前回より増加している。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
自分が直接被害を受けたことがある	25	7.0%	4.5%	7	4.4%	2.0%	18	9.3%	6.7%
相談を受けたことがある	28	7.9%	6.4%	9	5.7%	4.9%	18	9.3%	7.8%
相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている	40	11.2%	11.5%	12	7.6%	7.5%	28	14.5%	15.0%
身近に被害を受けた人はいない	116	32.6%	28.3%	51	32.3%	30.1%	65	33.7%	26.6%
テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	222	62.4%	62.9%	101	63.9%	65.8%	120	62.2%	60.6%
見聞きしたことはない	50	14.0%	10.8%	28	17.7%	13.6%	22	11.4%	8.8%
無回答	23	6.5%	7.8%	8	5.1%	5.5%	12	6.2%	9.0%
計	504	141.6%	132.2%	216	136.7%	129.4%	283	146.6%	134.5%
回答者数	356		－	158	－	－	193	－	－

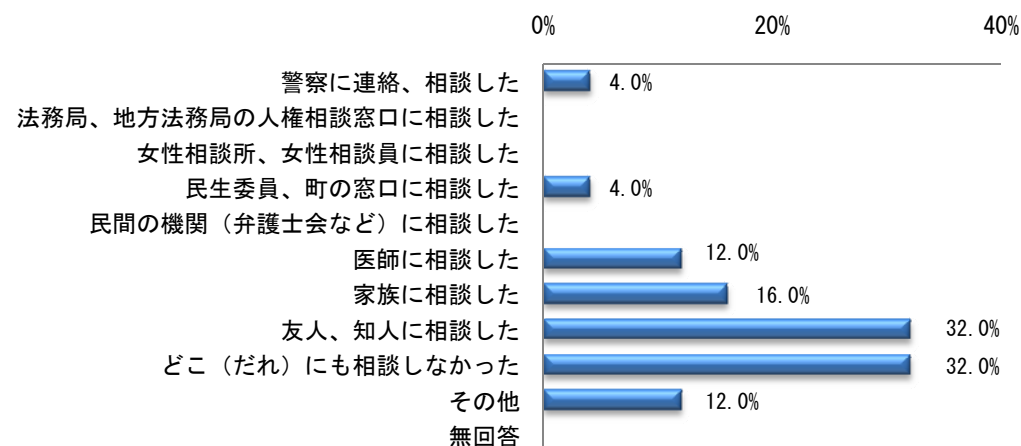


【問１８－２】「自分が直接被害を受けたことがある」を選ばれた方

⇒ あなたがそのような経験をされた時、誰か（どこか）に相談しましたか。（あてはまるものすべて）

「自分が直接被害を受けたことがある」人のうちでは、「友人・知人に相談した」と「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が最も高くなっている。次に「家族に相談した」が高く、民間の機関や公的機関に相談した人の割合は低くなっている。前回とほぼ同様の傾向となっている。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
警察に連絡、相談した	1	4.0%	5	14.3%
法務局、地方法務局の人権相談窓口相談した	0	0.0%	0	0.0%
女性相談所、女性相談員に相談した	0	0.0%	1	2.9%
民生委員、町の窓口相談した	1	4.0%	1	2.9%
民間の機関（弁護士会など）に相談した	0	0.0%	0	0.0%
医師に相談した	3	12.0%	1	2.9%
家族に相談した	4	16.0%	12	34.3%
友人、知人に相談した	8	32.0%	8	22.9%
どこ（だれ）にも相談しなかった	8	32.0%	17	48.6%
その他	3	12.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	5.7%
計	28	112.0%	47	134.5%
回答者数	25	-	35	-

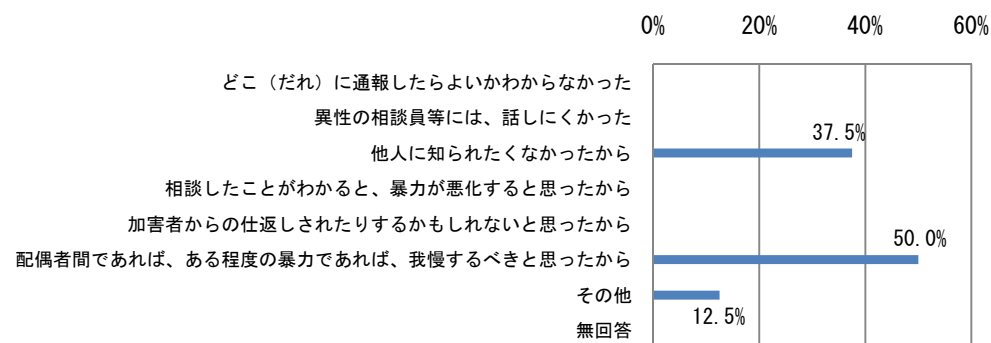


【問１８－３】「どこにも相談しなかった」を選ばれた方

⇒ どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべて）

どこにも相談しなかった主な理由としては、「配偶者間であれば、ある程度の暴力であれば、我慢すべきと思ったから」の割合が最も高くなっている。次に「他人に知られたくなかった」で、前回と逆転している。

選択項目	今回		前回	
	回答	構成	回答	構成
どこ（だれ）に通報したらよいかわからなかった	0	0.0%	3	17.6%
異性の相談員等には、話しにくかった	0	0.0%	0	0.0%
他人に知られたくなかったから	3	37.5%	10	58.8%
相談したことがわかると、暴力が悪化すると思ったから	0	0.0%	5	29.4%
加害者からの仕返しされたりするかもしれないと思ったから	0	0.0%	1	5.9%
配偶者間であれば、ある程度の暴力であれば、我慢するべきと思った	4	50.0%	4	23.5%
その他	1	12.5%	5	29.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
計	8	100.0%	28	164.6%
回答者数	8	-	17	-

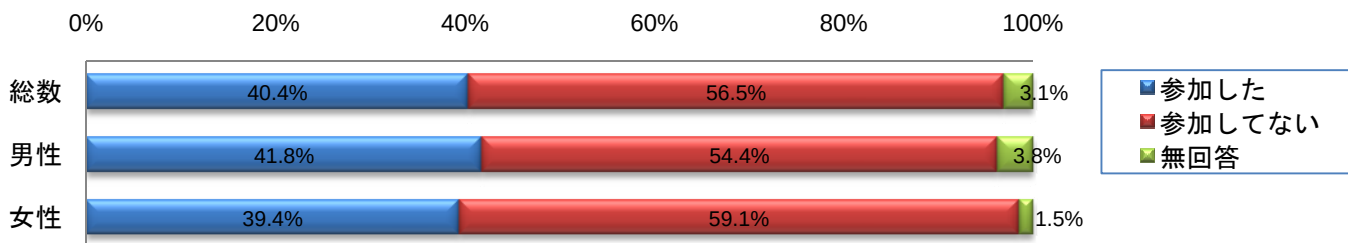


(8) 地域活動

【問19】あなたは、この1年間に地域活動（ボランティア活動、まちづくり活動、サークル活動など）に参加されましたか。

「参加した」と回答した人は、40.7%となっている。前回と比べると、「参加した」方が増加している。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回	前回		今回	前回		今回	前回	
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
参加した	144	40.4%	37.0%	66	41.8%	34.2%	76	39.4%	39.9%
参加してない	201	56.5%	58.0%	86	54.4%	62.9%	114	59.1%	54.2%
無回答	11	3.1%	5.0%	6	3.8%	2.9%	3	1.5%	5.9%
計	356	100.0%	100.0%	158	100.0%	100.0%	193	100.0%	100.0%



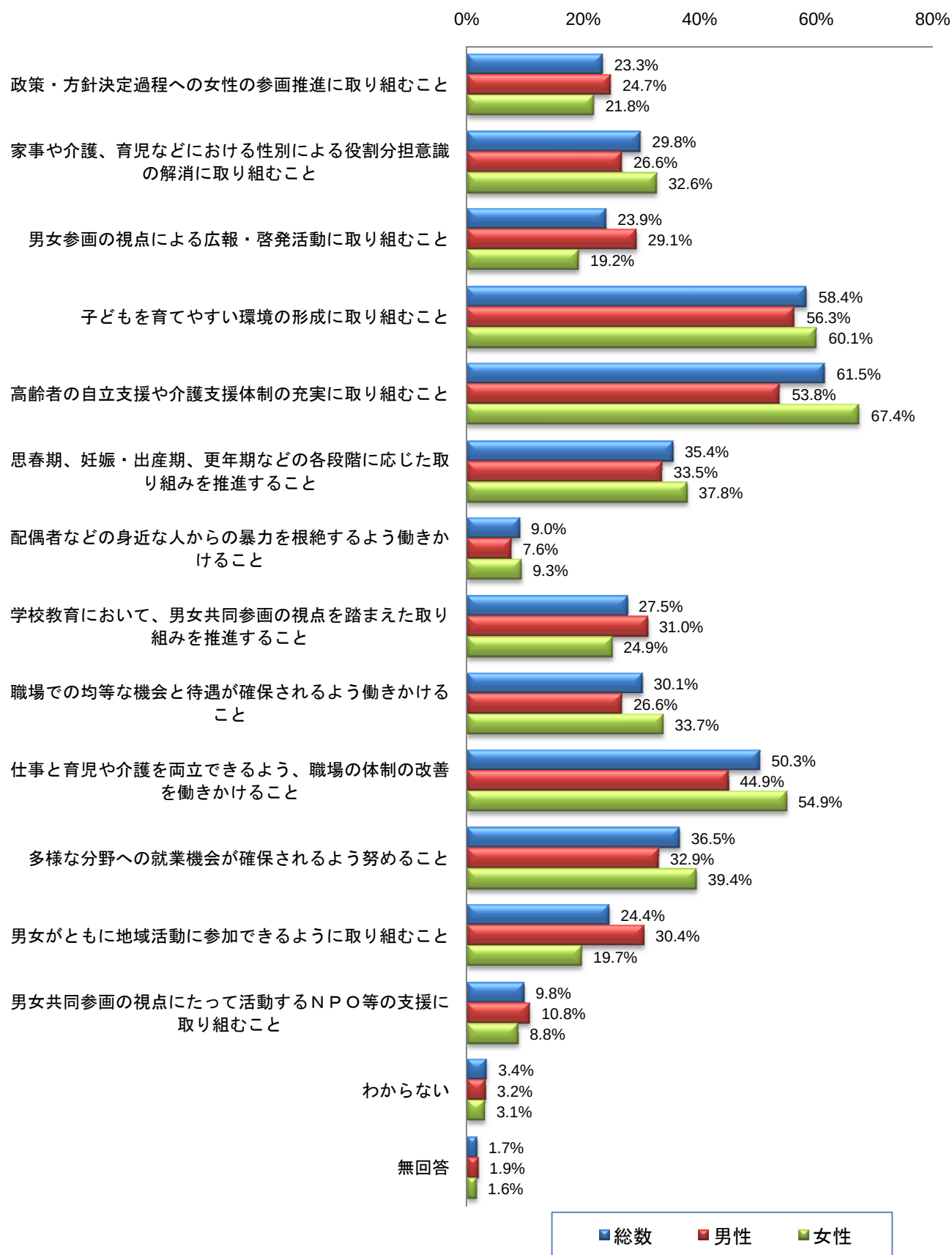
(9) 男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み

【問20】あなたは、今後、利府町でどのようなことに最も力をいれていくべきだとお考えですか。（5つ以内）

「高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと」、「子どもを育てやすい環境の形成に取り組むこと」、「仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること」が高くなっている。前回と比べると、同項目の割合が高くなっている。

選択項目	総数			男性			女性		
	今回	前回		今回	前回		今回	前回	
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
政策・方針決定過程への女性の参画推進に取り組むこと	83	23.3%	22.1%	39	24.7%	27.2%	42	21.8%	18.3%
家事や介護、育児などにおける性別による役割分担意識の解消に取り組むこと	106	29.8%	31.8%	42	26.6%	27.2%	63	32.6%	35.6%
男女参画の視点による広報・啓発活動に取り組むこと	85	23.9%	21.8%	46	29.1%	26.7%	37	19.2%	18.3%
子どもを育てやすい環境の形成に取り組むこと	208	58.4%	58.4%	89	56.3%	57.7%	116	60.1%	58.7%
高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと	219	61.5%	58.7%	85	53.8%	55.7%	130	67.4%	62.2%
思春期、妊娠・出産期、更年期などの各段階に応じた取り組みを推進すること	126	35.4%	37.4%	53	33.5%	34.8%	73	37.8%	39.4%
配偶者などの身近な人からの暴力を根絶するよう働きかけること	32	9.0%	7.3%	12	7.6%	8.1%	18	9.3%	6.7%
学校教育において、男女共同参画の視点を踏まえた取り組みを推進すること	98	27.5%	28.4%	49	31.0%	31.3%	48	24.9%	26.8%
職場での均等な機会と待遇が確保されるよう働きかけること	107	30.1%	26.0%	42	26.6%	29.3%	65	33.7%	23.5%
仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること	179	50.3%	53.6%	71	44.9%	47.8%	106	54.9%	59.1%
多様な分野への就業機会が確保されるよう努めること	130	36.5%	30.5%	52	32.9%	31.3%	76	39.4%	29.7%
男女がともに地域活動に参加できるように取り組むこと	87	24.4%	23.7%	48	30.4%	28.1%	38	19.7%	20.2%
男女共同参画の視点にたって活動するNPO等の支援に取り組むこと	35	9.8%	10.1%	17	10.8%	13.3%	17	8.8%	7.8%
わからない	12	3.4%	6.1%	5	3.2%	5.5%	6	3.1%	6.2%
無回答	6	1.7%	2.7%	3	1.9%	2.0%	3	1.6%	2.6%
計	1,513	425.0%	418.6%	653	413.3%	426.0%	838	434.2%	415.1%
回答者数	356	-	-	158	-	-	193	-	-

【問 2 0】



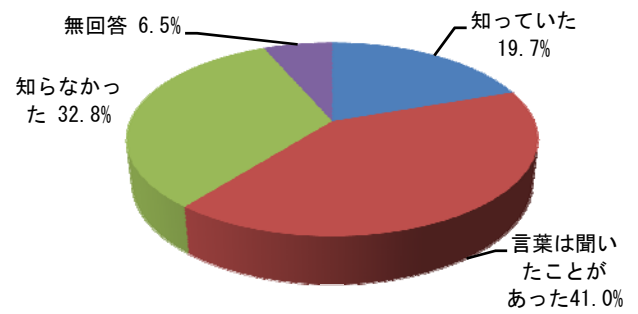
3. 男女共同参画社会に関する事業所アンケート調査結果（法人）

(1) 属性等

F0 【利府町男女共同参画基本計画を知っていましたか】

「知っていた」、「言葉は聞いたことがあった」を合わせると 60%を超えている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
知っていた	12	19.7%	21.7%
言葉は聞いたことがあった	25	41.0%	32.6%
知らなかった	20	32.8%	41.3%
無回答	4	6.5%	4.3%
計	61	100.0%	100.0%

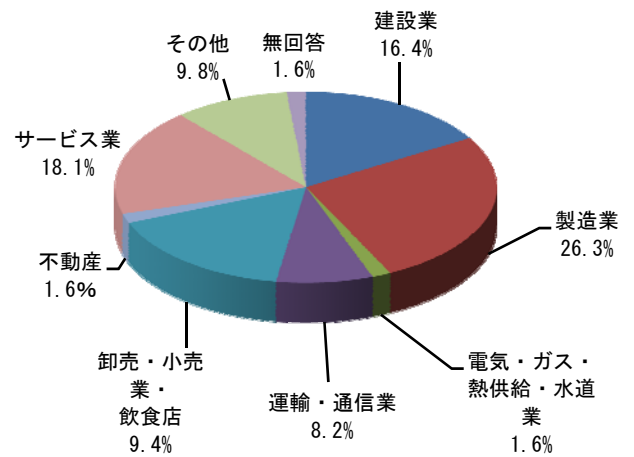


萬弁

F1 【職業】

「製造業」の割合が高く、次に「サービス業」の割合が高くなっている。前回と比べ「建設業」が減少し「サービス業」が増加している。

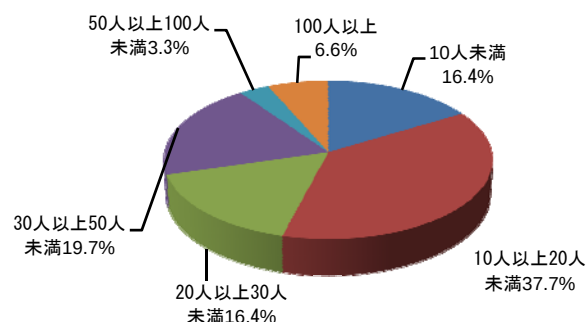
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
建設業	10	16.4%	26.7%
製造業	16	26.3%	26.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1.6%	0.0%
運輸・通信業	5	8.2%	6.7%
卸売・小売業・飲食店	10	16.4%	15.6%
金融・保険業	0	0.0%	4.4%
不動産業	1	1.6%	0.0%
サービス業	11	18.1%	6.7%
その他	6	9.8%	8.9%
無回答	1	1.6%	4.4%
計	61	100.0%	100.0%



F2 【従業員数の性別雇用形態数】

10人以上20人未満の割合が高くなっている。

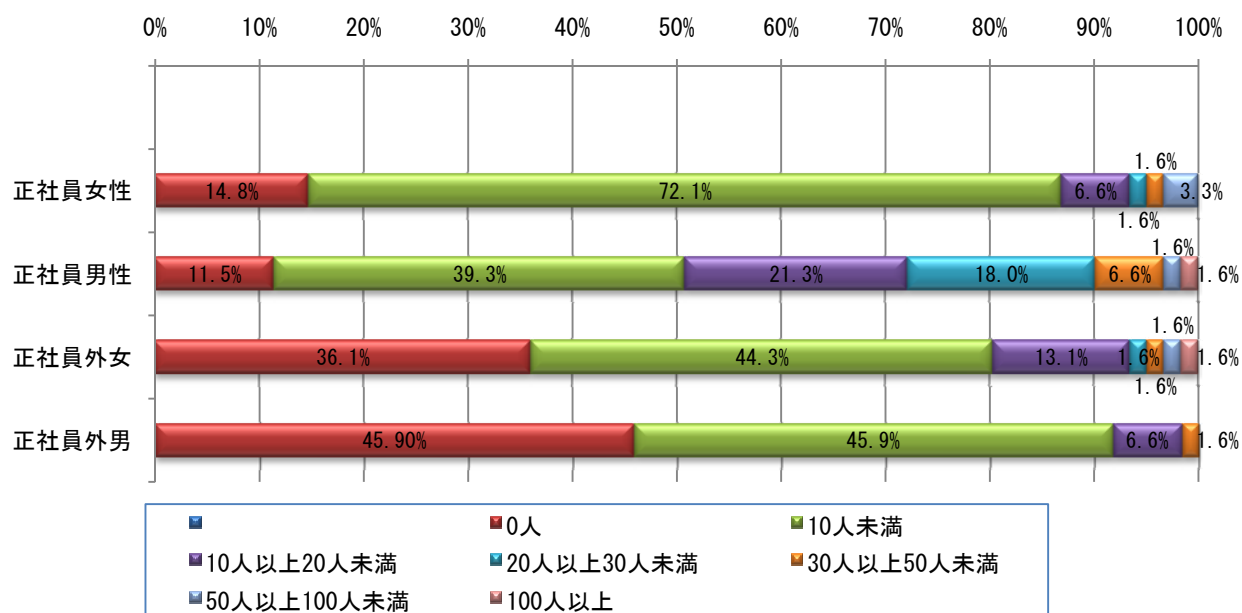
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
10人未満	10	16.4%	26.7%
10人以上20人未満	23	37.7%	22.2%
20人以上30人未満	10	16.4%	8.9%
30人以上50人未満	12	19.7%	17.8%
50人以上100人未満	2	3.3%	15.6%
100人以上	4	6.6%	8.9%
計	61	100.0%	100.0%



○ 【従業員数の性別雇用形態】

「正社員女性」は「10人未満」の事業所が大半を占め、「0人」の割合は14.8%となっている。「正社員男性」は「10人未満」、「10人以上20人未満」の割合が高くなっている。「正社員以外の女性及び男性」は「10人未満」の割合が高く、「0人」の割合は、女性36.1%、男性45.9%となっている。

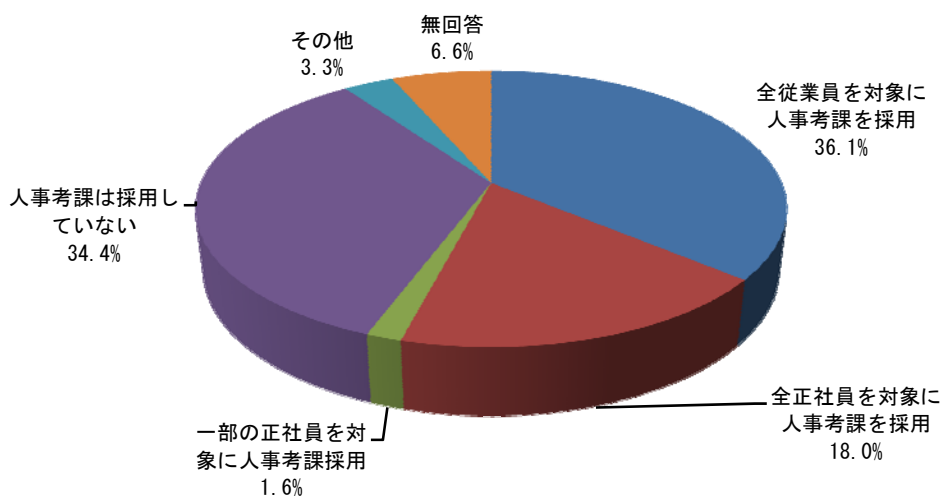
選択項目	正社員女性			正社員男性			正社員以外女性			正社員以外男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	9	14.8%	20.0%	7	11.5%	4.4%	22	36.1%	35.6%	28	45.9%	46.7%
10人未満	44	72.1%	64.4%	24	39.3%	42.2%	27	44.3%	46.7%	28	45.9%	31.1%
10人以上20人未満	4	6.6%	8.9%	13	21.3%	24.4%	8	13.1%	6.7%	4	6.6%	8.9%
20人以上30人未満	1	1.6%	4.4%	11	18.0%	13.3%	1	1.6%	4.4%	0	0.0%	4.4%
30人以上50人未満	1	1.6%	0.0%	4	6.6%	11.1%	1	1.6%	0.0%	1	1.6%	2.2%
50人以上100人未満	2	3.3%	2.2%	1	1.6%	2.2%	1	1.6%	2.2%	0	0.0%	6.7%
100人以上	0	0.0%	0.0%	1	1.6%	2.2%	1	1.6%	4.4%	0	0.0%	0.0%
計	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%



F 3 【人事考課】人事考課を採用されていますか。

「全従業員を対象に人事考課を採用」、「人事考課は採用していない」の割合が高くなっている。前回と比べると「全従業員を対象に人事考課を採用」の割合が高くなった。

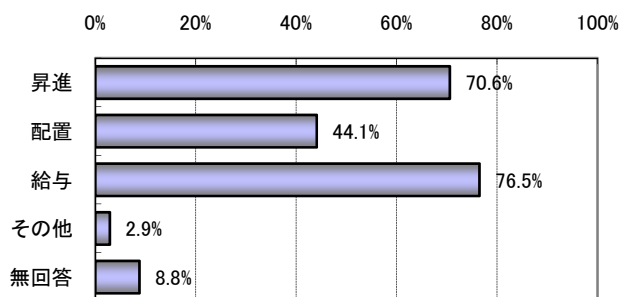
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
全従業員を対象に人事考課を採用	22	36.1%	20.3%
全正社員を対象に人事考課を採用	11	18.0%	31.3%
一部の正社員を対象に人事考課を採用	1	1.6%	4.7%
人事考課は採用していない	21	34.4%	35.9%
その他	2	3.3%	3.1%
無回答	4	6.6%	4.7%
計	61	100.0%	100.0%



F 3 - 2 【人事考課採用活用内容】採用されている場合（１～３を選んだ場合）、それをどのようなことにご活用されていますか。

「給与」、「昇進」の割合が高くなっており、前回より人事考課が多く活用されている。

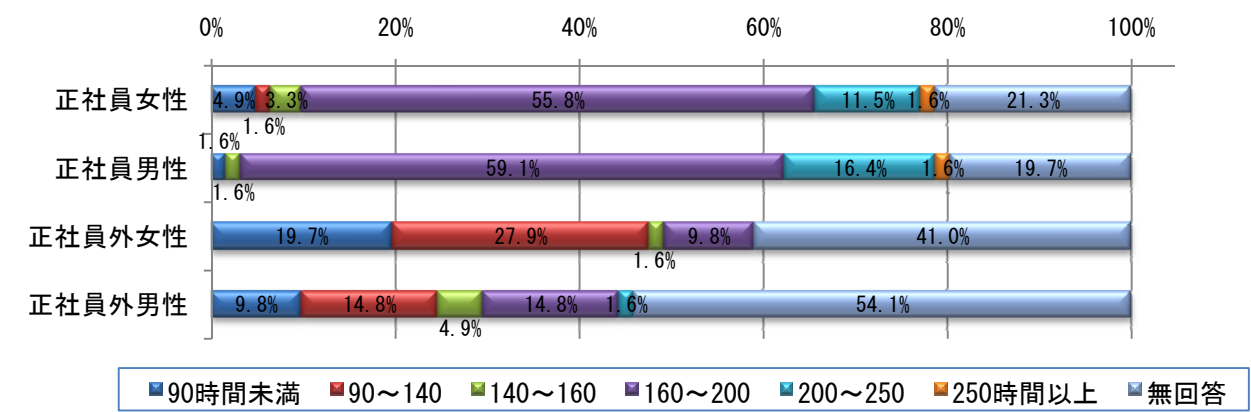
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
昇進	24	70.6%	37.8%
配置	15	44.1%	15.6%
給与	26	76.5%	51.1%
その他	1	2.9%	4.4%
無回答	3	8.8%	8.9%
計	69	202.9%	117.8%



F 4 【1 か月の平均労働時間】

「正社員」では、男女ともに「160 時間以上 200 時間未満」の割合が高くなっている。「正社員以外女性」では、「90 時間以上 140 時間未満」、「90 時間未満」の割合が高くなっている。「正社員以外男性」では、「160 時間以上 200 時間未満」、「90 時間以上 40 時間未満」の割合が高くなっている。前回と比べると「正社員女性」の「160 時間以上 200 時間未満」の割合が高く推移し、「正社員男性」との差が短縮された結果となったが、男性従業員のほうが、労働時間が長い傾向にあることに変わりはない。

	正社員女性			正社員男性			正社員以外女性			正社員以外男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
90 時間未満	3	4.9%	13.3%	1	1.6%	17.8%	12	19.7%	20.0%	6	9.8%	17.8%
90～140	1	1.6%	0.0%	0	0.0%	0.0%	17	27.9%	20.0%	9	14.8%	8.9%
140～160	2	3.3%	6.7%	1	1.6%	4.4%	1	1.6%	8.9%	3	4.9%	2.2%
160～200	34	55.8%	44.4%	36	59.1%	46.7%	6	9.8%	13.3%	9	14.8%	20.0%
200～250	7	11.5%	13.3%	10	16.4%	17.8%	0	0.0%	2.2%	1	1.6%	0.0%
250 時間以上	1	1.6%	0.0%	1	1.6%	4.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
無回答	13	21.3%	22.2%	12	19.7%	8.9%	25	41.0%	35.6%	33	54.1%	51.6%
計	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.4%

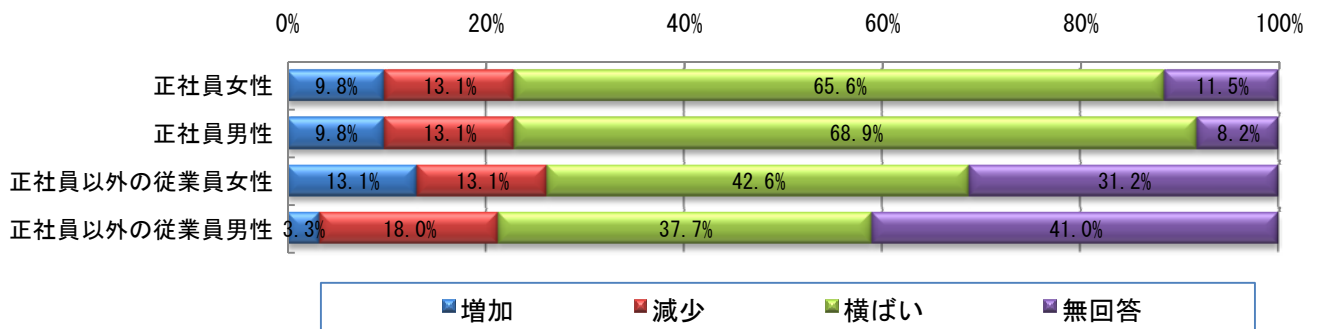


F 5 【最近 2 ～ 3 年程度の男女別労働時間の増減傾向】

全ての従業員で「横ばい」の割合が高くなっている。前回と比べると「正社員以外女性及び男性」の「横ばい」の割合が低くなり、女性では「増加」、男性では「減少」の割合が高くなっている。

選択項目	正社員女性			正社員男性			正社員以外の従業員女性			正社員以外の従業員男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
増加	6	9.8%	17.8%	6	9.8%	24.4%	8	13.1%	11.1%	2	3.3%	8.9%
減少	8	13.1%	11.1%	8	13.1%	17.8%	8	13.1%	20.0%	11	18.0%	11.1%
横ばい	40	65.6%	57.8%	42	68.9%	55.6%	26	42.6%	51.1%	23	37.7%	53.3%
無回答	7	11.5%	13.3%	5	8.2%	2.2%	19	31.2%	17.8%	25	41.0%	26.7%
計	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%

F 5 【最近 2 ～ 3 年程度の男女別労働時間の増減傾向】



(2) 募集・採用

【問 1】貴事業所では、過去 5 年間に従業員や派遣の募集・採用を何名ずつ行っておられましたか。

○正社員 女性

過去 5 年間では、「正社員女性」を採用していない事業所が大半を占めている。次いで「1 人以上 5 人未満」の割合が高くなっている。

選択項目	平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0 人	52	85.2%	52	85.2%	52	85.2%	50	82.0%	50	82.0%
1 人～5 人	7	11.5%	6	9.9%	7	11.5%	9	14.8%	10	16.4%
5 人～10 人	2	3.3%	3	4.9%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
10 人以上	0	0.0%	0	0.0%	2	3.3%	1	1.6%	1	1.6%
計	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%

○正社員 男性

「正社員男性」においても過去 5 年間採用していない事業所の割合が高い。次いで「1 人以上 5 人未満」の割合が高くなっている。

選択項目	平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0 人	46	75.5%	44	72.2%	37	60.7%	40	65.6%	42	68.9%
1 人～5 人	13	21.3%	13	21.3%	20	32.8%	17	27.9%	16	26.2%
5 人～10 人	1	1.6%	3	4.9%	3	4.9%	3	4.9%	3	4.9%
10 人以上	1	1.6%	1	1.6%	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%
計	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%

○パート等 女性

過去 5 年間では、「パート等女性」を採用していない事業所が大半を占めている。

選択項目	平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0 人	56	91.9%	55	90.2%	51	83.6%	48	78.7%	50	82.0%
1 人～5 人	3	4.9%	2	3.3%	6	9.9%	8	13.1%	8	13.1%
5 人～10 人	1	1.6%	3	4.9%	3	4.9%	3	4.9%	1	1.6%
10 人以上	1	1.6%	1	1.6%	1	3.3%	2	3.3%	2	3.3%
計	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%

○パート等 男性

過去5年間では、「パート等男性」の採用していない事業所が大半を占めているが、採用は増加傾向にある。

選択項目	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	59	96.7%	55	90.2%	56	91.8%	54	88.5%	49	80.3%
1人～5人	0	0.0%	4	6.5%	2	3.3%	5	8.2%	9	14.8%
5人～10人	2	3.3%	2	3.3%	2	3.3%	2	3.3%	3	4.9%
10人以上	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
計	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%

○派遣 女性

過去5年間では、「派遣女性」を採用していない事業所が大半を占めている。

選択項目	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	60	98.4%	59	96.7%	60	98.4%	59	96.7%	60	98.4%
1人～5人	0	0.0%	2	3.3%	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%
5人～10人	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	1	1.6%
計	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%

○派遣 男性

過去5年間では、「派遣男性」を採用していない事業所が大半を占めている。

選択項目	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	59	96.8%	60	98.4%	60	98.4%	60	98.4%	60	98.4%
1人～5人	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5人～10人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10人以上	1	1.6%	0	0.0%	1	1.6%	1	1.6%	1	1.6%
計	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%

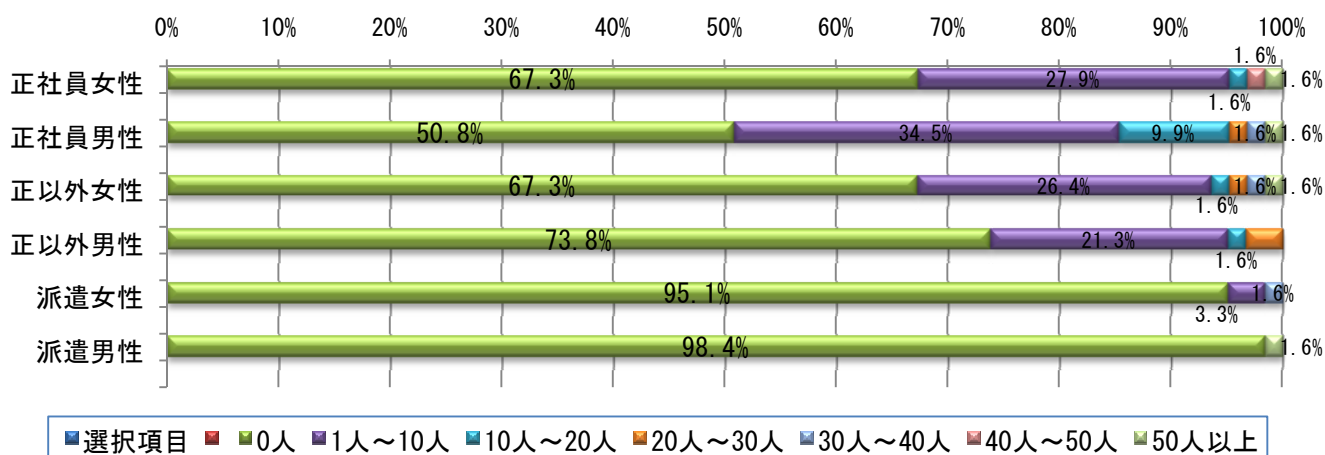
○5年間合計

過去5年間の合計の採用人数としては、「正社員男性」の割合が最も高く、次いで「正社員女性」、「正社員以外の女性」の割合が高くなっている。前回とほぼ同様の結果となった。

《今回の結果》

選択項目	正社員女性		正社員男性		正以外女性		正以外男性		派遣女性		派遣男性	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	41	67.3%	31	50.8%	41	67.3%	45	73.8%	58	95.1%	60	98.4%
1人～10人	17	27.9%	21	34.5%	16	26.4%	13	21.3%	2	3.3%	0	0.0%
10人～20人	1	1.6%	6	9.9%	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
20人～30人	0	0.0%	1	1.6%	1	1.6%	2	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
30人～40人	0	0.0%	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
40人～50人	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
50人以上	1	1.6%	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
計	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%	61	100.0%

○ 5 年間合計



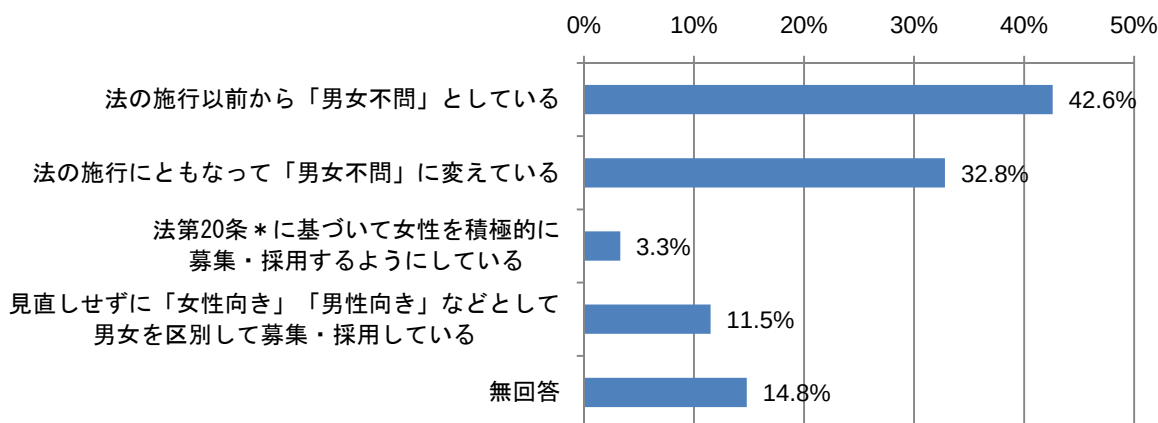
【問 2】貴事業所では、改正男女雇用機会均等法の施行（平成 11 年 4 月 1 日付け施行、以下「法」と記しています。）をうけて、従業員の募集・採用に際して、どのように対応されていますか。

「法の施行以前から『男女不問』としている」、「法の施行に伴って『男女不問』に変えている」の割合が高くなっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
法の施行以前から「男女不問」としている	26	42.6%	46.7%
法の施行にともなって「男女不問」に変えている	20	32.8%	40.0%
法第 20 条＊に基づいて女性を積極的に募集・採用するようにしている	2	3.3%	15.6%
見直しせずに「女性向き」「男性向き」などとして男女を区別して募集・採用している	7	11.5%	13.3%
無回答	9	14.8%	4.4%

※用語解説

法第 20 条には、「国は、男女労働者間に事業上生じている格差を解消するため、積極的な取り組みを講ずる事業主に対し、相談その他の援助を実施する」と規定されています。

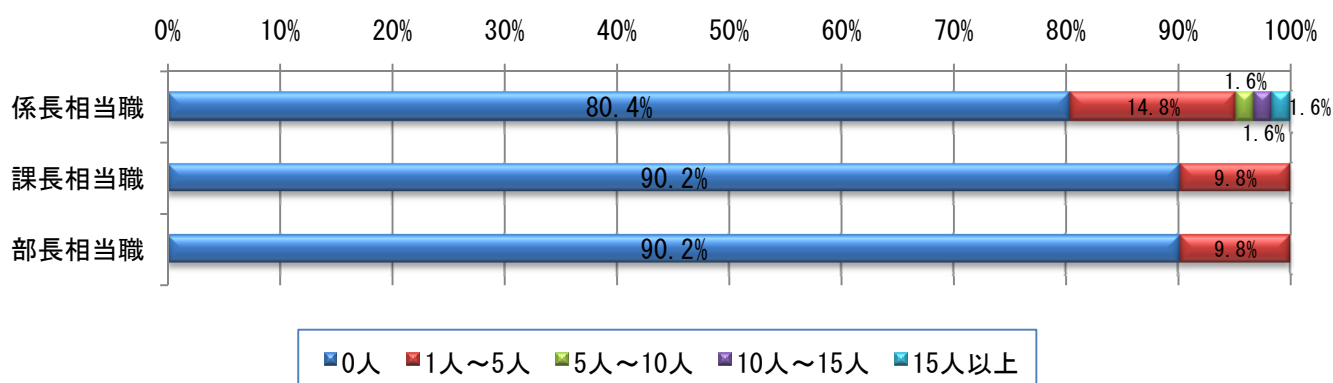


【問3】貴事業所における係長相当職以上の管理職の男女別人数をご記入下さい。

○女性

女性の管理職がいない事業所が大半を占めている。「係長相当職」で「1人以上5人未満」が20%となっているものの、上位の職位ほど割合が低くなっている。前回とほぼ同様の結果となった。

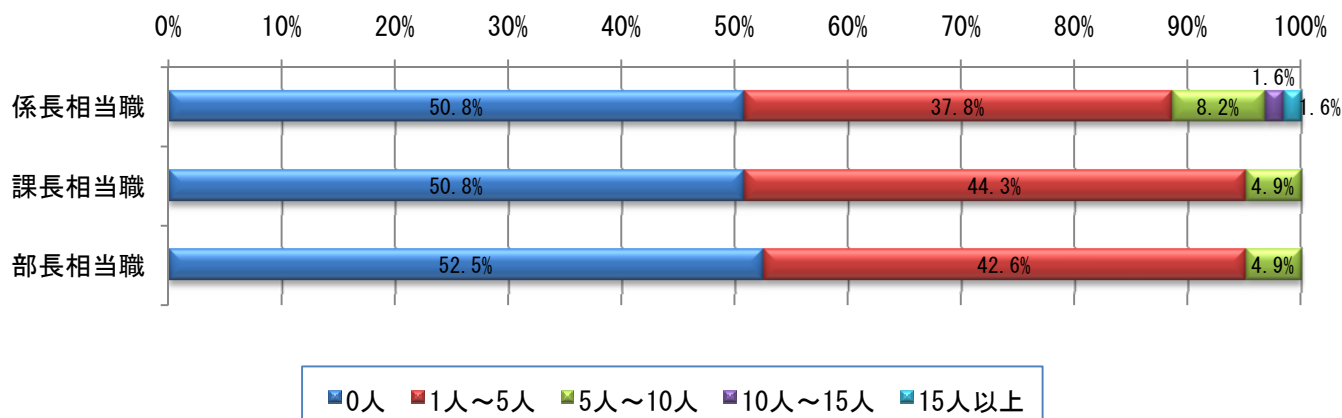
選択項目	係長相当職			課長相当職			部長相当職		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	49	80.4%	77.8%	55	90.2%	95.6%	55	90.2%	95.6%
1人～5人	9	14.8%	20.0%	6	9.8%	4.4%	6	9.8%	4.4%
5人～10人	1	1.6%	2.2%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
10人～15人	1	1.6%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
15人以上	1	1.6%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%



○男性

各職位において「1人以上5人未満」の割合が高くなっている。

選択項目	係長相当職			課長相当職			部長相当職		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	31	50.8%	44.4%	31	50.8%	31.1%	32	52.5%	40.0%
1人～5人	23	37.8%	46.7%	27	44.3%	48.9%	26	42.6%	51.1%
5人～10人	5	8.2%	4.4%	3	4.9%	17.8%	3	4.9%	8.9%
10人～15人	1	1.6%	0.0%	0	0.0%	2.2%	0	0.0%	0.0%
15人以上	1	1.6%	4.4%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%

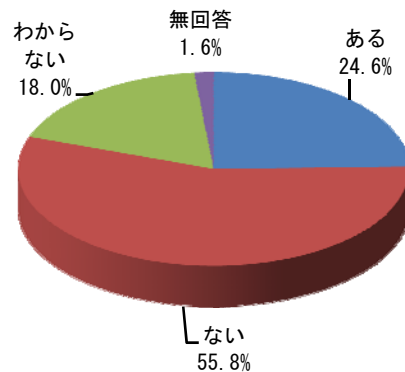


(3) 配置・昇進

【問4】貴事業所で女性の管理職を増やそうとした場合、課題となることはございますか。

「ない」の割合が55.8%、「ある」の割合が24.6%となっている。前回より「ない」は9.1%増加、「ある」は8.7%減少している。

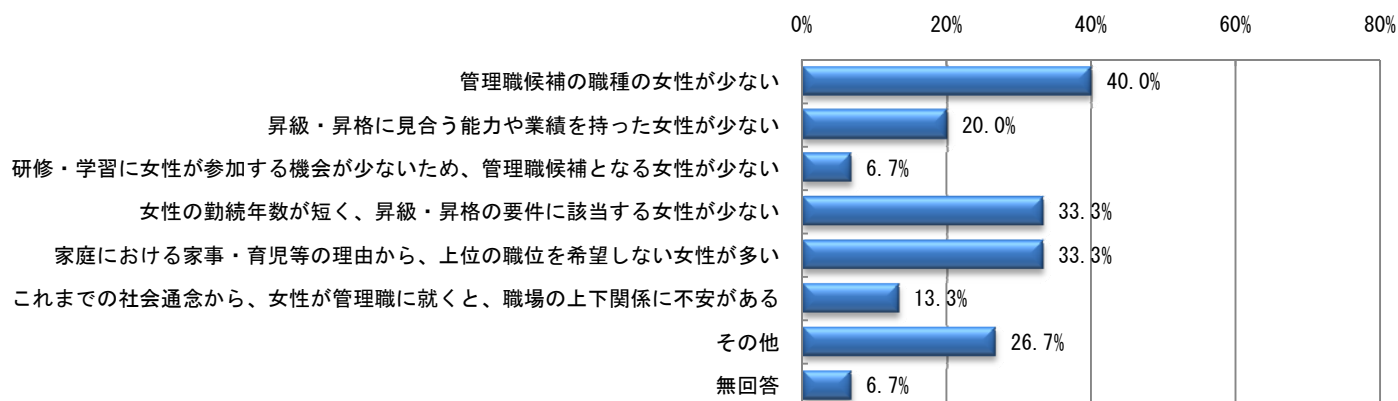
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
ある	15	24.6%	33.3%
ない	34	55.8%	46.7%
わからない	11	18.0%	20.0%
無回答	1	1.6%	0.0%
計	61	100.0%	100.0%



【問4-2】「ある」を選ばれた方 課題は具体的にどのようなことですか。（あてはまるもの全て）

「女性と男性とでは就いている職種が異なり、管理職候補の職種の女性が少ない」の割合が高くなっている。

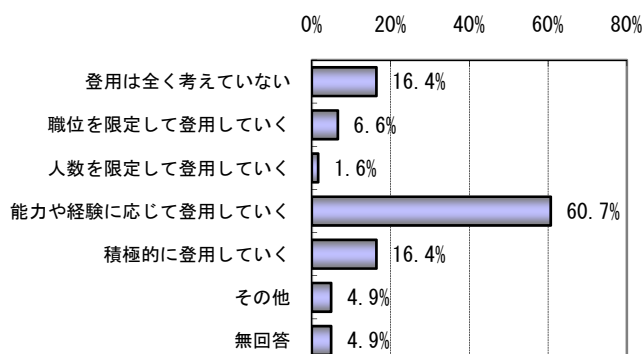
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
女性と男性とでは就いている職種が異なり、管理職候補の職種の女性が少ない	6	40.0%	46.7%
昇級・昇格に見合う能力や業績を持った女性が少ない	3	20.0%	40.0%
管理職になるための研修・学習に女性が参加する機会が少ないため、管理職候補となる女性が少ない	1	6.7%	13.3%
女性の勤続年数が短く、昇級・昇格の要件に該当する女性が少ない	5	33.3%	33.3%
家庭における家事・育児等の理由から、上位の職位を希望しない女性が多い	5	33.3%	40.0%
これまでの社会通念から、女性が管理職に就くと、職場の上下関係に不安がある	2	13.3%	0.0%
その他	4	26.7%	20.0%
無回答	1	6.7%	0.0%
計	27	180.0%	193.3%



【問５】貴事業所では、女性の管理職の登用についてどのようにお考えですか。（あてはまるもの全て）

「能力や経験に応じて登用していく」が最も高くなっているが、前回より割合は減少している。「積極的に登用していく」の割合が大幅に増加している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
登用は全く考えていない	10	16.4%	15.6%
職位を限定して登用していく	4	6.6%	1.6%
人数を限定して登用していく	1	1.6%	0.0%
能力や経験に応じて登用していく	37	60.7%	68.8%
積極的に登用していく	10	16.4%	7.8%
その他	3	4.9%	1.6%
無回答	3	4.9%	7.8%
計	68	111.5%	109.5%



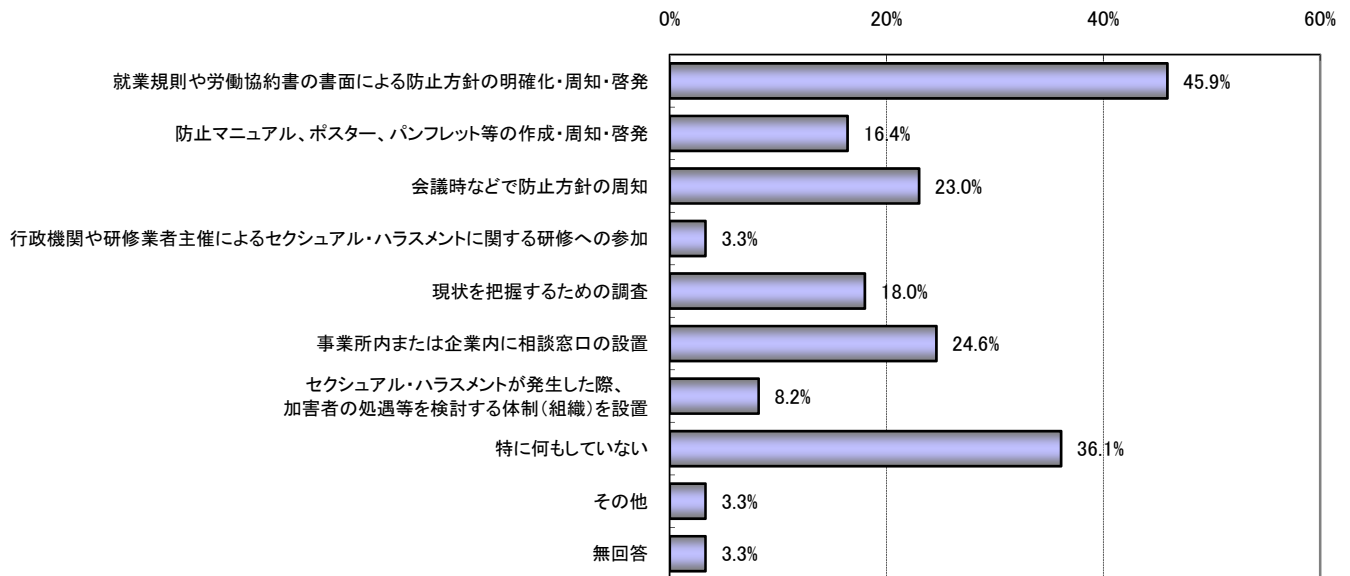
（４）セクシュアル・ハラスメント防止に向けた取り組み

【問６】改正男女雇用機会均等法の施行にともない、事業主にセクシュアル・ハラスメントを防止するための配慮が義務付けられました。

事業所内において、現在実施している、もしくは今後実施を考えている取り組みはございますか。（あてはまるものすべて）

「就業規則や労働協約書の書面による防止方針の明確化・周知・啓発」が高い割合となっているが前回と比べると5.2%減少し、「現状を把握するための調査」「事業所内または企業内に相談窓口の設置」の割合が高くなり、何らかの対応を実施していることがうかがえる結果となった。

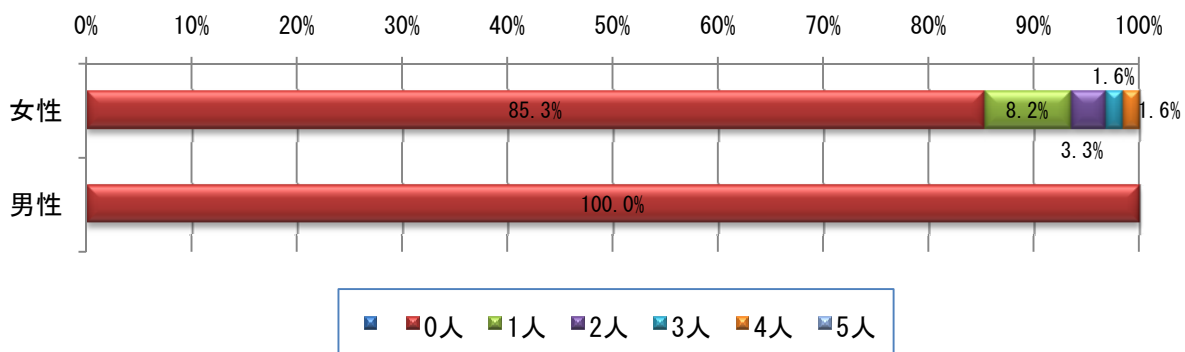
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
就業規則や労働協約書の書面による防止方針の明確化・周知・啓発	28	45.9%	51.1%
防止マニュアル、ポスター、パンフレット等の作成・周知・啓発	10	16.4%	15.6%
会議時などで防止方針の周知	14	23.0%	28.9%
行政機関や研修業者主催によるセクシュアル・ハラスメントに関する研修への参加	2	3.3%	4.4%
現状を把握するための調査	11	18.0%	8.9%
事業所内または企業内に相談窓口の設置	15	24.6%	15.6%
セクシュアル・ハラスメントが発生した際、加害者の処遇等を検討する体制（組織）を設置	5	8.2%	8.9%
特に何もしていない	22	36.1%	35.6%
その他	2	3.3%	4.4%
無回答	2	3.3%	2.2%
計	111	182.1%	175.6%



(5) 育児・介護等

【問7】貴事業所において、育児休業または介護休業の制度を利用した人数について下記の表にご記入下さい。

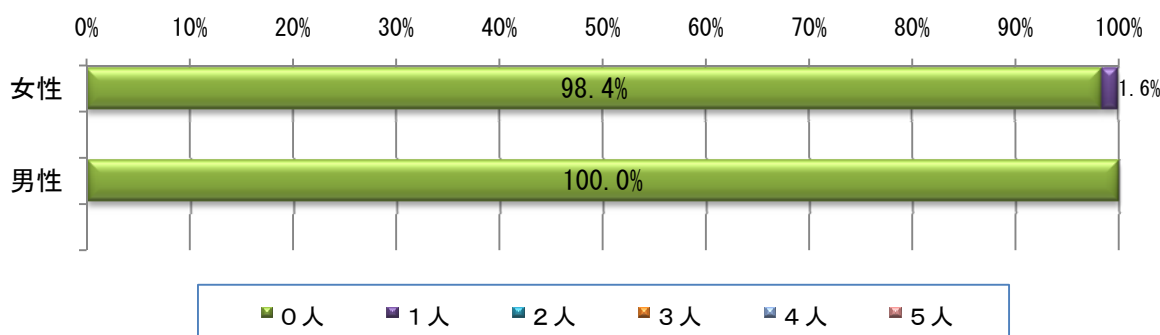
選択項目	女性			男性		
	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	52	85.3%	88.9%	61	100.0%	100.0%
1人	5	8.2%	6.7%	0	0%	0%
2人	2	3.3%	2.2%	0	0%	0%
3人	1	1.6%	2.2%	0	0%	0%
4人	1	1.6%	0.0%	0	0%	0%
5人	0	0.0%	0.0%	0	0%	0%
計	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%



○介護休業

介護休業を取得した人は女性で1人だけだった。男性はいなかった。

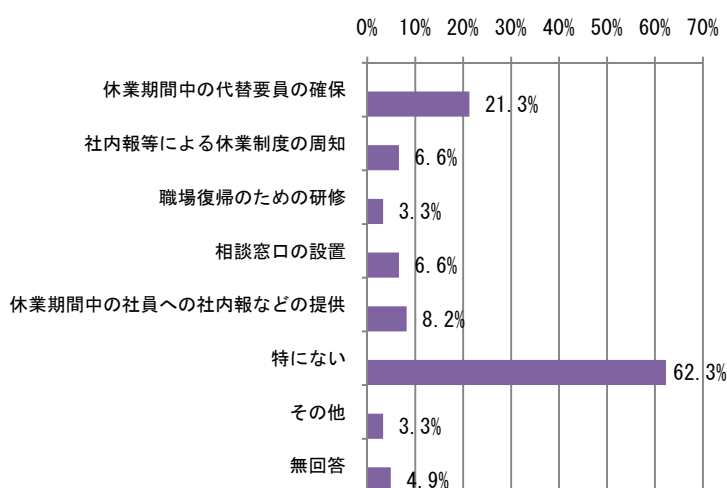
選択項目	女性			男性		
	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	60	98.4%	100.0%	61	100.0%	100.0%
1人	1	1.6%	0.0%	0	0.0%	0.0%
2人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
3人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
4人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
5人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%



【問8】貴事業所では、育児休業や介護休業制度の実施に伴う次のような取り組みをされていますか。（あてはまるもの全て）

「特にない」の割合がもっとも高く前回は13.4%上回っている。次いで「休業期間中の代替要員の確保」が高くなっている。前回とほぼ同様の結果となった。

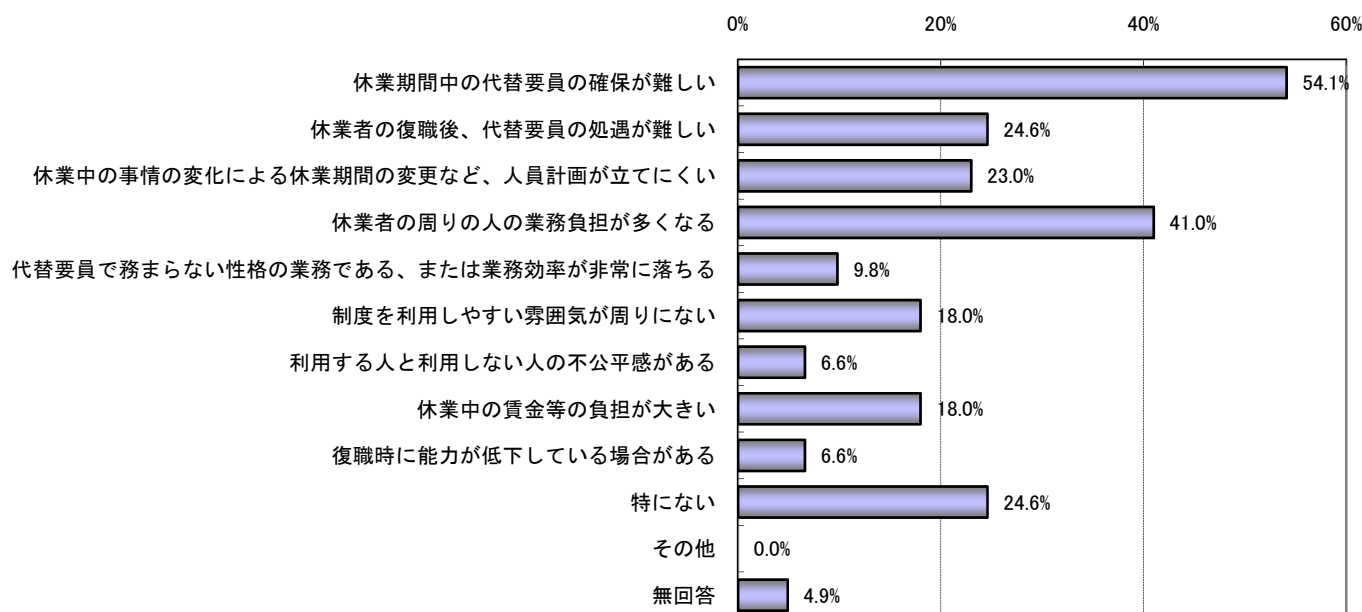
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
休業期間中の代替要員の確保	15	21.3%	26.7%
社内報等による休業制度の周知	9	6.6%	20.0%
職場復帰のための研修	0	3.3%	4.4%
相談窓口の設置	1	6.6%	6.7%
休業期間中の社員への社内報などの提供	4	8.2%	6.7%
特にない	33	62.3%	48.9%
その他	5	3.3%	4.4%
無回答	6	4.9%	8.9%
計	73	116.5%	126.7%



【問9】貴事業所において、育児・介護休業制度の普及にあたって、特に問題と思われることはございますか。
(3つ以内)

前回同様、「休業中の代替要員の確保が難しい」、「休業者の周りの人の業務負担が多くなる」の割合が高くなっている。「休業者の復職後、代替要員の処遇が難しい」「制度を利用しやすい雰囲気が周りにない」「休業中の賃金等の負担が大きい」の割合が前回より増加している。

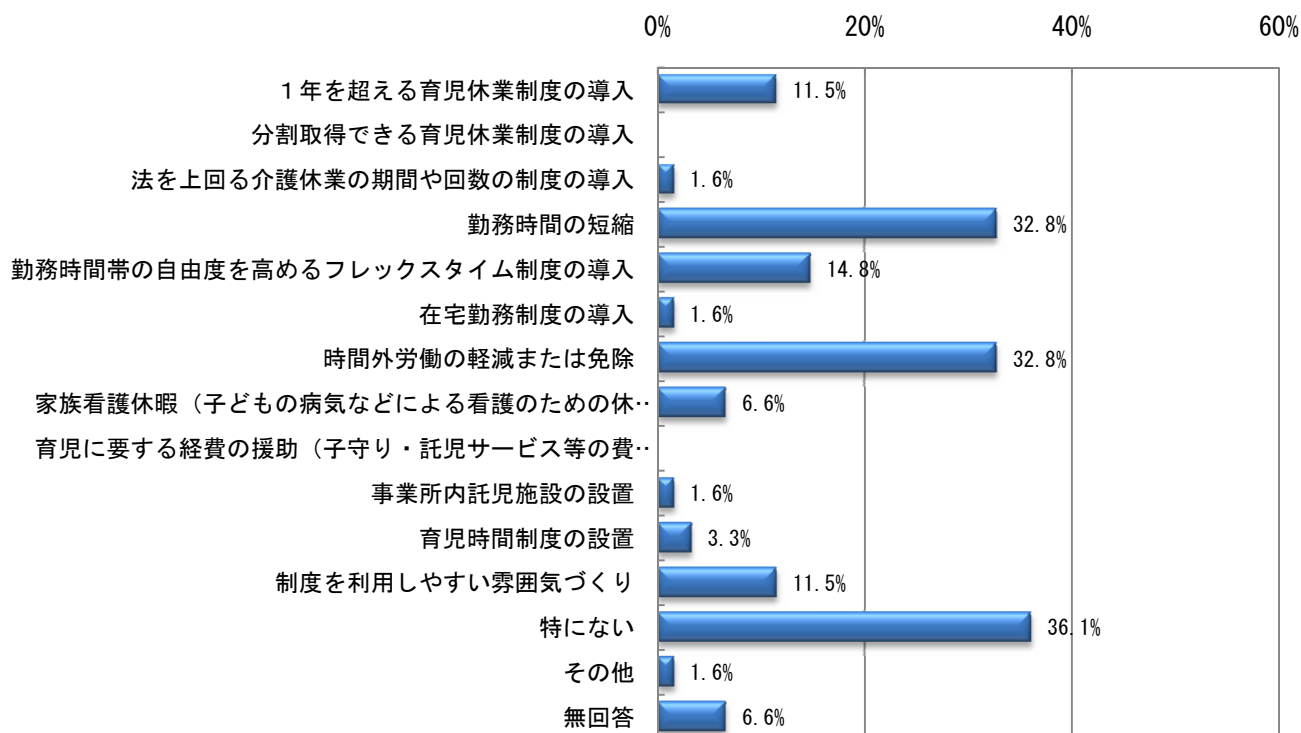
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
休業期間中の代替要員の確保が難しい	33	54.1%	48.9%
休業者の復職後、代替要員の処遇が難しい	15	24.6%	11.1%
休業中の事情の変化による休業期間の変更など、人員計画が立てにくい	14	23.0%	24.4%
休業者の周りの人の業務負担が多くなる	25	41.0%	44.4%
代替要員で務まらない性格の業務である、または代替要員では業務効率が非常に落ちる	6	9.8%	13.3%
制度を利用しやすい雰囲気が周りにない	11	18.0%	11.1%
利用する人と利用しない人の不公平感がある	4	6.6%	4.4%
休業中の賃金等の負担が大きい	11	18.0%	13.3%
復職時に能力が低下している場合がある	4	6.6%	2.2%
特にない	15	24.6%	28.9%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	3	4.9%	2.2%
計	141	231.2%	204.4%



【問１０】貴事業所において、子どもの養育や家族の介護といった、家庭での責任を果たしながら働き続けられる環境づくりに関する取り組みはございますか。（あてはまるもの全て）

「特にない」が最も高く、次いで、「勤務時間の短縮」、「時間外労働の軽減又は免除」の割合が高くなっている。前回と比べると、「勤務時間の短縮」「勤務時間の自由度を高めるフレックスタイム制度の導入」の割合が大幅に高くなった。

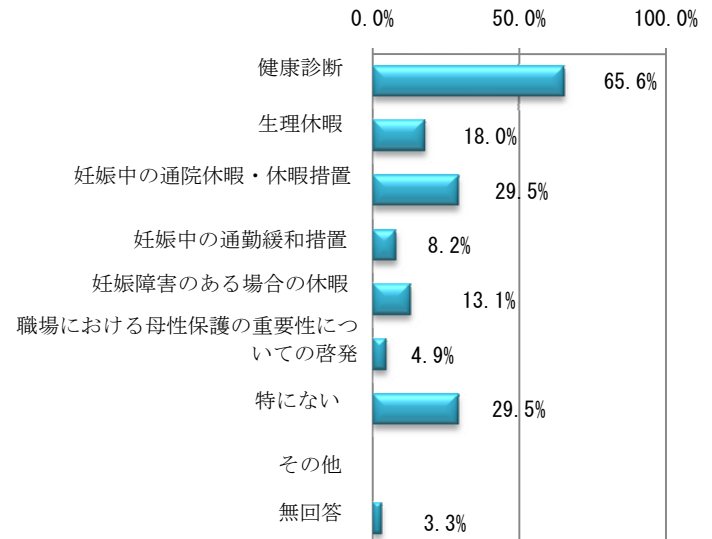
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
１年を超える育児休業制度の導入	7	11.5%	24.4%
分割取得できる育児休業制度の導入	0	0.0%	6.7%
法を上回る介護休業の期間や回数の制度の導入	1	1.6%	0.0%
勤務時間の短縮	20	32.8%	22.2%
勤務時間帯の自由度を高めるフレックスタイム制度の導入	9	14.8%	8.9%
在宅勤務制度の導入	1	1.6%	0.0%
時間外労働の軽減または免除	20	32.8%	31.1%
家族看護休暇（子どもの病気などによる看護のための休暇）制度の導入	4	6.6%	13.3%
育児に要する経費の援助（子守り・託児サービス等の費用の援助など）	0	0.0%	0.0%
事業所内託児施設の設置	1	1.6%	4.4%
育児時間制度の設置	2	3.3%	4.4%
制度を利用しやすい雰囲気づくり	7	11.5%	15.6%
特にない	22	36.1%	33.3%
その他	1	1.6%	4.4%
無回答	4	6.6%	6.7%
計	99	162.4%	175.6%



【問１１】貴事業所において、母性保護の観点からどのような配慮をされていますか。（あてはまるもの全て）

「健康診断」が最も高く、次いで「妊娠中の通院休暇・休暇措置」、「特にない」の割合が高くなっている。前回と比べると、「生理休暇」の割合が低くなり「特にない」の割合が高くなった。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
健康診断	40	65.6%	68.9%
生理休暇	11	18.0%	28.9%
妊娠中の通院休暇・休暇措置	18	29.5%	22.2%
妊娠中の通勤緩和措置	5	8.2%	11.1%
妊娠障害のある場合の休暇	8	13.1%	13.3%
職場における母性保護の重要性についての啓発	3	4.9%	8.9%
特にない	18	29.5%	20.0%
その他	0	0.0%	2.2%
無回答	2	3.3%	2.2%
計	105	172.1%	177.8%

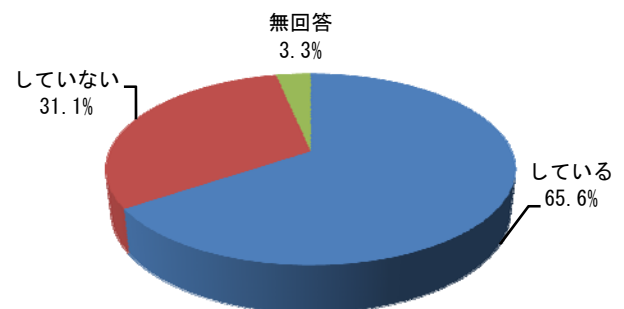


（６）パートタイム等

【問１２】貴事業所では、パートタイム等を雇用されていますか。

６割以上の事業所において、パートタイムを雇用しているが、前回より雇用している事業所の割合が低くなった。

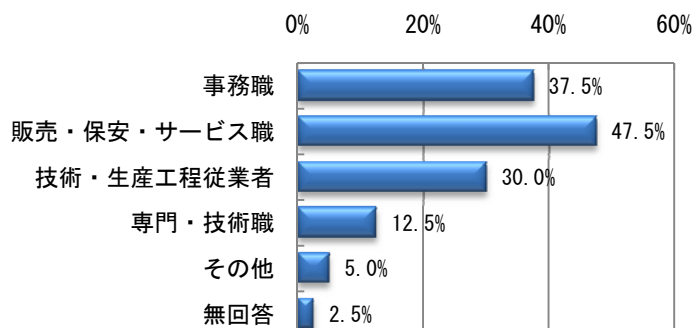
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
している	40	65.5%	71.1%
していない	19	31.2%	28.9%
無回答	2	3.3%	0.0%
計	61	100.0%	100.0%



【問１２－２】「ある」を選ばれた方 雇用している職種について。（あてはまるもの全て）

「販売・保安・サービス職」の割合が最も高く、次いで「事務職」、「技術・生産工程従業員」の割合が高くなっている。前回と比べると、「販売・保安・サービス業」の割合が高くなり「事務職」の得割合が低くなっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
事務職	15	37.5%	43.8%
販売・保安・サービス職	19	47.5%	31.3%
技術・生産工程従業員	12	30.0%	34.4%
専門・技術職	5	12.5%	18.8%
その他	2	5.0%	3.1%
無回答	1	2.5%	3.1%
計	54	135.0%	134.4%

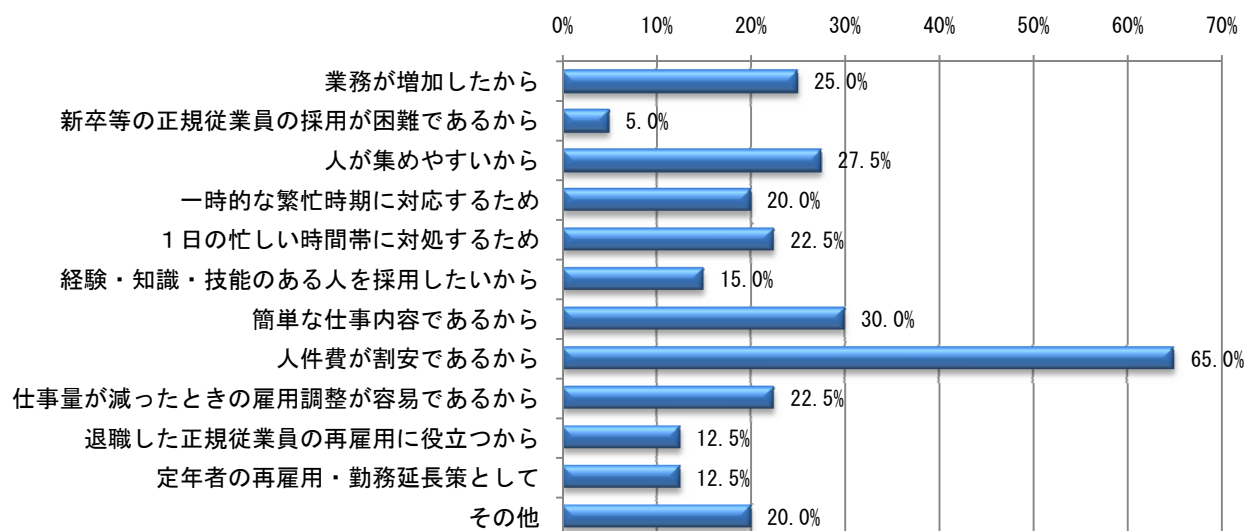


【問１３】パートタイム等労働者を雇用しているのは、どのような理由からですか。（あてはまるもの全て）

「人件費が格安であるから」が最も高く、次に「簡単な仕事内容であるから」「人が集めやすいから」「業務が増加したから」の割合が高くなっている。前回と比べると「退職した正規従業員の再雇用に役立つから」「定年者の再雇用・勤務延長策として」の割合が低くなっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
業務が増加したから	10	25.0%	25.0%
新卒等の正規従業員の採用が困難であるから	2	5.0%	9.4%
人が集めやすいから	11	27.5%	18.8%
一時的な繁忙時期に対応するため	8	20.0%	25.0%
1日の忙しい時間帯に対処するため	9	22.5%	18.8%
経験・知識・技能のある人を採用したいから	6	15.0%	25.0%
簡単な仕事内容であるから	12	30.0%	31.3%
人件費が格安であるから	26	65.0%	50.0%
仕事量が減ったときの雇用調整が容易であるから	9	22.5%	12.5%
退職した正規従業員の再雇用に役立つから	5	12.5%	50.0%
定年者の再雇用・勤務延長策として	5	12.5%	25.0%
その他	8	20.0%	0.0%
計	111	277.5%	290.6%

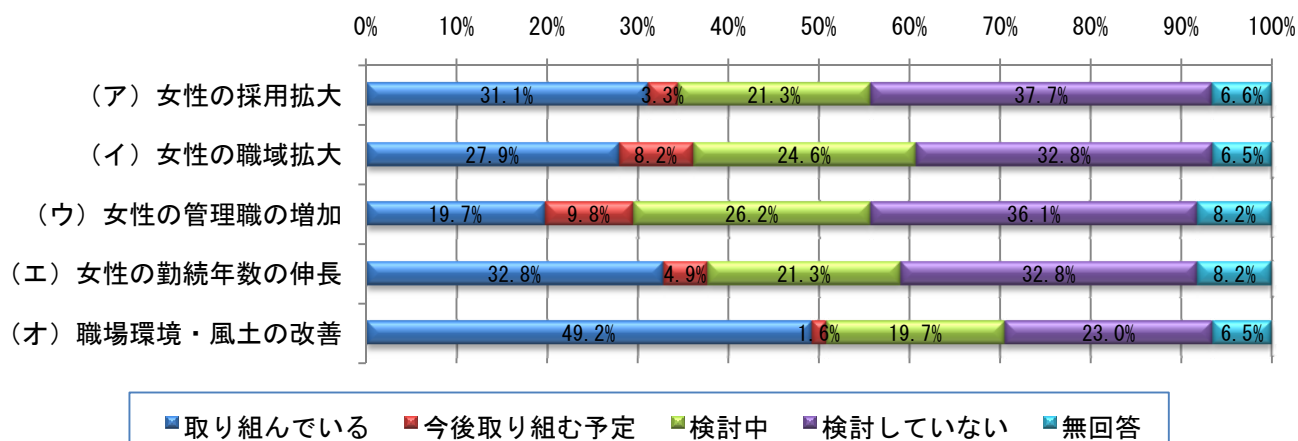
【問 1 3】



【問 1 4】（ア）～（オ）は、男女共同参画社会基本法で定める「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」の取り組み例です。これらに関して、貴事業所では、どのように対応されていますか。

前回と比べると、ほとんどの項目で、「検討していない」事業所の割合が高くなり、「取り組んでいる」の割合が増加したのは、（ア）「女性の採用拡大」のみであった。

選択項目	（ア）女性の採用拡大			（イ）女性の職域拡大			（ウ）女性の管理職の増加			（エ）女性の勤続年数の伸長			（オ）職場環境・風土の改善		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
取り組んでいる	19	31.1%	26.7%	17	27.9%	31.1%	12	19.7%	24.4%	20	32.8%	40.0%	30	49.2%	42.2%
今後取り組む予定	2	3.3%	8.9%	5	8.2%	11.1%	6	9.8%	6.7%	3	4.9%	6.7%	1	1.6%	6.7%
検討中	13	21.3%	17.8%	15	24.6%	26.7%	16	26.2%	31.1%	13	21.3%	26.7%	12	19.9%	22.2%
検討していない	23	37.7%	37.8%	20	32.8%	24.4%	22	36.1%	28.9%	20	32.8%	22.2%	14	23.0%	20.0%
無回答	4	6.6%	8.9%	4	6.5%	6.7%	5	8.2%	8.9%	5	8.2%	4.4%	4	6.5%	8.9%
計	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%	61	100.0%	100.0%

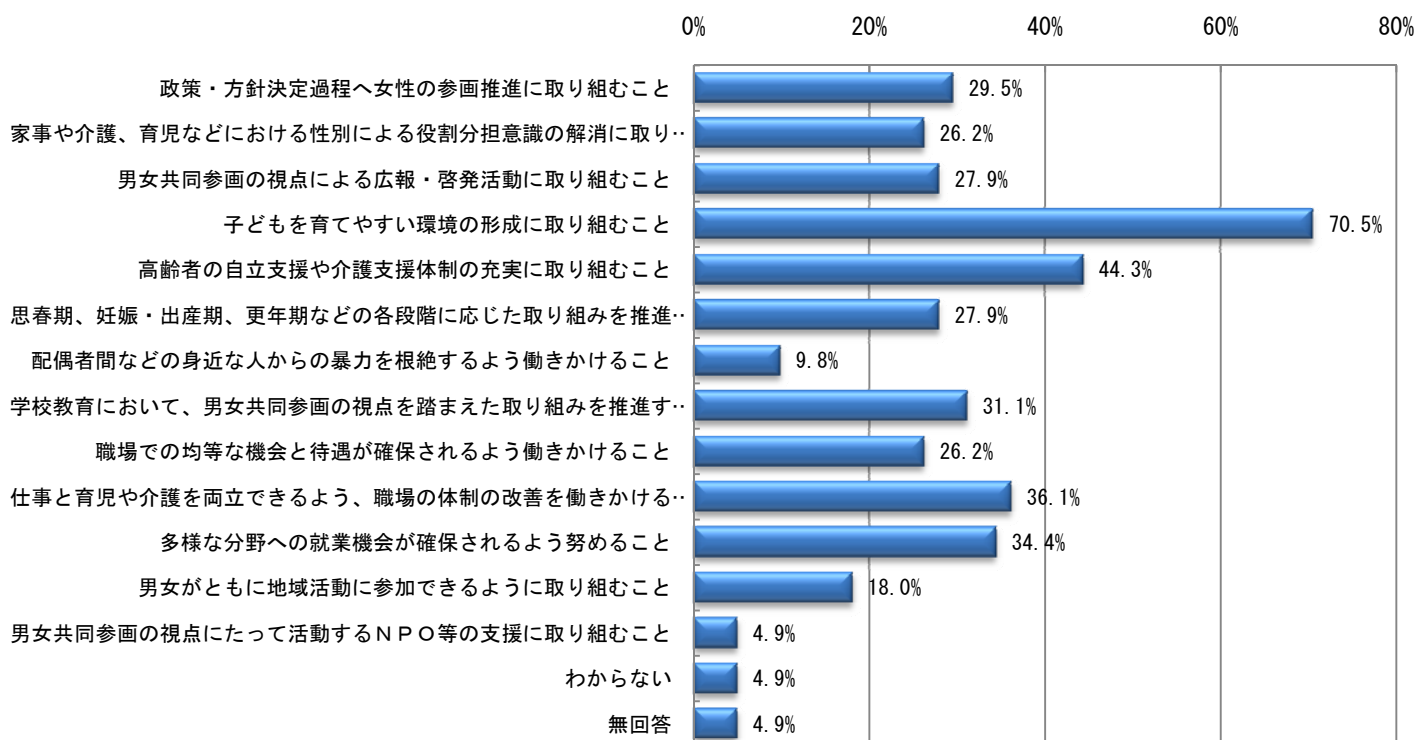


(8) 男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み

【問１５】あなたは、今後、利府町でどのようなことに最も力をいれていくべきだとお考えですか。（５つ以内）

「子どもを育てやすい環境の形成に取り組むこと」割合が最も高く、次に「高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと」の割合が前回より減少はしているが、前回と比べると「家事や介護、育児などにおける性別による役割分担意識の解消に取り組むこと」の割合が低くなった。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
政策・方針決定過程へ女性の参画推進に取り組むこと	18	29.5%	22.2%
家事や介護、育児などにおける性別による役割分担意識の解消に取り組むこと	16	26.2%	42.2%
男女共同参画の視点による広報・啓発活動に取り組むこと	17	27.9%	26.7%
子どもを育てやすい環境の形成に取り組むこと	43	70.5%	57.8%
高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと	27	44.3%	60.0%
生涯をとおして、健康で生活できるよう、思春期、妊娠・出産期、更年期などの各段階に応じた取り組みを推進すること	17	27.9%	33.3%
配偶者間などの身近な人からの暴力を根絶するよう働きかけること	6	9.8%	15.6%
学校教育において、男女共同参画の視点を踏まえた取り組みを推進すること	19	31.1%	26.7%
職場での均等な機会と待遇が確保されるよう働きかけること	16	26.2%	26.7%
仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること	22	36.1%	40.0%
多様な分野への就業機会が確保されるよう努めること	21	34.4%	26.7%
男女がともに地域活動に参加できるように取り組むこと	11	18.0%	28.9%
男女共同参画の視点にたって活動するNPO（民間非営利団体）等の支援に取り組むこと	3	4.9%	4.4%
わからない	3	4.9%	4.4%
無回答	3	4.9%	6.7%
計	242	396.6%	422.3%



4. 「男女共同参画社会」について、ご意見、ご要望等がありましたら、以下にお書きください。

意見	意見・要望
1	基本的には男女の性の違いによる身体的に差があるので、それぞれの立場を理解しつつ、社会通念の伝統や国民性、文化、宗教による多様な人々の考えもあり、すべて否定する事が出来ない難しい問題もある。それぞれの人間性、人権を尊重しつつも日本国の文化伝統も守りつつ少しづつより良き社会環境を整え、男女間の格差を縮めて、人間らしい生活を平等に享受出来る社会の構築が望ましいと思います。
2	町内会等による男女共同参画が良く出来ている部分もあり、コミュニケーションの場を多くする機会を作ってもらいたい。（特に男女共同参画の出来る催事）
3	広報等によりもっとPRすべきである。
4	男・女平等の現実は大変すばらしいことですが、生まれながらに違う男と女、それぞれにしかできないことをお互いに尊重し、認め合えるような人間に育てる教育にも力を入れていただきたいと思います。
5	町で何をしているのかが見えてこない。
6	女性の地位が軽視されている大部分は男性にある。一方女性自身の考え方の問題もある。町ができること、国ができること、町内、家庭内でできることは互いに限界がある。しかしその垣根を少しでも低くする助成はできる。根強く「男女共同」の意識を植え付ける教育、広報活動に工夫してほしい。
7	男女共同参画社会という名の下で、女性優先の意識が高まり、男女平等でなくなっている。
8	今、現在離婚について夫婦で話し合いをしています。法的に話を進めると、非がある夫に有利になり子供は私が育てて行く上で、生活に困難を上げられるのは、おかしいと思う。なぜ、弱い立場の者が法で守られず、立場の強い者が有利になるのか、やはり男女差別からではないかと思う。
9	大正5年に生まれた亡父に育てられた私は青春時代に女はタバコをのむな、女は酒を飲むな、女はパチンコをするな、女はダンスをするな。なんでも女は女はと差別で68年間暮らしてきました。不思議なもので今でもタバコをふかしてる女性を見ると私は別世界の人だと、「偏見」、パチンコをする人を見ると「住む世界は別」、さすがに酒とダンスは「今の時代別に・・。」と思い私のような人間がこの世に居なくなった時、初めて男女平等(世代)が生まれるのかと思うのですが・・・。
10	家庭においても、社会においても、男女に関係なく一部の人間(例えば家庭では妻、地域では役員さんなど)に負担がかからない様にすればいいのでは・・。気使い、話し合い、助け合いが必要だと思います。
11	女性の立場からの設問が多いと思われる。社会情勢が平等な方向になっているので特別なこの企画は必要か？
12	町内では高齢者が多く(私の地域は特に)古い考えで女性が表に立つことを好まない人が多い。これからは、女性もリーダーとなって活躍する場を設けてほしい。以前の町長選挙では「町長は男だ。女はだめだ」と言う老人が多かった。性別だけで決めるものではないと思うが・・。まだ根強いことは確かだ。
13	子供の学校生活における男女の差別化が気になります。現状、女の子を持つ親の意識が特にひどいと思います。悪い事しても「女の子だから」の理由で男の子へ攻撃する様な社会環境でも有り、親が家庭を攻撃してくるような生活環境である。特定の家庭とは思いますが、このような意識を持っているご家庭が有るのは事実なのです。少なくとも学校の教育現場では男女平等を意識して指導すべきで有り、学校から家庭の意識改革を行っていけるような体制が必要ではないでしょうか？（教師のサポート体制を含めた対応）
14	上から目線ではなく相手にとって何が必要とされているかなど、無駄をなくし、必要事項とされている事を計画してほしい。若い人の意見を吸収して欲しい。

番号	意見・要望
15	私意：男と女は、犬と猫ほど違うものである。「NHK、男と女」TV放送。「地図を読めない女・意見を聞かない男」本。参照してください。子供を育て巣(家・家庭)を守るのは女。外でエサ(給料)をとってくるのが男。機能としてその様に数千万年かけてできた、哺乳類の進化系がヒトの雄とメス(女)である。機能が違うのだから、別々のアプローチで家や近隣・周辺社会や町を維持・改善すべきだ。同じ事をするのが「男女共同参画社会」の趣旨ではない！勘違いしないでいただきたい。男女平等といっても、性別では女は非常に優秀な項目が多いにもかかわらず、努力をしない。特定分野で優れていない男は、努力を継続して行っているから、会社内や社会で、男社会になっている。女は会社内でも、家庭でも同じ論理で仕事をしている。機会は均等に与えるべきだが、努力を優先すべきだ。社会(行政)としては、離婚や離職などの後、やり直しがしやすい環境を作れ！行政の仕事だ！世間の会社は役場の職員程ゆるくない！
16	利府町はとても良い所ですが、町内会の集まりなどでは、男性が上女は下という感がしました。(とても強く)
17	個人的な意識改革のみに頼るのではなく、政策の決定(取り分け女性の育児休業等)の際、法律的裏付け、経済的裏付けを明確にすることが肝心だと思う。女性の育児を守るということは個人的努力ではない。制度を悪用される恐れを抱く故に中々解かりやすいスタートが切れないまま、「百年河清を俟つ」スタンスで時間を過ごしていることが多いが、「悪用」については厳正に対処すればよいことだ。
18	私は利府町のパートですが非常に男女の差別がありすぎる様に思われます。本社が東京なので本社の方針従ってるとは思えず仕事の出来高も関係ないようなので嫌気がして来る事もしばしばです。我慢の毎日なので「がん」にかかる人も少なくありません。もちろんストレスからだと思うのですが…。体調崩して休むのもままならない現状です。
19	ここ数年女性の地位は向上していると思います。世の中も女性保護をまず掲げてから男性の方へという方向性が強く感じられます。(父子家庭等)平等というからには逆の見方も充分必要なと(例えば男性が働きやすい為には妻や子の存在はどうか)考えます。まだ学生なので知識不足ですが、よりよい社会になることを願っています。
20	最近は男女共同参画の名のもとに妻や女子の言動が強くなり、夫や男子が被害者になるケースが出ていることが気になります。特に子供の育て方がどちらも責任をもたなくなったことも気になります。
21	結婚した途端、仕事になかなか就けない現状をどうにかしていただきたい。託児所のある会社、幼稚園等の数を増やす、産婦人科病院の数を増やす等 女性(家族)が子供を産みやすい、育てやすい、働きやすい環境をつくってほしい。
22	私は主人と同じ会社で働き、女性で一番高い給料をもらっていました。結婚の時「女性が家にいるのが夢だった。お金の苦労はさせないから」と主人に言われ家庭に入りました。9人家族の三度の食事、店の手伝い、小5の弟、80才以上の舅の叔母の世話。主人の給料は姑へ(ボーナスも)、年二回一泊の里帰り、姑への口答えは一切許されず「奴隷」に近い結婚生活より出発しました。別居しても主人は家事育児一切せず、男は給料を出せばよい、と言う考えで「黙ってやれ、俺は一人なら土方でも食えるんだぞ」が口癖でした。私のような女性を作らないように頑張る女性の幸せの為努力下さい。同級生は「男の一番馬鹿は女の一番上と同じ」と言われ家から出されず、60才台で死にました。よろしく！！
23	私自身障害者なのですが、障害者の男女共同参画社会についても考えて取り上げていただきたいので、今後ぜひよろしくお願い申し上げます。
24	男と女は基本的に異なる！お互い相手を思いやるのが大事だと思う。仕事でも家庭でも！そうすればお互い男だろうが女だろうが自分が何をすればよいかわかってくるはず。そんな社会を作っていくべき！
25	ジェンダー教育がされていない世代の方々に、なかなか難しいとは思いますが、男女分け隔てなく生活出来る時代になって欲しいと思っています。

番号	意見・要望
26	基本計画の概要はそれぞれ分野の基本理念は実に素晴らしい。私達住民は家庭環境、家族構成等の立場からすると、行動範囲に限界があると思う。私にも高齢化の現生活の中でも(もう少し若かったらと...)意欲を感じる…。共同参画計画には大いに期待し、策定委員の皆様方に感謝致します。
27	前にもこのアンケートに答えた記憶があります。もっと広く、他の人の意見も聞いてみて下さい。
28	子供を育てることで、自分自身も子供と共に成長できます。男性も女性も共に人間として子供と共に成長できる喜びと楽しみを家族の中で味わってほしいと思います。利府の緑の多い自然の中で男性の特色、女性の特色を生かし、家庭を基本に社会で活躍してほしい。
29	アンケートとの事で全ページを読み答えていくと何か物足りないと感じました。 町としての事柄や質問の内容が具体的に欠けている様に感じます。ただ、アンケートを取るだけなのか、今後町として、アンケートを集めてどう変えたり参考にされるのか。 アンケートを答えた者として今後を見守りたいと思います。
30	何でも男女平等としないほうが良いと思う。 女性の働く場はもっともっとあったほうが良い。
31	今の社会で男女平等といっても、仕事を持つ女性の負担が増えるだけです。 子供が小さいうちはどうしても女性の負担が多くなるのは仕方ない事なので(男性には出産や授乳はできないので)それならば子供がいても女性が働きやすい社会を作してほしい。
32	男女平等ではあっても男らしさ、女らしさを失うような取組みは良くない
33	確実に実行可能な行動から取り組むこと。意識や習慣を改める教育を啓発などから～。
34	私の職場が町外なので職場に関する回答が有効か不明ですが、記入しておきました。
35	私が働いている時、育児の負担などで(特に病児保育の不備)辞めていく有能な女性を何人も見ていました。とても残念でした。若い頃フェミニズムの運動が盛んでしたが、現在は後退している様に思います。テレビの番組などでも、女性を単に性的な商品としてしか扱われていないと感じることが多々あります。バラエティ番組などはひどいものです。
36	男性の育児参加への基盤がいくら整備されても、実際の現場では休暇を「取れない」「取りづらい」等役に立っていないのが現状のようです。
37	地域活動という言葉の定義をして下さい。それとも町内活動のことですか？ 私個人は町内以外もっと広い地域でボランティア活動をしています。
38	地域的に希望が持てず、地域活動の参加する意欲がわきません。何年後かわかりませんが、少しでも地域的に魅力ある町内になってほしいと思います。利府町民になっても何のメリットがな事が残念です。
39	専業主婦の状態になり9年です。そろそろ仕事を・・・と思いながらも、なかなか踏ん切が付きません。なぜならば、身近にサポートしてくれる人(主に祖父母)がいる訳でもなく、サポートしてくれる場所(納得して預ける事ができる、と言う意味も含めて)がある訳でもないからです。今の状態の学童では正直もの足りなさを感じます。(広さ、時間、サービス?)子供と一緒に過ごせる時間は長い人生の中でみるとごくわずかな時間です。専業主婦ではダメなのでしょうか？今回のアンケートを見ますと、そんな気持ちにすなりました。
40	全て同じ立場になる事は平等ではないと思います。もちろん無理ですし…。各々の役割を認め、助け合い、協力し合っていく事が平等になってくると思います。 両親で忙しい家庭のお子さんは寂しそうです。できれば小学校の低学年まではお母さんが働かないで家にいてほしいです。 金銭的に働かなきゃいけない場合は仕方ないし、子供も分かっているようですが…。せめて 小1までは・・・とと思っています。
41	人の育った家庭環境や時代の変化などで世代間で考え方が大きく異なると思います。従って短時間の解決は難しいので長期計画を立て取り組む必要があると思います。

番号	意見・要望
42	毎年一步つづ前進してほしいです。よろしくお願いします。
43	住み良い社会にするため「利府町男女共同参画基本計画」は大いに進められることを期待します。
44	女性も仕事を持つことで、社会に一員としての自覚も出るような気がします。そのためには子供のころから親や学校での教育も大事だと思います。
45	男は男、女は女の特長があるので、分けるのは別にいかまわないと思います。ただ本人がそれに逃げ込むことをしないで積極的に生きて行こうと思えばいいと思います。女性だったら、やさしさをみんなに与えるようにして、でも困ったら男性に頼るみたいな感じが理想だと思います。人間はやさしくされれば、やさしく接したくなるものです。いろいろ広報や企画書にお金を使うのではなく現実的にケアセンターや保育所を1つ建てて、いろいろ負担の重なる女性の肩の荷をひとつおろして頂ければ女性の強いストレスもなくなると思います。そのような大きな仕事(目に見えること)を利府町には求めます。
46	「男女共同参画社会」の件のみならず、利府町にはチェック機構が無いことで、各所に横暴者が〇〇(漢字判読不明)に立ち回っている。随所に本気で変革や躍進を目指すならばこの点を常に正常な道を進む体制を整えることがスタートラインではないでしょうか。
47	差別は悪であるが、区別は必要です。そこをはきちがえない周知広報が大切です。
48	・限界集落。 ・人口の流入する都市部でも共同体の衰退、学校と地域住民のかかわりは減り、父母会などの組織も参加率が減少。 ・家族構成の変化、都市構造の変化、共同生活よりも個人優先する価値観の変化などの希薄化 ・行政が担うようなが期待されるようになったという変化は無視できない。治安の維持は司法や警察が共同体の相互扶助機能の低下など。
49	今後、利府町民1人1人が参加しお互いに意見の交換などを色々な場で発言出来るような場を設けて地域活動に活かしてもらいたい。
50	六法に直接触れ感じたことを率直に述べてみます。社会情勢に鑑み家庭生活での一例を挙げてみますと、子育てや教育の面で一抹の不安を感じてしまいます。同法3条から第7条までは基本理念が読み取れます。内第4条の中には「固定的な性別役割分担」の事が出てきてます。この部分ですが、どうも間違ったとらえ方で一般的に流れている帰来がするのです。男女各々特性があり、男でなければ出来ないこと、言い換えればその方がふさわしいこと、女性でなければ有効に発揮出来ないこと、ふさわしいということってあるのではないですか？ このことが曖昧のまま、ごたごたと一般に流れているということです。法はこれまでの概念を否定してません。注意して施行してほしいといってます。この辺のところを行政の力で修正指導をお願いしたいのです。
51	女性の人権、権利、社会に対して共同で生活するのは良いと思いますが、日本人の女性の良さは無くさないでほしい。
52	男女共同参画社会について広報等にて町民にもっと解りやすくPRする必要があると思います。町職員の方々と町民の考え方にギャップがあるのではないのでしょうか。町民の目線で接してほしい。管理職の人々は特に気配り要します。役場に行って感じました。
53	男女共同参画社会の基本は男女平等らしいが、平等とは何を言うのかは意見が分かれるところと思う。設問の中に「役割分担意識の解消に取り組むこと」とあるが、適材適所・役割分担という言葉があるように資格や能力はそれぞれ違う。現在社会情勢を見るに、自己責任・自助努力が欠けているのではないと思われる。一例だが大阪市は税収6,000億円の半分は生活保護費と言う惨状(予備2,863億円で、毎年申請が3,000件)という。生活保護費がいくらもらえるかを確認して離婚する人もいるとか。徒競争でみんなが、手をつないでゴールインするのが平等なのか、DNAの異なる人間をロボットにする必要はどこにもない。
54	私は大学で性別役割分業や男女共同参画社会について勉強しています。勉強しているともっと早くから知りたかった事実もあります。学校教育の中で、少しでも取り入れる事は大切だと思います。

番号	意見・要望
55	趣旨は何となくわかりますが、概要版を何度か読み返しました。実現はどの程度迄可能なのだろうか、と。「男女の固定的性別役割分担意識にとらわれる事なく」とありますが、体の仕組みの違いは絶対あると思いますが…。その上でいろいろな施策がとられ、男女平等の社会が出来る様、個人としても努力が必要だと思います。
56	生活の主体は仕事による収入があつての事。今後は高齢化も進み仕事を70才いや80才までしていかなければ生きていけないかも知れません。こんな高齢者に仕事はありますか？ 定年を過ぎ60才、年金を受給するまでの5年間は何としても仕事を探さなければならぬし、この年齢では…。私が会社経営者であればやはり若い者で、将来を確立出来る者を選ぶだろうし。公共の何らかの仕事を考えてほしい。私もあと3年で60才、定年です。
57	「共同参画」というのも重要であると思うが、男・女それぞれの特色というものを生かせる社会・地域づくりを目指して行く事が必要ではと思う。
58	広報・啓発活動の一つとして、例えば男性のお料理教室や夫婦で参加できる赤ちゃんのお世話指導（沐浴やおむつ替えなど）を土日に開催されればいいと思う。（土日だと男性も参加しやすい）男性が家庭の中でできることが増えれば「家庭は女性が…」という通念は変わっていくと思う。
59	中途半端な「男女共同参画」ならいらないと思います。男女～社会のこともあることから、表向きは男女誰でも歓迎のような求人情報でも、フタを開ければ女はいらないという事が多々あります。そのため結果的に時間ロスにつながってしまいます。
60	これからは高齢化社会と少子化社会がより一段と進むことが予想され、憲法に定められた人権を保障した社会で楽しく生活することが大切となる。ぜひ共同参画社会を推進する必要があると思います。がんばってください。
61	ここ数年不況による社会現象かとも思いますが、企業では職を失い時間を持て余す人と逆に人手不足で過重労働・低賃金という傾向が見えます。町という一組織でこの日本が抱える大問題を解決するなどとはとても難しい話ですが何か利府町ならではのアイデアや対策を期待します。

男女共同参画基本計画の指標

項 目	平成16年度 (前々回調査)	平成19年度 (前回調査)	平成22年度 (今回調査)	平成22年度 (目標指標)
目標指標1 1. 「男女平等」の意識を高めます。 ・「家庭生活」における平等感	36.2%	36.9%	39.0%	45.0%
・「職場」における平等感	20.6%	25.4%	24.2%	30.0%
・「社会通念」における平等感	11.6%	14.7%	15.7%	30.0%
・「社会全体」における平等感	15.1%	17.1%	16.6%	30.0%
2. 「男女共同参画社会」の認知度を高めます。	32.3%	30.0%	35.6%	70.0%
3. 利府町男女共同参画基本計画の認知度を高めます。	0%	16.1%	18.5%	70.0%
目標指標2 1. 家庭における役割に対する男性の関わりを増やします。 ○夫・夫婦・家族の合計	13.4%	16.7%	17.0%	30.0%
目標指標3 1. 女性委員のいない審議会等をなくします。 ○女性委員のいない審議会等	11 委員会	9 委員会	5 委員会	0 委員会
2. 審議会等における、女性委員の割合を増やします。 ○女性委員の構成比	20.0%	22.5%	20.0%	30.0%